資料１

区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）

～地域の取組み（住民同士の支え合い）～

千葉市保健福祉局健康福祉部地域福祉課

～この資料の見方について～

「支え合いのまち千葉 推進計画」（第5期：令和4（2022）～令和8（2026）年度。以下「現計画」といいます。）は、地域福祉を推進する活動主体により、取組みの体系を「地域の取組み（住民同士の支え合い）」と、「市の取組み（地域福祉の基盤整備のために市が行う取組み）」に区分しています。地域住民の参加と連携により、地域福祉に関する活動を推進・実践する「地域の取組み」は、同計画書の第4章（P43～）（※中間見直し版においては、第4章（P25～））に掲載しており、「区支え合いのまち推進計画（区計画）」として位置づけられています。

策定時計画では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により地域活動が制限されていたことから「具体的な取組み」及び「重点取組項目」が策定されていない区もありますが、各区において実施した取組みについて集計、記載しています。また、各地域の参考となるよう、各区で実践された事例も紹介しています。（※令和5年度に実施した中間見直しを経て、全区において「具体的な取組み」「重点取組項目」を策定済）

計画の構成（第５期千葉市地域福祉計画）　p.39,44

	【第４章】地域の取組み	【第５章】市の取組み
位置づけ	・地域の特性に応じた、住民に身近な計画 ・地域の課題に対応するため、地区部会エリアごとに重点取組項目を定め、様々な主体（地区部会、町内自治会、民生委員・児童委員、赤十字奉仕団、老人クラブ、ボランティア団体、ＮＰＯ、学校・ＰＴＡ、社会福祉事業者など）が協働して策定・推進する計画	基本目標や市としての方向性、取組みを示すことにより、多様な主体とともに、地域の取組みをしっかりと支え、地域住民の地域福祉活動を支援する計画
内容	・住民主体の活動により解決を目指す課題に対する取組み ・地域の課題の解決に向けた、地域の人材と資源を活かした身近な支え合いや健康づくりなどの取組み ・支援が必要な人の日常生活に連動した支援策、取組み	・住民活動の基盤整備に関する取組み ・地域の取組みを進めるために必要な市による支援策 ・分野別計画を横断的につなぐとともに、制度の狭間を埋める取組み ・区域では解決できない福祉課題に対する市域での取組み ・市全域で中長期的な視点をもって進めていくことが必要な取組み（コミュニティソーシャルワーク機能の強化など）

取組テーマ及び視点を参考に策定

取組みテーマ

① 見守りの仕組みづくり
② 支え合いの仕組みづくり
③ 地域のつながりづくり
④ 健康づくり
⑤ 担い手の拡大とボランティア活動の促進
⑥ 福祉教育・啓発
⑦ 相談体制づくり
⑧ 情報提供の充実
⑨ 防災対策を通じた地域づくり
⑩ 防犯対策を通じた地域づくり

視点

① 高齢者、障害者、子どもなどの対象者別の活動から全世代型、共生型への展開
② 企業、学校、社会福祉事業者、ＮＰＯなど多様な主体との連携
③ 身近な地域の居場所（通いの場）における地域住民等による相談体制づくり
④ 地域福祉活動への若者・子どもの参加
⑤ 全世代を対象とした担い手づくり

進捗状況の総括表（各区の最初のページ）

○○区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）総括表

◆基本方針別取組状況

基本方針	取組項目数	取組項目の達成状況	主な取組内容
1		◎ ○ △ × －	
2		◎ ○ △ × －	
		◎ ○	

重点取組項目でない取組みも個票記載可能（任意）

達成状況の評価をしないもの、または困難なものについては「－」に分類

各地区部会エリアの取組項目数の合計（複数テーマにまたがる取組項目の場合は、複数回カウントしています。）

進捗状況の詳細（２ページ目以降）

地区部会エリアの概要

令和５年度の取組項目の実施予定（年度当初に各区が設定）

取組項目に係る長期的な今後の課題と方針

令和６年度に向けた目標又は予定

区が定める基本方針及び取組項目

令和５年度の取組実績・達成状況

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針
○地区部会エリア 【人口・世帯数】 【町内自治会数】 【高齢化率】 【地域の特徴】	1　身近なコミュニティづくりの推進		（任意）				

目　　次

1.　中　央　区…　1 ページ

2.　花　見　川　区…　37 ページ

3.　稲　毛　区…　47 ページ

4.　若　葉　区…　59 ページ

5.　緑　区…　74 ページ

6.　美　浜　区…　86 ページ

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）総括表

◆基本方針別取組状況

基本方針	取組項目数	取組項目の達成状況		主な取組内容
1　身近なコミュニティづくりの推進	85	◎		地域の困りごとを地域住民の手でお手伝いする支え合い活動を9地区部会エリアで実施しているほか、15の地区部会エリアで見守り活動を実施し、その内容も安心カードの配布と声かけから民生委員による訪問、防犯パトロールの際の見守りなど、地区の実情に応じた様々な方法をとっている。 また、地域住民と近隣の大学、行政が地域課題について話し合う活動を持つほか、地域食堂や居場所づくりとしてのこどもカフェ運営など、様々な形でのコミュニティづくりを推進している。
		○		
		△		
		×		
		－	85	
2　交流の場と仲間づくり	102	◎		高齢者のいきいきサロンは16の地区部会エリアで実施しており、シニアリーダー体操やあんしんケアセンター、健康課による講話などを活用して交流と健康づくりの活動を行ったほか、地域での散歩クラブや体操の会なども行われた。 また、子育て世代の交流の場としての子育てサロンも16の地区部会エリアで開催され、その他にも地域のお祭りや盆踊り、スポーツイベントや、地域内の障がい者施設の行事に地域住民が参加し、交流の場づくりを進めた。
		○		
		△		
		×		
		－	102	
3　社会参加の推進	34	◎		地区部会や町内自治会の中から、高齢者が地域の各種行事にスタッフとして参加するほか、障がい者が避難所運営委員会に参加したり、地域のイベントで障がい者施設で作成する物品販売をするなど、さまざまなアプローチで社会参加を推進している。 地域高齢者の社会参加のために、高齢者向けスマートフォン教室を開催するなどの工夫も見られる。
		○		
		△		
		×		
		－	34	
4　地域の福祉力向上、担い手づくり	17	◎		地域内で福祉に関する講座や研修会を企画開催し、福祉活動への理解を深め、新たな担い手育成に努めた。 その講師としてあんしんケアセンターや健康課、警察、消費生活センターなど様々な分野から地域住民の関心を引くテーマで実施したほか、大学や専門学校と連携して学生も地域活動に参加するなど世代を超えた地域の福祉力向上に努めた。
		○		
		△		
		×		
			17	
5　相談体制、情報提供の場づくり	34	◎		地域住民からの個々の相談については町内自治会役員や民生委員が対応するケースが多いが、子育てサロン内で相談コーナーを設置したりする工夫も見られる。 その他、すべての地区で広報紙を発行し、ホームページを運用して情報発信に努める地区や、地域防災マップを作成しそれを活用して情報提供を行う地区なども見られる。
		○		
		△		
		×		
		－	34	
6　福祉教育の推進	17	◎		地区部会が主催するボランティア講座や、小中学校の児童生徒が地域行事にボランティアとして関わったり、専門学校や大学と協働でのイベントを開催したり、わくわくキャンパスや老人クラブと子どもたちとの交流機会づくりなどを通じて、将来を担う子どもたちの福祉教育を推進した。
		○		
		△		
		×		
		－	17	
7　人にやさしい生活環境づくり	34	◎		全ての地区で防犯パトロールやセーフティウォッチャーを実施し、警察による最近の犯罪動向の講座を受講するなど、地域の防犯・安全づくりに取り組んだ。 また、避難所運営委員会を中心とした避難訓練や防災訓練を実施したほか、災害時避難マップの配布や、「子どもの目から見た安全マップ」を作成・配布するなどの活動も見られた。
		○		
		△		
		×		
		－	34	
今年度の振り返り	323	◎	0	国による、新型コロナウイルス感染症の規制緩和により、コロナ禍で縮小を余儀なくされていた地域での行事や活動が回復しつつある状況。 休止した活動の再始動に際して一度離れた活動の担い手確保や、コロナ禍で要介護度が上がってしまった高齢者も多く見られる中、感染症対策など工夫をして活動再開に向けて進む一年であったといえる。
		○	0	
		△	0	
		×	0	
		－	306	

今後の課題と方針	新型コロナウイルス感染症の規制緩和により活動再開が目立つものの、この数年で歳を取り、あるいは要介護度が上がって参加しづらくなった高齢者や、担い手(ボランティア)不足という話も見られる。 今後の地域福祉活動推進のため、感染症対策の徹底と、新たな担い手の発掘や育成が重要になると思われる。 なお、令和5年度までは第4期計画の取組みを参考に、工夫しながら、できることに取り組んでいた(※)ため、令和6年度以降は中間見直し後の「第5期中央区支え合いのまち推進計画」に基づき、地域課題解決のために活動を展開していきます。

※　上記の理由から、中央区は、令和4年度から令和5年度までは実績のみを確認することとし、評価は実施しておりません。
　令和6年度からは、重点取組項目についてはできる限り目標を設定し、評価も実施する予定です。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第１回	8月22日（火）	・第５期中央区支え合いのまち推進計画の具体的な取組みの策定について ・令和４年度の地域活動の取組状況に係るヒアリングの実施について ・今後のスケジュールについて
第２回	3月26日（火）	・令和５年度の地域活動の取組状況について ・福祉まるごとサポートセンターについて ・推進協だより第２７号（案）について ・令和６年度のスケジュール（案）について

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
第27号	3月29日（金）	発行部数：6,706部 主な配布先：町内自治会、図書館、公民館、 コミュニティセンター（市民センター）、生涯学習センター、 男女共同参画センター、市民活動支援センター、いきいきプラザ（センター）

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

世代や分野を超えたつながりの「社協まつり」（中央東地区部会エリア）

　中央東地区部会が主催で開催される社協まつりは、ハロウィンの時期に催され、多くの親子連れが参加して楽しむイベントになっている。
　まつりには地域内の椿森中学校の生徒や千葉女子専門学校の学生がボランティアとして参加し、運営面から地域の交流について肌で感じ学ぶ機会となっている。
　また、地区部会として平時から交流のある、就労継続支援事業所「まあるい広場」もコーナーを設けて参加し、そこで作られた物品やお菓子などの展示即売を行っている。
　多くの参加者でにぎわう社協まつりは、地域の多世代交流から生徒や学生の福祉教育、障がい者との相互理解や地域住民との交流を進めるイベントとして地域内で重要なものとなっている。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　都地区部会

都地区部会エリア

【人口・世帯数】
9,285人、4,919世帯

【町内自治会数】
１０町内自治会

【高齢化率】
25.6%

【地域の特徴】
〇都町、都町１～３丁目を対象としたエリア。千葉市の政令都市移行に伴い、前組織の都加曽利地区部会が、中央区の都町と若葉区の加曽利町に行政区が分かれたことに伴い、分離分割し設立に至った。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	〇
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	〇
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	ー

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	・年数回開催される都地区連協主催の会議を通して、地区連協・スポーツ振興会・社協の3つの団体の行事日程の調整や協力要請等、都地区として連携して活動を続けている。 ・地区部会の中心である民生委員が、各町内自治会とのパイプ役を果たしてくれたことで、コロナ禍で会う機会が少ない中でも活動が順調に進んだ。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・これまでは活動拠点が定まらないことが長年の課題であったが、今後については、活動の拠点として近隣の町内自治会館を提供していただくことが可能になり、今後の活動の幅が広くなり、日程調整もスムーズに進んだ。 ・買物支援対策として、″移動スーパー″を（毎週火曜日10：30～11：00）実施。徐々に利用者の増加がみられ、将来的には、都地区全体に拡充できたらと考えている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　見守り体制をつくる	これまで、見守りの対象者は独居高齢者に特化していたが、コロナ禍でこれまでの生活が一変したことにより、新たに見守りが必要な住民の存在を知り、協力員の増員と同時に体制の再構築をすることで強化を図った。	【重点取組項目】 継続して見守り活動を実施するとともに、見守りにおける体制の強化を図り、災害発生時においても円滑な避難等ができるよう努めたい。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・各町内自治会の中で、自主防災組織を組織している地域では、年に一度防災訓練を実施している。 ・町内自治会によって相違はあるが、９月、１２月に″防火パトロール″を各一週間程度実施している。 ・都地区では「都小学校避難所運営委員会」が設立されており、各町内自治会の防災会関係者が結集し、年に一度、避難訓練を実施している。内容としては、DVDによる防災意識の啓発活動や防災資機材の定期点検等を行っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	5　すべての子どもを地域で育てる	・子育てサロン「いちごミルク」を再開した。「芋ほり大会」についても実施した。 ・都小学校主催の「いちょうまつり」を開催した。 ・地区でのイベントは徐々に再開している。 ・都小学校の行事についても実施している。 ・民生委員主催で開催していた「みやこお楽しみ会」を3月に実施した。 ・「セーフティウォッチャー」の活動や「こども１１０番のいえ」の協力等子どもたちの安全を守る環境は整っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	いきいきサロン（体操教室、手芸教室）を再開した。 ７０歳以上の独居高齢者を対象とした年末慰問については、面談を行う方式に戻し、例年どおり実施した。	【重点取組項目】 いきいきサロンの実施などを通して、地域高齢者の閉じこもりの防止や仲間づくり・社会参加を図る機会を設け、フレイルの予防に努めたい。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・各老人会での活動の違いはあるが、屋外での活動ということで、「グラウンドゴルフ」を継続して実施するとともに、「カラオケ」「お茶会」についても再開した。 ・ラジオ体操は継続して実施している。	予定：前年度同様の取組みを継続するが、カラオケは休止し、お茶会と体操に企画を変えている。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	（№5と同様）	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	9　子育てサロンの充実	子育てサロン「いちごミルク」を再開した。	【重点取組項目】 子育てサロンの実施を通して、地域の子育て中の親子の孤立化を防止し、仲間づくりの場を設けるよう努めたい。
	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・スポーツ振興会主催の行事（運動会、グラウンドゴルフ）を再開した。	予定：前年度同様の取組みを継続するが、グラウンドゴルフは現在休止中。
	11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・都地区の１０町内自治会のうち、都町町内自治会で盆踊り大会を開催した。 盆踊り大会には他の町内自治会の方が参加するなど、交流の幅が広がっている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 盆踊りは1町会から3町会に拡大。
3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・徐々に活動再開に向けて準備を始めており、各分野で活躍する高齢者の方もいる。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	施設訪問を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響などから延期となったものの、引き続き訪問について調整を行っている。 また、施設の運営会議に参加し、地域における受け入れ体制を整えるよう調整を行っている。	【重点取組項目】 施設の運営会議参加や施設訪問等を通して、障がいのある方が地域で福祉活動ができる機会を創出し、社会参加ができるよう努めたい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　都地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
都地区部会エリア	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・「ふれあい食事サービス」については、「テイクアウト方式」に変更した上で、これまで年6回実施した。 ・健康セミナーは、都町リハイム町内自治会として実施した。	予定：テイクアウト方式のふれあい食事サービスは開催回数を6回に戻した。 健康セミナーはあんしんケアセンターとの協働で計測を実施する。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・民生委員が中心となり、個別に対応している。 ・運営会議を開催し、情報共有を図るなど地域での共通認識を持つようにしている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・「都地区部会だより」を年1回発行し、地域の情報と共にコロナ感染対策についても掲載した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 （令和6年度は7月発行予定）
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・敬老懇親会についてはほとんどの町内自治会で再開した。 ・盆踊り大会については、4か所のうち1か所（都町自治会）のみ実施した。 ・都小4・5年生を対象に、「わくわくキャンパス」で地域住民が協力し、米づくり等の体験指導を実施した。 ・都地区では、年に6回の「ふれあい食事サービス」と併せて、「ボランティア研修会」、「健康セミナー」、「出前講座」等を実施していたが、会食形式のため実施できなかった。ただし、「健康セミナー」については、町内自治会単位で実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 盆踊りは1町会から3町会に拡大。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・都地区の10町内自治会が、6つの「防犯パトロール隊」を編成し、徒歩によるパトロールを実施している。 ・「こども110番のいえ」のポスターを掲示することで、こどもたちの安心・安全を見守っている。 ・「移動交番」がみやこ図書館に月2～3回開設されている。	前年度同様の取組みを継続する。
		19　防災体制の充実	（№4と同様）	前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　末広地区部会

末広地区部会エリア

【人口・世帯数】
12,149人、6,973世帯

【町内自治会数】
4町内自治会

【高齢化率】
19.2%

【地域の特徴】
〇長洲の一部、末広、千葉寺町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。
　地区内に末広街道・大網街道の幹線道路や地区を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅がある。
　また、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。また、地域を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅や青葉の森公園があり、それらに伴う道路網の整備のため、最近は、末広街道・大網街道とも交通量が増加している。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	－
広報紙	〇
ボランティア講座	－
ふれあい食事サービス	－
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	〇

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	・民生委員主体の活動でも、問題が発生した場合、町内自治会と連携して解決する体制が整っている。 ・あんしんケアセンター千葉寺と一緒に開催している「地域ケア会議」を開催した。 ・あんしんケアセンター千葉寺主催で、各町内自治会が参加し、地域課題等について情報共有の場となっている「地域住民、福祉・介護専門職交流会」は、フレイル予防の健康体操として実施した。 ・末広中学校、寒川小学校、PTA、民生委員・児童委員、青少年育成委員会等による会議を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・民生委員が主体となって活動している（外出補助・話し相手等）。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　見守り体制をつくる	・町内自治会ごとに、市から「避難行動要支援者名簿」の提供を受け活動している。 ・見守り活動については、3町内自治会が実施している。1町内自治会では、町内自治会と民生委員が連携し活動している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・避難所の運営に携わっている避難所運営委員会のスタッフが、9月に倉庫や備蓄品の確認などの訓練を実施した。	【重点取組項目】 　地域住民参加型の避難所開設訓練の実施を通して、特に支援を必要とする地域住民が災害発生時においても円滑な避難ができるような地域づくりに努めたい。
	5　すべての子どもを地域で育てる	・寒川小学校、末広中学校の児童・生徒の登下校時に、セーフティウォッチャー活動をしている。 ・子育てサロンを1会場、月1回程度実施した。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・いきいきサロンを2会場で月1回程度再開した。 ・老人クラブの活動も再開し、活発化してきている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・地区部会主催で、グラウンドゴルフ大会を10月に実施し、地区全体の交流を深めた。 ・4町内自治会ごとに老人クラブがあり、グラウンドゴルフを開催するなどの活動を実施した。 ・末広公民館で、週1回、シニアリーダー体操を再開した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・地区部会主催で、グラウンドゴルフ大会を10月に実施し、地区全体の交流を深めた。 ・4町内自治会ごとに老人クラブがあり、グラウンドゴルフを開催するなどの活動を実施した。 ・公民館主催で、子どもを対象としたお菓子づくり教室やバルーンアート教室等のイベントを実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	9　子育てサロンの充実	・子育てサロンを1会場、月1回程度実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・地区部会の障害者福祉委員会とボランティア委員会が、オリーブ亥鼻福祉作業所で毎週水曜日と毎月第3火曜日、ミシンかけやハンガー作り等の作業支援を再開した。 　また、心身障害者福祉作業所「青い空」でも月2回、軽作業支援を再開した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・老人クラブが千葉寺保育園を年1回訪問し、交流を図っている。 ・地区内に新設された2か所の保育園が、地域のお祭り等へ参加し、交流を図っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会や町内自治会等の役員は高齢者が中心であり、各団体の行事等ではスタッフとして各種活動をしている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	（№10と同様）	予定：前年度同様の取組みを継続する。
4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・いきいき体操の中で、健康に関する講話を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　末広地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
末広地区部会エリア	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・民生委員と町内自治会役員が連携して対応している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・広報紙を年1回発行している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・寒川小学校4年生を対象に、消防団の小屋の見学と放水体験を年1回実施している。 ・学校からの依頼を受け、地域の歴史を学ぶため、寒川小学校3年生が千葉寺、稲荷神社を見学する際、協力している。 ・いきいき体操の中で、健康に関する講話を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・防犯パトロールを月2回実施した。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		19　防災体制の充実	（№4と同様）	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　寒川地区部会

地区部会エリア

寒川地区部会エリア

【人口・世帯数】
5,779人、3,422世帯
【町内自治会数】
６町内自治会
【高齢化率】
21.2%
【地域の特徴】
〇港町、寒川町、稲荷町を対象としたエリア。JR本千葉駅と蘇我駅の中間に位置している。かつては寒川神社を中心に、川崎製鉄の裏門に沿って栄えた地域で、昔からの住民が多く、かつ一戸建てが多く存在しているためか、住民の転居なども少なく、高齢化が比較的に進行しやすい環境の地域である。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	－
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	－
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	－

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	・地区部会の役員会で、町内自治会会長、民生委員と情報共有を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・今年度も、ボランティア活動研修会は、会場が狭く、新型コロナウイルス感染が懸念されるため中止とした。	予定：ボランティア活動研修会を実施する。
	3　見守り体制をつくる	・6町内自治会すべてにおいて、災害時要支援者のうち、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、目配りや声かけなどの見守り活動を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・前年度同様に、「災害時要支援者名簿」を更新した。 ・各町内自治会より15名程度の参加にて（総人数100名）、災害時要支援者の避難訓練を実施した。同時に、避難所運営委員会の運営マニュアル確認の訓練及び打合せを行った。 ・避難支援体制の充実のための再確認を行った。 ※地区部会主導で寒川地区6町内自治会合同で、実施マニュアル確認の訓練及び打合せを行った。	【重点取組項目】 　災害発生時に備え、「災害時要支援者名簿」を更新するとともに、災害時要支援者の避難訓練等の実施などを通して、災害発生時に円滑な避難ができるような体制づくりに努めたい。
	5　すべての子どもを地域で育てる	・PTA・町内自治会有志・民生委員がセーフティウォッチャーとして、児童の登下校の見守り活動を実施している。 ・寒川保育所の子育てサロンは、例年どおり毎月１回定期的に実施した。 ・寒川小学校の課外授業への参加協力を行った。 ・寒川小学校の「わくわくキャンパス」に地域企業・地域住民が協力した。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・今年度は町民館の建て替えなどはあったものの、いきいきサロンを5会場で実施した。	予定：いきいきサロンを6会場に拡大する。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・各町内自治会で、グラウンドゴルフ大会を実施した。また、ボッチャ大会についても、簡易なルールで実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・寒川小学校１年生の課外授業で、「昔遊び」を地区部会の委員及び地区の有志により実施した。 ・小学校4年生の車椅子体験については、障がい者委員会が中心となり実施した。 ・社会体育指導員の協力で、地域の野球・サッカー・バレーボール等を実施した。 ・寒川小学校で、企業等の協力を得て出前授業を行った。 ・ふれあい社協祭りでグラウンドゴルフ・ボッチャ大会を行った。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	9　子育てサロンの充実	・例年どおり毎月１回実施予定だったが、担い手不足等により毎月はできなかったものの、実施した。	予定：子育てサロンを毎月1回実施する。
	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・数人の障がい者が地域に暮らしており、各町内自治会役員（地区部会役員も含む）や民生委員が地域で見守りを実施した。 ・「ふれ愛社協祭り」に軽度の身体障がいのある方が参加した。	予定：地域で生活する障がい者について、各町内自治会役員(地区部会役員も含む）や民生委員が地域で見守りを実施する。
	11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・子育てサロン開催時に、各町内自治会より高齢者が参加し、交流を図ることができた。 ・「ふれ愛社協祭り」は、規模を縮小して模擬店やグラウンドゴルフ・ボッチャ大会を開催し、世代間交流を行った。 ・お祭り（祭事）は徐々にではあるが再開した。	予定：子育てサロン開催時に各町内自治会から高齢者が参加し交流を図るほか、「ふれ愛社協祭り」やお祭り(祭事）などのイベントを通して世代間交流を図る。
3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会が実施している「いきいきサロン」「ふれ愛社協まつり」等の各種事業に、高齢者がボランティアとして参加した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	（№10と同様）	予定：地域で生活する障がい者について、各町内自治会役員(地区部会役員も含む）や民生委員が地域で見守りを実施する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　寒川地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
寒川地区部会エリア	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・町内自治会ごとに、「いきいきサロン」単位で、市の出前講座などを実施した（全6町内自治会、計6回）。 ・地区部会として、災害時要支援者避難訓練（1回）を実施した。 ・地区部会では、寒川小学校4年生を対象に、車椅子体験講座を年1回実施し、88人の児童が参加した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・主に、町内自治会の役員・組長や部会役員が役割を担っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・年2回社協だよりを発行した。 ・各町内自治会も定例会の内容を回覧板で地域にお知らせしている。 ・防災マップを作成し、活用している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・地区部会では、寒川小学校4年生を対象に、車椅子体験講座を年1回実施し、88人の児童が参加した。 ・敬老会に寒川小学校の有志が参加し、合唱や演奏する機会を設け、活動を通じて福祉の心を育むとともに、寒川小学校の「わくわくキャンパス」に地域住民が協力した。 ・寒川小学校1年生の課外授業では、地区部会が中心となり、昔遊びを教える活動を通じて交流を図った。 ・地区部会が健康講座を年1回開催するとともに、町内自治会ごとに市の出前講座などを実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 地区部会の各サロン（6会場・町内自治会単位）で健康講座を実施する。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・全6町内自治会ごとに、警察の協力を得て防犯パトロールを実施し、防犯意識を高めているが、新型コロナのため、回数・人数を減らして実施した（全6町内自治会）。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。	予定：：前年度同様の取組みを継続する。 ※防犯パトロール：回数や人数を増やして実施。
		19　防災体制の充実	・今年度も災害発生時に備え、地区部会が災害時要支援者の避難訓練を実施するとともに、避難所運営委員会が、6町内自治会合同の防災訓練を参加者を減らして実施した。	予定：今年度も災害発生時に備え、地区部会が「災害時要支援者の避難訓練」と防災訓練を実施する。 また、避難所運営委員会も災害訓練を実施する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　ちば中央地区部会

地区部会エリア

ちば中央地区部会エリア

【人口・世帯数】
17,337人、10,205世帯

【町内自治会数】
２８町内自治会

【高齢化率】
24.6%

【地域の特徴】
〇中央、市場町、長洲の一部、本町、東本町、道場南、鶴沢町、旭町、亀井町、亀岡町、亥鼻、葛城、青葉町の一部を対象としたエリア。
　千葉市の歴史、文化、経済の中枢的な役割を果たしてきた地域で、繁華街と商店街が多く、また、千葉城・青葉の森などの文化・芸術施設も多い。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	－
広報紙	〇
ボランティア講座	－
ふれあい食事サービス	－
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	－

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	・「歌と踊りの集い」の開催に併せて、各町内自治会、民生委員・児童委員、福祉活動推進員、子ども会等の交流を実施した。	予定： ・「歌と踊りの集い」の開催に併せて、各町内自治会、民生委員・児童委員、福祉活動推進員等の交流を実施する。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・「オリーブ亥鼻福祉作業所」が年2回実施している地域交流会に参加している。 ・地域住民の個別相談は民生委員を中心に、地区部会役員や町内自治会で対応している。	予定： ・前年度同様の取組みを継続する。 ※地域交流会の回数は未定。
	3　見守り体制をつくる	民生委員・福祉活動推進員及び町内自治会の協力をいただきながら、個別対応ではあるが見守り活動を継続して実施している。	【重点取組項目】 　日頃のお付き合いの中での見守り活動を通して、災害発生時においても円滑な避難ができるような地域づくりに努めたい。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・3か所の避難所運営委員会で、年1回、地域住民の参加を呼びかけて防災訓練を実施し、防災意識の向上を図っている。 ・一部の町内自治会では、防災に関する出前講座を実施した。	【重点取組項目】 　防災訓練の実施などを通して、特に支援を必要とする地域住民が、災害発生時においても円滑な避難等ができるよう努めたい。
	すべての子どもを地域で育てる	・青少年育成委員会を中心に、小・中学校PTA、子ども会、町内自治会、老人会、地域の事業者等に協力をお願いし「こども110番のいえ」に取り組んでいる。 ・登下校時はセーフティウォッチャーとして児童生徒への見守り・声掛けを継続して実施している。 ・主任児童委員が中心となり、1月より亀井町会館を会場に、小学校の子どもたちの居場所づくりとして「子どもカフェ」をスタートし、月1回程度（学校で市教研のある日に合わせて）実施している。	予定： ・前年度同様の取組みを継続する。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・地区内の町内自治会では住民交流の場として町内自治会館を開放しているところもある。 ・東本町自治会館で、6月からいきいきサロン「東本町茶話会」をスタートし、月1回程度で実施している。	【重点取組項目】 　いきいきサロンの実施などを通して、高齢者が身近なところで、交流する場所と機会の充実を図り、閉じこもりの防止や仲間づくり、社会参加を図る機会を設け、フレイルの予防に努めたい。 いきいきサロンは、本町一丁目町内自治会でも実施する予定である。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・各町内自治会では、地域のスポーツ推進委員と連携して、月1回程度、健康体操や脳トレを実施している。 ・地区部会では、地域のスポーツ推進委員やあんしんケアセンターと協力して、「ボッチャを楽しむ会」を年2回実施し、住民の交流の場を提供している。	予定： ・前年度同様の取組みを継続する。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・子ども会、青少年相談員、育成委員会で小学生対象に「夕涼み会」を実施した。 ・10月に子ども会、スポーツ推進委員、学校が中心となり、地区親子運動会を開催した。 ・12月に青少年相談員が中心となり、クリスマス会を開催した。 ・1月に葛城公民館で、子ども会・青少年相談員・青少年育成委員会による「こども書初め展」同表彰式を開催した。 ・地区部会では、地域のスポーツ推進委員やあんしんケアセンターと協力して、「ボッチャを楽しむ会」を年2回実施し、住民の交流の場を提供している。	予定： ・前年度同様の取組みを継続する。
	9　子育てサロンの充実	・子育てサロンは2会場を使用し、毎月1回各会場で開催しており、参加者から好評をいただいている。	予定： ・前年度同様の取組みを継続する。
	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・「オリーブ亥鼻福祉作業所」が年2回実施している地域交流会に参加している。 ・地区部会が開催している「ボッチャを楽しむ会」には、地域の障がい者にも参加を呼びかけている。 ・「オリーブ亥鼻福祉作業所」で、「封筒の袋詰め」などの作業のお手伝いを3月より実施している。	予定： ・前年度同様の取組みを継続する。 ※地域交流会の回数は未定。
	11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・地域住民の交流の場を提供している町内自治会では、気軽に立ち寄れるように囲碁・麻雀・カラオケ等を楽しめる場を設けていただいている。 ・8月に有志町内自治会合同の盆踊りを小学校で開催しており、地域外からの児童・生徒の参加も認め、世代間、地域間交流を図っている。	予定： ・前年度同様の取組みを継続する。 ・地区部会が開催している「ボッチャを楽しむ会」に、地域の子どもたちにも参加を呼びかける。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　ちば中央地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
ちば中央地区部会エリア	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会や町内自治会の事業・行事の運営に、高齢者である役員が多く参加している。 ・地区部会のボランティア委員会が中心となり、年3回、使用済み切手の整理を行っており、地域のボランティアの活動の場を提供している。 ・一部のシニアクラブの高齢者が、地域活動の一環として、地域の花壇づくりや花壇の管理を行っている。	予定： ・前年度同様の取組みを継続する。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・歌と踊りの集い（敬老会）において、千葉中央警察署と協力し、振り込め詐欺の注意喚起を実施するとともに、「オリーブ亥鼻福祉作業所」の出店協力を行っているが、今年度は日程上の都合がつかず、実施にはいたらなかった。 ・民生委員の高齢者実態調査にあわせて、独自に、聴力・視力などの低下状況について聞き取りを行い、極端に低下している場合は、行政が実施しているサービスを紹介している。	予定： ・歌と踊りの集い（敬老会）において、「オリーブ亥鼻福祉作業所」の出店協力依頼を行う。 ・民生委員の高齢者実態調査にあわせて、独自に、聴力・視力などの低下状況について聞き取りを行い、極端に低下している場合は、行政が実施しているサービスを紹介する。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・民生委員が認知症や振り込め詐欺の啓発を町内自治会で行っている。	予定： ・民生委員や町内自治会を中心に、認知症や振り込め詐欺の啓発を町内自治会で実施する。 ・歌と踊りの集い（敬老会）において、あんしんケアセンターなどが、振り込め詐欺や健康などについての講話を実施する。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	民生委員があんしんケアセンターと協力しながら、個別の相談に対応している。	【重点取組項目】 個別相談への対応するなどを通して相談の機会を増やし、地域での孤立化の防止に努めたい。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・社協だより「きづな」を年3回発行し、地域の各種情報を紹介した。	予定： ・前年度同様の取組みを継続する。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	例年、敬老会の際、小学校、中学校の児童・生徒が参加し、歌や踊りを披露するなどのボランティア体験を通じ、福祉の心を育む機会を設けるとともに、高齢者との交流を図っているが、学校行事等との関係から、今年度も小・中学校の児童・生徒の参加は見合わせた。	【重点取組項目】 敬老会における小・中学生への参加協力を依頼することなどを通して、児童・生徒の福祉学習の機会の創出を図り、将来的なボランティア活動の担い手づくりに努めたい。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・地域内の一部の町内自治会では、時間を定め複数人のチームで防犯パトロールに取り組んでいる。 ・青少年育成委員会でも、防犯パトロールを実施している。	予定： ・前年度同様の取組みを継続する。
		19　防災体制の充実	（№4と同様）	予定： ・前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　中央東地区部会

中央東地区部会エリア

【人口・世帯数】
13,507人、8,518世帯

【町内自治会数】
１６町内自治会

【高齢化率】
24.8%

【地域の特徴】
〇祐光、椿森、道場北、院内、要町を対象としたエリア。
JR千葉駅、東千葉駅、千葉都市モノレール千葉公園駅など交通機関に恵まれ、古くからの一戸建て住宅の他、近年ではワンルームマンションなども増加している。また、地域内には千葉医療センター（旧：国立千葉病院）がある。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	〇
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	〇
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	検討中

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	今年度は地域ケア会議の開催はなかったものの、地域の個別ケースとして地域高齢者の認知症にかかる対応等について、民生委員児童委員、区高齢障害支援課、あんしんケアセンターと協議した。 また、地域で認知症カフェの立ち上げを検討しているグループのサポートについても協議した。	【重点取組項目】 地区部会で地域の認知症に対する理解を深めるため積極的に研修会を開催するとともに、認知症にかかる取組みを行っている施設の見学、調査等を実施したい。 R6年5月に認知症カフェ「お茶の間椿」を実施する。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・基本的には、個別のケースの支援については、町内自治会長、民生委員、あんしんケアセンターを通じて行っている。 ・一部の地域では、ゴミ出し支援を行っている。	予定：前年度同様の取組みを継続するほか、地域のニーズ把握のためのアンケートを実施し、課題の把握と研究とともに支え合い活動について検討する。
	3　見守り体制をつくる	見守り活動については、感染防止策を講じながら例年どおり活動を行った。年4回の各町内自治会での報告会を実施し、その結果をリーダー報告会で報告し、課題や問題点等について協議した。また、ひとり暮らし高齢者に緊急通報システムやあんしん電話を積極的に紹介するなど情報発信に努めた。 さらに、見守り活動について、初期の目的と意義を地域住民に再認識してもらうため、各町内自治会に回覧による周知を図った。	【重点取組項目】 従来の見守り活動を継続しながら、マンネリ化してきている現状を踏まえ、再度原点に戻り、見守り事業の再構築を図る。 具体的には、現在の地域住民のニーズを把握するためのアンケート調査等を実施したい。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・避難所運営委員会（椿森中学校・院内小学校）を設立しているが、全員を収容することは不可能であるため、安全確認が出来たら在宅避難を推奨している。今年度の避難所開設訓練は、中央区の重点訓練会場に指定されたことから椿森中学校避難所運営委員会と中央区役所の合同訓練として8月に実施し、86世帯、94名が参加した。 その他、開設訓練を椿森中学校で1回実施し、運営会議を2～4回開催した。（椿森中学校・院内小学校） また、10月に安否確認訓練を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続し、アンケート調査を実施しての大規模災害時における地域のニーズと課題を把握する。
	すべての子どもを地域で育てる	・セーフティウォッチャーの方々が学校登下校の見守り活動を実施しているほか、わくわくキャンパスでは地域の方々が指導者として活動している。 ・子ども会活動の運営資金確保のため、廃品回収は継続して行っている。 ・民生委員が、椿森中学校区のパトロールを継続して行っている。 ・地区部会では、年6回の「ちびっこひろば」を、奇数月に実施した。 ・椿森7町会連合で、2月3日の節分に椿森公園、翌4日に椿森三丁目公園で「椿森鬼まつり」を実施し、子ども176名、大人95名が参加した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・地区部会では「いきいきサロン」を感染防止策を講じながら、3会場でそれぞれ年4回実施した。また、「ふれあい散歩」も例年どおり6月に実施した。 ・「ふれあい食事サービス」は、3月にテイクアウト方式で開催した。 ・公民館では、高齢者の居場所づくりとしてお手玉づくり等を実施している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・人の集まる活動の「いきいきサロン」や「ふれあい散歩」、「シニアのための健康体操」については、感染防止策を講じながら予定どおり実施した。 「いきいきサロン」は3会場でそれぞれ年4回実施し、「ふれあい散歩」も例年どおり6月に実施した。シニアのための健康体操は6月と11月の2回実施した。一部の町内自治会や老人会では早朝ラジオ体操、グラウンドゴルフ、公民館ではボッチャを行っている。	【重点取組項目】 現在行っている「いきいきサロン」や「ふれあい散歩」、「シニアのための健康教室」を継続するとともに、参加者の意見を取り入れるなど、内容の充実と参加者の増員を図っていきたい。また、地域で行っている他の活動の紹介等を積極的にPRしていきたい。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・地区部会主催「社協まつり」のハロウィンに、多くの親子連れが参加した。また、ボランティアとして椿森中学校の生徒や千葉女子専門学校の学生が運営面等に協力した。 ・地域住民が院内小「わくわくキャンパス」で指導を行っている。 ・スポーツ振興会主催の「連合体育祭」が雨天中止となり、代わりに地域各代表者で室内競技のボッチャを実施した。 ・民生委員児童委員主催の「子どもの広場」を7月に開催し、多くの子どもたちがピザづくりを楽しんだ。 ・地域の子どもたちに節分の豆まきを通して日本の伝統文化を体験してもらうため、椿森7町会が2月3日の節分に椿森公園、翌4日に椿森三丁目公園で「椿森鬼まつり」を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続し、R6年11月の公民館開設50周年イベントにも地区部会として参加する。
	9　子育てサロンの充実	・「ちびっこひろば」は例年どおり5・7・9・11・1・3月の年6回開催した。参加者が低年齢化し参加者の人数も増え、保護者同士の交流がさかんとなり、大変充実した活動ができた。	【重点取組項目】 参加者がより低年齢化したが、参加者がかなり増員となり、参加者同士の交流が活発となってきたことから、それらに適した内容の充実を図りたい。
	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・地区部会では就労継続支援事業所「まあるい広場」に月1回程度訪問し、障がい者と一緒に草取りや清掃、花苗を植えるなどの活動を実施した。 ・社協まつりで「まあるい広場」で作った物品・菓子のコーナーを設け、展示販売を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　中央東地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
中央東地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・各町内自治会が、4年ぶりに誰でも参加できる餅つき、盆踊り、体育祭などの行事を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会の見守り活動などの事業に、高齢者もボランティアとして参加している。 ・一部の老人クラブでは、公園の清掃活動を行っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・障がい者施設「まあるい広場」の障がい者の作品や物品の購入に協力している。 ・民生委員児童委員が「まあるい広場」へ定期的に牛乳パックを届けている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・地区部会の「いきいきサロン」で、あんしんケアセンター及び健康課の健康講座、消費生活センターの消費に関する講座などを実施している。 ・公民館でシニアリーダー体操や健康体操を実施している。 ・公民館が、あんしんケアセンターなどの健康講座を実施している。	予定：前年度同様の取組みを継続し、あんしんケアセンターの協力により認知症に関する講座を開催する。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に民生委員や町内自治会長が対応している。 ・地区部会では「ちびっこひろば」で相談コーナーを設け、乳幼児の健康についての相談を実施している。 ・地区部会が開催している「いきいきサロン」や「ふれあい食事会」で、スタッフが適宜相談に応じている。	予定：前年度同様の取組みを継続するほか、地域への情報提供に地区部会広報紙なども活用する。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・地区部会の広報紙は、年4回発行し、地区部会の活動状況等を紹介している。 ・一部の町内自治会では地域の活動情報等を町会だよりとして発行している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・わくわくキャンパス（院内小学校）で、民生委員や地域住民が協力している。 ・社協まつりでボランティアとして、椿森中学校の生徒会や千葉女子専門学校の学生がボランティアとして参加し、運営面等に協力した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・各町内自治会で防犯パトロールを実施している。 ・移動交番が椿森公園に開設されている。 「こども110番のいえ」や「セーフティウォッチャー」に住民が協力している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		19　防災体制の充実	・避難所運営委員会は、椿森中学校、院内小学校で活動をそれぞれ行っており、今年度の避難所開設訓練は、中央区の重点訓練会場に指定されたことから、中央区役所との合同訓練として8月に実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　東千葉地区部会

東千葉地区部会エリア

【人口・世帯数】
4,016人、2,126世帯
【町内自治会数】
７町内自治会
【高齢化率】
39.1%
【地域の特徴】
〇東千葉を対象としたエリア。
旧軍用地のあとに建設された県営住宅、公務員住宅、マンション、その他の一般住宅などがあり、昔からの住人と新たに流入してきた新しい住人が共存している。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	〇
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	―
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	〇

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	・地域の関係団体が参加する東千葉地区「地域づくり懇談会」において、地域課題について協議している中で課題の共有化が進み、次年度の地域全体の行事予定を策定することができた。 ・各町内自治会長が地区部会役員となっており、年3回の理事会を通じて町内自治会と地域情報の共有を図っている。 ・「ハッピーボランティア東千葉」を継続して実施している。 ・地域住民、千葉大学、千葉市が連携し、地域課題について話し合い、解決に向けた取り組みを行っている「東千葉　和・輪・環の会」の活動を通じて、地域の関係団体の連携が深まっている。 ・地区部会が「東千葉　和・輪・環の会」や小学校との共同開催事業を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	地区部会が高齢者等のちょっとした困りごとを支援する「ちょっとボランティア」と、地域の助け合いのグループである「東千葉ハッピータウンの会（ポイント制による会員同士の相互支援の会）」を統合した「ハッピーボランティア東千葉」が、支え合い活動に取り組んでいる。 また、対応できないケースについては、コーディネーターが専門機関等を紹介できるよう他の支援サービスの一覧を作成している。	【重点取組項目】 「ハッピーボランティア東千葉」の周知と専門機関、地元の薬局・病院との連携をより強化することにより、支援を必要とする地域住民の生活課題の解決を図り、住み慣れた地域で生活ができるよう努めたい。
	3　見守り体制をつくる	・ハッピーボランティア東千葉では、高齢者等、支援が必要な方を対象に、日常的な目配りによる見守り活動に取り組むとともに、住民同士が知り合える機会の提供に努めた。 ・民生委員が、「安心カード」を75歳以上の高齢者に配布している。なお、一部の町内自治会では、希望者にも配布している。 ・住民同士が気軽に声をかけ合い、認知症の方が安心して暮らせる地域を目指し、「福祉展」を実施した。	【重点取組項目】 見守り活動を継続して実施するとともに、より身近な単位での茶話会を開くなど住民同士の顔合わせ機会を増やし、災害発生時においても円滑な避難ができるような地域づくりに努めたい。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・地区部会と4町内自治会が協力し、「合同防災訓練」等を実施した。 ・避難所運営委員会に参加している。	【重点取組項目】 地域全体の行事を年間で作成し地域住民に知らせる活動を強めるとともに、防災訓練の実施等を通して、災害に備えて避難支援を強化し、災害発生時においても円滑な避難ができるよう努めたい。
	5　すべての子どもを地域で育てる	・子育てサロンを年2回実施した。 ・町内自治会と地区部会が共同で「山部ふれ愛まつり」を実施し、多くの子どもたちが参加した。 ・千草台東小学校の授業の一環として、1年生「昔あそび」、6年生「戦争体験を聞く」を実施した。 ・「東千葉　和・輪・環の会」が「あいさつ運動」（毎日）を行っている。 ・「セーフティウォッチャー」や「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。 また、毎週月曜日午後3時から、「あいさつ防犯パトロール」を挨拶ロード記念イベントより継続している。 ・地区部会と「東千葉　和・輪・環の会」が共催した「ハロウィン・パーティ」の際、子どもたちがお菓子をもらいに行く家として、地域の約15世帯に協力していただいた。参加者は子ども、大人、スタッフを入れて120名となった。 ・学区が3区にまたがっているため、地域行事のチラシ等は学校を通じて配布しており、区をまたがって参加者を受け入れている。 ・有志による防犯パトロールに子どもたちが参加している。 ・サマーイベントを実施した。（4日間で、子どもは延べ22名、大人は延べ30名参加した。） ・「子どもの日まつり」「鬼まつり」を新たに企画し、実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続し、 ・子育てサロンの開催数を年2回から3回に増加。 ・千草台東小学校で1年生と6年生に加えて4年生のボッチャ体験も実施。 ・サマーイベントの開催を4日間から5日間に拡大。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・「コミュニティサロン」を増やし、実施した。 （うたごえ喫茶〔毎月〕、スマホ活用の回〔月2回〕、ふれあいマルシェ〔週1回〕） ・「菜の花サロン」（千草台東小学校の授業の一環とした高齢者との交流会）を年2回実施した。 ・「元気カフェ」（脳トレ、体操、音楽療法）を週1回実施した。 ・住民、千葉大学、千葉市が連携して設立した「東千葉　和・輪・環の会」が、「えんがわサロン（茶話会）」を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続し、菜の花サロン開催回数を2回から3回に増加。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・ノルディックウォークを週2回実施した。 ・「元気カフェ」（脳トレ、体操、音楽療法）を週1回実施した。 ・「東千葉健康セミナー」を3回実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・ボッチャ体験会を実施した。 ・学区が3区にまたがっているため、青少年育成委員会との連携が困難である。 ・学校、PTAの活動において、地区部会が「ベルマーク収集」など協力可能な事業に協力した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	9　子育てサロンの充実	・子育てサロンを年2回実施した。 ・児童母子福祉委員会と地域保健推進員が中心となって、活動（ソフト面）について創意工夫しながら活動している。 ・地域保健推進員がいなくなり、対象者の把握が困難な状況である。	予定：前年度同様の取組みを継続し、子育てサロン開催回数を年2回から3回に増加。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　東千葉地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
東千葉地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・毎年「まあるい広場まつり」に参加し、社会参加支援を実施している。 ・町内自治会と地区部会が共同で「山部ふれ愛まつり」を開催し、「オリーブハウス」「ジョブ作草部」「カフェ・ハーモニー」「まあるい広場」の販売ブースを設けた。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・「菜の花サロン」（千草台東小学校の授業の一環として、1年生・6年生を対象にした高齢者との交流会）を年2回実施した。 ・町内自治会と地区部会が共同で「山部ふれ愛まつり」を開催し、「オリーブハウス」「ジョブ作草部」「カフェ・ハーモニー」「まあるい広場」の販売ブースを設けた。	予定：前年度同様の取組みを継続し、 ・菜の花サロン開催回数を2回から3回に拡充。 ・地域のまつりを通じて、家族三世代など世代間交流の充実を目指す。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会の各種事業や「東千葉　和・輪・環の会」等の住民組織により、活動の場が増えてきている。 ・「ぶらりとカルチャー」「スマホ活用の会」「住民作品展」などを実施した。 ・「東千葉　和・輪・環の会」が週1回実施している「えんがわサロン（茶話会）」では、参加者の特技（スマホ教室等）を生かす機会を提供し、高齢者の地域社会での活動の場を拡大した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	（No.10と同様）	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・地区部会、民児協、「東千葉　和・輪・環の会」で、「東千葉ふくし展」を開催した。 ・東千葉防災懇話会「くるま座の会」が連協の組織として位置づけられた。また、市や区職員を講師として、防災についての研修を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に地区部会役員や民生委員が対応している。 ・「東千葉　和・輪・環の会」があんしんケアセンター弁天の協力を得て、あんしんケアセンター職員に個別相談に乗っていただき、各種情報の提供をしていただいている。 ・「ハッピーボランティア東千葉」で、「ちょっと困った事の相談」の電話受付をしている。 ・「年金学習会」を2回実施した。 ・市職員を講師として、高齢者の食事についての研修会を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・「社協だより」を年2回発行した。また、「行事案内」は毎月発行している。 ・「東千葉　和・輪・環の会」が発行している「タウンだより」に、住民の〝お国自慢”や〝わが街のお達者さん”を掲載している。また、新住民の自己紹介コーナーを設け、こうした記事をきっかけに住民の輪が広がり、人材の発掘にも繋がっている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・「菜の花サロン」（千草台東小学校の授業の一環として、1年生・6年生を対象にした高齢者との交流会）を年2回実施した。 ・東千葉防災懇話会「くるま座の会」で市や区職員を講師として、防災についての研修を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続し、 菜の花サロンの開催を2回から3回に拡充。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・住民有志が防犯パトロールを、週2回（月曜日・水曜日）行っている。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		19　防災体制の充実	・町内自治会単位の防災訓練と、4町内自治会合同防災訓練を実施した。 ・東千葉防災懇話会「くるま座の会」で市や区職員を講師として、防災についての研修を実施した。 ・災害時避難マップは配布している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　西千葉地区部会

西千葉地区部会エリア

【人口・世帯数】
13,175人、7,377世帯
【町内自治会数】
６町内自治会
【高齢化率】
17.5%
【地域の特徴】
〇登戸、春日、汐見丘町、新千葉の一部を対象としたエリア。
　地区内に京成の新千葉駅及び西登戸駅、JRの西千葉駅がある。
　隣接する地域に千葉大学、千葉東高校、千葉商業高校等、複数の教育施設がある文教地域。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	－
子育てサロン	〇
散歩クラブ	－
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	－
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	－

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	・地区部会の役員に、町内自治会長や民生委員児童委員に就任いただいており、隔月に実施している役員会において、地域の情報交換を実施した。 ・地域でイベントがある場合は、実行委員会として各団体が集まって協力している。 ・特別養護老人ホーム新千葉一倫荘が、町内自治会長や民生委員、福祉活動推進員に参加してもらい、地域の困りごとについて意見交換する連絡会を実施している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・5つの老人クラブや見守り協力員の方々が、地域で困っている方のゴミ出しや自宅前の掃除などのお手伝いを無償で行うとともに、町内の清掃も実施している。 ・地域のイベント等で協力依頼がある場合は、民生委員や各町内自治会、地区部会などで協力者を募って協力した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　見守り体制をつくる	地区部会・第5地区町内自治会連絡協議会、第108地区民児協の三者協働で、平成19年から見守り活動として、「安心カード・緊急メモ」を作成し、6町内のひとり暮らしや障害者、現在は、75歳以上の高齢者に配布し、玄関、電話の場所に設置してもらっている。救急車での搬送時には、連絡先等が明記されているため大変助かったと感謝されている。 　6町内自治会全てにおいて、独自の方法で見守り活動を実施するとともに、見守り対象者の更新を毎年行っている。向こう三軒両隣での目配りや声かけを実施した。 　また、防犯パトロールにおいては、地域住民が「安心・安全」に生活できるよう、不審者情報・詐欺情報・火の用心等を周知し、実施した。	【重点取組項目】 　地域の見守り活動等を通して、災害発生時に円滑に避難ができるような地域づくりに努めたい。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	民生委員が中心になって民生委員が把握している情報をもとに、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成し、町内自治会と情報を共有している。名簿とマップは今年度も更新した。 　災害時には、日常的な見守り活動を行っている協力員が、避難支援を行う体制をとっている。 　避難所運営委員会が、年1回会議を開催し、備蓄品の確認を行った。	【重点取組項目】 　前年度と同様、町内自治会と災害時要支援者に関する情報を共有し、災害時には避難支援を行う体制づくりに努めたい。
	5　すべての子どもを地域で育てる	・登戸小学校へ登録した町内自治会（住民）と民生委員がセーフティウォッチャーとして登下校時に児童を見守っている。 ・PTAが、給食や学校行事にセーフティウォッチャー登録者を招待し、児童との交流を図っているが、新型コロナのため中止した。 ・地区部会と育成委員会が協力して、「こども110番のいえ」の既存協力者宅の確認と新規協力者宅の増設に努めた。 ・老人クラブが、登戸幼稚園の園児と毎年、公園の花植えや水やり、花壇の清掃などを行っている。 ・町内自治会主体で、「ごみゼロの日」に小学生と町内自治会が一緒に各公園の清掃活動を実施した。子ども会も同様の活動を行っている。 ・登戸1丁目自治会が、子どもたちの健全育成や地域住民との交流を図る場として、地域食堂を令和元年度から行っている。 ・登戸小学校、緑町小学校では、PTAが主体となって「わくわくキャンパス」を実施している。また、1年生を対象に、年1回実施している昔遊び等の体験活動に、地域の方が参加し協力している。 ・登渡神社の子ども神輿や育成委員会主催の納涼まつり等の地域行事を再開し、子どもたちと顔見知りになる機会を設けた。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・6町内自治会が、「高齢者対象サロン」を定期的に開催した。 ・5つの老人クラブが、グラウンドゴルフ、折り紙、麻雀、映画会、歌等、高齢者が集う催しを定期的に開催した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 また、地区部会がいきいきサロンを年2回開催するほか、会食形式でのふれあい食事サービスを再開する。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・地区部会、福祉活動推進員が中心となり、中央介護福祉専門学校の先生を招いて、健康体操教室を再開している。 ・社会体育振興会が主催となって、ボッチャ大会を開催した。 ・6町内自治会中、5町内自治会において、老人クラブが組織されており、老人クラブが「グラウンドゴルフ大会」を開催した。 ・スポーツ振興会では、「ウォーキング」を定期的に実施した。 ・シニアリーダーが、三和会館を会場に、シニアリーダー体操を実施した。 ・登戸ラジオ体操会が、毎日、登渡神社でラジオ体操を実施した。	【重点取組項目】 　健康体操教室やシニアリーダー体操などの各種健康に関する行事を通して、地域住民の健康づくりに努めたい。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・登戸小学校、緑町小学校では、PTAが主体となって「わくわくキャンパス」を実施している。また、1年生を対象に、年1回実施している昔遊び等の体験活動に、地域の方が参加し協力している。 ・登渡神楽囃子連が、わくわくキャンパスで、お囃子を教えている。 ・5つの老人クラブが、登戸幼稚園の園児と毎年、公園の花植えや水やり、花壇の清掃などを行っている。 ・町内自治会主体で、「ごみゼロの日」に小学生と町内自治会が一緒に各公園の清掃活動を実施している。子ども会も同様の活動を行っている。 ・バレーボールやバドミントンの愛好会が毎週練習しており、スポーツ振興会のバレーボール大会、バドミントン大会に参加している。また、スポーツ振興会ではミニ運動会を開催している（新型コロナで中止）。 ・子ども会では、綱引き大会やラジオ体操を実施している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　西千葉地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
西千葉地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	9　子育てサロンの充実	・0歳から3歳前後の子どもとその保護者を対象に、「よいこの広場」を年10回、登戸1丁目町内自治会館で実施した。 ・3歳以上の子どもと保護者を対象に、「ぴょんぴょんクラブ」を年10回、西登戸会館で実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・イベントを開催するにあたり、健常者と障がい者の区別なく対応するよう心掛けている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・地区部会では、今年度は三和会館で春のミニバザーを開催した。感染症対策をし、近隣の親子連れ、若者、高齢者が集まり、世代を超えた交流の場となった。 ・特別養護老人ホーム新千葉一倫荘では、年数回「地域交流会」を開催し、地域の子どもたちも参加した。 ・町内自治会主体で実施している「清掃活動（グリーンデイ）」「花壇の花植え活動」等に、大人も子どもも参加し、交流の機会となった。 ・一部の町内自治会では「文化祭」を開催し、大勢の参加者が集まり、地域での交流の場となった。	【重点取組項目】 　前年度と同様、ミニバザーや交流会、発表会の開催などを通して地域住民の世代の枠を超えた交流の場づくりに努めるとともに、地区部会、福祉活動推進員が主催となり、サロン活動を実施したい。 　なお、令和6年度のバザーについては、秋の開催を予定している。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会が実施している「見守り活動」「ふれあいミニバザー」等の各種事業に、高齢者がボランティアとして参加している。 ・5つの老人クラブや見守り協力員が、地域で困っている方のゴミ出しや自宅前の掃除などのお手伝いを無償で行うとともに、町内の清掃も実施ししている。 ・公園の植木の手入れや管理を高齢者が行っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	（№10と同様）	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　地域福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・地区部会では、福祉活動推進員が中心となり、中央介護福祉専門学校の先生を招いて、健康体操教室を再開した。 ・各町内自治会でも、老人クラブと協力して、認知症や口腔ケア等の福祉講座を開催した。	【重点取組項目】 　交流の場をつくるとともに、、地域住民が地域福祉活動の担い手となるきっかけづくりの場を設けるよう努めたい。 　地区部会では、サロン活動を実施する予定である。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に民生委員や町内自治会役員が対応している。見守り協力員から民生委員に相談が繋がる仕組みもできている。 ・三和会館及び西登戸会館では、週のうち数日、町内自治会関係者が常駐し、開館対応と案内対応を行っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・現在は「ふくし・防災ガイド＆マップ」を活用している。 ・各町内自治会で、地域の福祉マップを作成している。 ・地区部会のネットワーク委員会が社協だよりを年1回作成・発行し、地区部会活動のお知らせや活動報告を住民へ周知している。A4版カラー印刷で1，100部作成し、回覧及び配布をした。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・老人クラブが登戸幼稚園の園児と毎年、公園の花植えや水やり、花壇の清掃などを行う活動や、町内自治会主体で「ごみゼロの日」に小学生と町内自治会が一緒に各公園の清掃を行う活動を通じ、児童に地域の一員として活動する機会を設けている。 ・小学校では、社会奉仕の日に各公園の清掃を行っており、老人クラブが一緒に活動している。 ・登戸小学校、緑町小学校では、PTAが主体となって「わくわくキャンパス」を実施している。また、1年生を対象に、年1回実施している昔遊び等の体験活動に、地域の方が参加し協力している。 ・地区部会では、福祉活動推進員が主となり、中央介護福祉専門学校の協力のもと、健康体操を実施した。 ・各町内自治会でも、老人クラブと協力して、福祉講座を開催している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・老人会、子ども会、町内自治会、育成委員会等が、地域パトロールを実施しており、そのなかで地域で見かけない人物を目撃した場合、顔を覚えるなどして防犯を行っている。 ・地区部会と育成委員会が協力して、「こども110番のいえ」の既存協力者宅の確認と新規協力者宅の増設に努めている。 ・地域で「あいさつ運動」を実施している。 ・移動交番が、三和会館に開設されている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		19　防災体制の充実	地区部会では、年1回、地域住民や地区部会役員を対象に、防災意識の啓発や赤十字救急法等を内容とした防災講座を開催した。 　6町内自治会では、すべてに自主防災会があり、各防災会が、年1回、安全確認、避難訓練、初期消火、応急手当訓練、非常食配布、発電機起動実演、AED訓練、ハイゼックス訓練、起震車、煙体験などの訓練や防災講座を実施しており、赤十字奉仕団と協力している。防災訓練には子どもたちも参加している。	【重点取組項目】 　防災講座や防災訓練の実施等を通して、地域住民が災害時において円滑に避難等ができるよう努めたい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　中央地区部会

中央地区部会エリア

【人口・世帯数】
8,128人、5,015世帯
【町内自治会数】
6町内自治会
【高齢化率】
18.8%
〇弁天、栄町、富士見、本千葉町、新町の一部、新千葉の一部を対象としたエリア。
JR千葉駅周辺の地区で、駅北口側の住宅地や千葉公園、東口側の商業施設や繁華街が共存している地域。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	－
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	－
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	－

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	・町内自治会や民生委員、育成委員会、子ども会等、地域の関係団体が地区部会に関わっており、地区部会の会合等で連携を図ることを検討した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・地区部会が、いきいきサロンを年2回開催予定である。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　見守り体制をつくる	・6町内自治会中、2町内自治会で、75歳以上のひとり暮らし高齢者のうち見守りを希望する方を対象に、目配りによる見守りを実施した。 ・既に実施している町内自治会では、見守り希望者を再募集し、活動の充実を図った。 ・地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対する働きかけは、継続して実施している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・町内自治会ごとに防災訓練は実施しているものの、地区によって温度差がある。 ・平成30年に設立された弁天小学校避難所運営委員会では避難所運営マニュアルを作成し、活動中である。 ・弁天町会は、千葉市避難行動要支援者名簿を2024年1月に受領し、運用に入った。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	5　すべての子どもを地域で育てる	・地区部会では、毎朝、消費生活センター前の信号及び弁天4丁目一方通行信号前で見守りを行った。また、毎週金曜日の下校時に小学1～2年生を対象に、消費生活センター前の信号でも見守りを行った。 ・児童の健全育成を図るため、地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞などを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深めた。（参加者157名） ・弁天小学校の「わくわくキャンパス」を隔週の木曜日に実施した。開催時間を14時30分から15時30分とし、5月から2月まで計16回開催し、ソフトボールやキックベースボール等を実施し、地区部会も協力している。 ・地域住民がセーフティウォッチャーとなり、通学路での見守り活動を実施した。	【重点取組項目】 ・地区部会では、毎朝、消費生活センター前の信号及び弁天4丁目一方通行信号前で見守りを行うとともに、毎週金曜日の下校時に小学1～2年生を対象に消費生活センター前の信号でも見守りを行う。 ・児童の健全育成を図るため、地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞などを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深める。 ・弁天小学校の「わくわくキャンパス」を隔週の木曜日に実施する。開催時間を14時30分から15時30分とし、5月から2月まで計15回、ソフトボールやキックベースボール等を実施する予定であり、地区部会も協力する。 児童は放課後の行事参加者が減少しており、例ね実施していたソフトボール大会も参加者が減少しているため、ボッチャへの変更を予定する。 ・地域住民がセーフティウォッチャー登録し、児童を見守る活動を実施する。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	地区部会（高齢者福祉委員会）が、いきいきサロンを3会場で実施した。 中央区健康課の筋力体操や、あんしんケアセンター中央の健康講話を取り入れる等、内容の充実に努め、高齢者の健康維持や仲間づくりに取り組んでおり、令和5年度は年11回実施した。	【重点取組項目】 ・地区部会（高齢者福祉委員会）が、いきいきサロンを3会場で実施する。中央区健康課の筋力体操や、あんしんケアセンター中央の健康講話を取り入れる等、内容の充実に努め、高齢者の健康維持や仲間づくりに取り組む。令和6年度も年11回実施予定である。 ・弁天では75歳以上の独居高齢者に参加を呼びかけているが、参加者は10～15名と少ない。令和6年度は参加者を増やすため、75歳以上の高齢者約300名に参加を呼びかけたい。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・各町内自治会の老人クラブやサークル等で合唱や脳トレを行った。 ・千葉パーク友の会が、千葉公園運動広場で、毎朝、健康体操を行っている。 ・全町民を対象に、落語鑑賞会を開催した。（参加者35名〔役員6名を含む〕）	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・弁天小学校の「わくわくキャンパス」を隔週の木曜日に実施した。実施時間を14時30分から15時30分に変更の上、5月から2月まで計16回開催し、ソフトボールやキックベースボール等を実施し、地区部会も協力している。 ・地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞などを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深めた。（167参加〔役員10名を含む〕）	予定：前年度同様の取組みを継続する。 わくわくキャンパスについては従事者の負担等も考慮し、回数を10回に改めて実施する。
	9　子育てサロンの充実	・地区部会が、子育て中の親子を対象に、親同士の情報交換や栄養士・歯科衛生士からのお話し、読み聞かせ、親子体操等を内容とした子育てサロンを、年6回実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　中央地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
中央地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・地区部会が実施している「社協まつり」でカフェ・ハーモニーがゲームコーナーと手芸品の販売、焼きそばの屋台を出店した。 ・カフェハーモニーの広報（地域でのチラシの配布）に協力したほか、行事に積極的に参加し、会員の加入を促進した。また、老人クラブが、月2回の定例会の後、カフェ・ハーモニーで食事をし、売上に貢献している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 また、千葉公園内の蓮華亭コンサートへの協力を行う。
		11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・地区部会が「社協まつり」を実施し、誰もが集える地域行事で世代間交流を図った。 （参加者201名〔役員50名を含む〕）	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会が実施している各種事業に高齢者がボランティアとして参加している。 ・防犯パトロールは、高齢者も参加している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 防犯パトロールの他、清掃活動も実施する。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	（№10と同様）	予定：前年度同様の取組みを継続する。 また、千葉公園内の蓮華亭コンサートへの協力を行う。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・いきいきサロンにおいて「筋力体操の講座」を開催するなど、さまざまな事業の中で類似の講座を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・町内自治会役員、民生委員が個別に対応している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・年3回社協だよりを発行した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・弁天小学校の「わくわくキャンパス」を隔週の木曜日に実施した。実施時間を14時30分から15時30分に変更の上、5月から2月まで計16回開催し、ソフトボールやキックベースボール等を実施し、地区部会も協力している。 ・社協まつりにおいて、地域の子どもたち自らオリジナルマスクを作成し、参加者に配布したり、希望者にマスクの作成指導を行った。 ・社協まつりにおいて実行委員会（地区部会、PTA、子ども会、各町内自治会）を立ち上げ、地域全体の協力を得ながら開催した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・地区部会では、弁天小学校の1・2年生とその保護者を対象に、NPO法人「体験型安全教育支援機構」を講師に迎え、「児童向けの安全教室」を実施し、不審者に捕まりそうになった時の逃げ方等を訓練した。（参加者：親子6組〔12名〕、地区部会役員6名） ・町内自治会では、防犯に対する意識の向上を図るため、防犯パトロールを実施した。	【重点取組項目】 ・地区部会では、弁天小学校の1・2年生とその保護者を対象に、NPO法人「体験型安全教育支援機構」を講師に迎え、「児童向けの安全教室」を行い、不審者に捕まりそうになった時の逃げ方等を訓練することとし、参加対象者を1～3年生まで広げ、参加者の増加を図りたい。 ・町内自治会では、防犯に対する意識の向上を図るため、防犯パトロールを実施することとし、1町会あたり月1回の実施を目標としたい。
		19　防災体制の充実	・弁天町会では、6月25日に避難所開設訓練を実施した。 　また、各町会では防災訓練を実施した。	【重点取組項目】 ・町内自治会では、避難所運営開設訓練を実施することとし、1町会あたり年1回の実施を目標としたい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　新宿地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
新宿地区部会エリア 【人口・世帯数】 13,178人、7,603世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 18.5% 【地域の特徴】 〇新宿、神明町、新田町、出洲港を対象としたエリア。千葉市のほぼ中心に位置し、近くにはJR千葉駅や京成千葉中央駅等がある。学区及び周辺は、デパート等の大型店舗が軒を並べる市内有数の商業地域がある。新興集合住宅が多く建設され、ファミリー層が流入してきている。 活動事業名 ／ 実績に〇印 いきいきサロン：〇 子育てサロン：〇 散歩クラブ：〇 広報紙：〇 ボランティア講座：〇 ふれあい食事サービス：－ 敬老会：〇 見守り活動：〇 支え合い活動：〇	1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	・地区部会が核となり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンターが参加する役員会（2か月に1回）などでネットワーク作りを行い、各団体の情報を共有している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		2　支え合い活動の仕組みづくり	・拠点を設けての活動は行っていないが、民生委員が個別に対応している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		3　見守り体制をつくる	・民生委員が主体となり、あんしんケアセンターと連携しながら見守りを行っている。また、マンションについては管理人に見守りをお願いしている。 ・町内自治会や老人会では、諸行事を通じて顔見知りになる機会を設け、緊密な人間関係の構築に努めている。 ・地区部会では、今年度安心カードを作成し、令和6年度より75歳以上の方へ順次配布できるよう準備を進めた。また、見守り活動に協力いただける方に、セーフティウォッチャーや近所のさりげない見守り活動に協力いただいている。	【重点取組項目】 あんしんケアセンターと連携した見守り活動や、75歳以上の方に対する安心カードの配布などを通して、災害発生時においても円滑な避難ができるような地域づくりに努めたい。
		4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、隔月で会議を開催している。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受入れが出来るよう、100人規模での住民参加による避難訓練を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		5　すべての子どもを地域で育てる	例年、町内自治会や子ども会では、餅つき、お祭り、お花見、盆踊り、新年会、敬老会の余興など、地域の行事に子どもたちが参加し、住民と交流を図った。 地区部会では、初めて出産を経験した両親を対象に、子育てに関する悩み相談及び母親同士の友だちづくりの場として、「ぷち・あんじゅ」を年4回開催した。 母親を対象とした子育てサークル「学びと気づきの教室『mama'sの会』」を月1回（毎月第3木曜日）それぞれ開催し、子育て中の親の育児相談を受け付け、子育てに関する悩みに対応した取り組みを行った。 また、新宿保育所内の地域子育て支援センター「にこにこルーム」にボランティアとして参加した。 地域住民が、「こども110番のいえ」に協力するとともに、セーフティウォッチャーとして学校に30名程度登録して登下校時の子ども達の安全を見守った。 地区部会が、子ども会の活動に協力をしている。	【重点取組項目】 地域行事の開催や子育てに関する集いの場づくりなどを通して、子どもたちが地域住民と顔見知りになる機会を設け、地域の中で安全に過ごせるような環境づくりに努めたい。
	2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	地区部会では、高齢者の仲間づくりの場を提供するため「ふれあい・いきいきサロン」を年2回実施した。 町内自治会や老人クラブではグラウンドゴルフ、カラオケ等を実施し、月1回程度は高齢者が交流する機会を設けている。また、婦人部による「歌の会」を毎月1回実施している。	【重点取組項目】 ふれあい・いきいきサロンの実施などを通して、高齢者がの閉じこもりの防止や仲間づくり、社会参加を図る機会を設け、フレイルの予防に努めたい。 なお、ふれあい・いきいきサロン「ゆうきのサロン」については隔月で開催する予定である。
		7　地域での健康づくり支援の充実	・地区部会では、高齢者の健康増進を図るため「歩こう会」を年3回実施した。 ・高齢者を対象に、「健康づくりのための体操」を実施した。 ・スポーツ振興会では、グラウンドゴルフ大会を年2回開催した。 ・新宿公民館では、週1回、シニアリーダー体操が行われている。 ・新宿2丁目会館で、健康マージャンを週2回、誰でも参加できる形で開催し、高齢者の交流の機会を設けている。	【重点取組項目】 地域の高齢者の閉じこもり防止や仲間づくり、健康の維持増進を図る機会を設け、介護やフレイルの予防に努めたい。 次年度においては「歩こう会」や「ボッチャ体験」などの活動をあんしんケアセンターが主催となって実施する予定であり、地域としてあんしんケアセンターの行事に参加協力していきたい。
		8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・スポーツ振興会で、グラウンドゴルフを実施した。 ・地区部会が、子ども会の活動に協力をしている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		9　子育てサロンの充実	・地区部会では、幼少期の子どものいる親の負担を軽減するため、新宿公民館で「0歳児の親子育児サークル『ぷち・あんじゅ』」を年4回、母親を対象とした子育てサークル「学びと気づきの教室『mama'sの会』」を月1回（毎月第3木曜日）それぞれ開催し、子育て中の親の育児相談を受け付け、子育てに関する悩みに対応した取り組みを行った。 ・新宿保育所内の地域子育て支援センター「にこにこルーム」にボランティアとして参加した。 ・老人クラブが、保育所からの依頼を受け、昔遊びや折り紙を指導しているが、新型コロナの影響により、再開にはいたらなかった。	【重点取組項目】 子育てサークルの実施などを通して、地域の子育て中の親子の孤立化の防止や仲間づくりの場と機会の拡充を図りたい。 なお、老人クラブによる昔遊びや折り紙の指導については、再開に向けて検討していきたい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　新宿地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
新宿地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	例年、地区部会の障がい者福祉委員会が、千葉県聴覚障害者協会の就労継続支援施設「らいおん工房」で、月1回、広報紙の発送等を手伝うボランティア活動を行い、障がい者との交流を図っているが、新型コロナの影響により再開にはいたらなかった。 なお、販売品の材料の寄付や販売品の購入を通じて交流を図った。	【重点取組項目】 地域の障がい者福祉施設との交流を通して、地域住民の障がい者と相互理解を図れるよう努めたい。 障がい者福祉施設における「ボランティア活動の再開」や「地域行事とのコラボレーション」については、検討を行っていきたい。
		11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・住民の交流を図るため、各町内自治会での盆踊りや夏祭り、花見等、誰でも参加できる地域行事を実施した。	予定：盆踊りを町内自治会の主催とし、より多くの地域住民への参加を呼び掛ける。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会や町内自治会の事業の運営に高齢者が参加している。 ・老人会と地域住民が共同で、神社や公園の清掃を行っている。 ・月3回の新宿公園の清掃活動に高齢者が参加している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・イベントの広報は障害の有無に関わらず、地域住民に回覧で広報している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　地域福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・地域での公園清掃活動や地域行事などに、地区部会や町内自治会が参加を呼びかけ、多くの地域住民が地域活動に参加する機会を提供している。	【重点取組項目】 地域住民に対する福祉活動等への呼びかけなどを通して、地域での福祉活動への理解と参加の促進に努めるとともに、「福祉に関する講座」の開催について検討していきたい。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・民生委員や町内自治会が、地域の方々の個別の相談に応じ、対応が困難なケースについては、専門機関の情報を提供している。 ・隔月に実施する地区部会の役員会において、地域の関係団体の情報共有を図っている。役員会には、あんしんケアセンターに毎回参加いただき、情報共有するとともに、高齢者に関する相談が気軽にできる関係性の構築に努めている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・広報紙を年2回発行した。 ・各町内自治会で防災マップを作成している。	【重点取組項目】 広報紙の発行や、防災マップの見直し等を通して、福祉や防災に関する情報の入手機会を増やし、地域での孤立化の解消を図れるよう努めたい。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・地区部会があんしんケアセンターと連携して、新宿中学校1年生を対象に、認知症に関する講座を開催し、認知症に対する理解の促進を図った。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	町内自治会では、月2回、防犯パトロールを実施するとともに、地域交番（京成交番）や消防団と連携し、地域の防犯意識の向上に取り組んだ。 また、防犯パトロールの際には、防犯灯（街路灯）の不点灯等の確認を行っている。	【重点取組項目】 防犯パトロールなどの実施を通して、地域住民が安心してその地域で生活ができるよう、防犯意識の向上を図れるよう努めたい。
		19　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、隔月で会議を開いている。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受入れが出来るよう、住民参加による避難訓練を実施し、例年、100人強が参加している。 ・多くの人々が参加しやすいよう、災害時に必要な情報をホームページで発信するなど、住民の意識向上に取り組んだ。 ・起震車、煙体験、赤十字救急法などを取り入れた防災訓練を年1回開催した。	【重点取組項目】 避難訓練や防災訓練の実施などを通して、地域住民が自身や家族等の安全が守れるよう、防災意識の向上を図れるよう努めたい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　千葉みなと地区部会

千葉みなと地区部会エリア

【人口・世帯数】
10,470人、4,498世帯
【町内自治会数】
１１町内自治会
【高齢化率】
14.1%
【地域の特徴】
〇中央港、千葉港、問屋町を対象としたエリア。ほとんどの住民がマンションに居住している。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	－
子育てサロン	－
散歩クラブ	〇
広報紙	〇
ボランティア講座	－
ふれあい食事サービス	－
敬老会	－
見守り活動	－
支え合い活動	－

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	・町内自治会や民生委員・児童委員、行政等の関係機関・団体が集まり、「千葉みなと地区部会」、「千葉みなと地区自治会連合会」、「新宿中学校避難所運営委員会」の定期会合をそれぞれ2か月に1回開催し、地域課題の意見交換を行った。 ・千葉市みなと活性化協議会に協力し、「さんばしまつり」を実施するなど、他団体とのさらなる連携が図られている。 ・学校や民生委員などとの協力を得て、地域に居住している小・中学生の保護者を対象に「地域での困りごと」や「地域行事等への協力」についてのアンケートを実施した。	【重点取組項目】 地域での各種会議を通して、地域の各種団体の強みを活かしながら地域課題の解決に向けて各種団体の連携を図るよう努めるとともに、アンケート結果に対し、新たな地域活動についての検討を行いたい。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・個別のケースについては、町内自治会長や民生委員が個別に支援にあたっている。 ・地域支え合い連絡会の設立に向け、ボランティアや福祉活動推進員を確保するため、人材募集を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　見守り体制をつくる	・民生委員の協力にてひとり暮らしの高齢者や要介護者等の実態を把握した。また、マンションの管理人と情報交換し、各マンションの情報把握に努めた。 ・地域のセーフティウォッチャーが増えたことで、地域安全・地域福祉の充実化が図られている。 ・地域の危険箇所への看板の設置などを警察署に要望し、それに基づき看板が設置されている。	【重点取組項目】 地域の高齢者等などの情報把握などの活動やセーフティウォッチャー活動を通して、安全・安心な地域づくりの体制構築が図れるよう努めたい。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・災害に備え、避難所運営委員会が年2回、避難所開設訓練を実施した。 ・避難所運営委員会の定例会議を隔月で実施した。 ・民生委員が持っている「支援を必要としている人の情報」を共有する方法については検討中である。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	5　すべての子どもを地域で育てる	・地域でセーフティウォッチャーに協力し、地域のセーフティウォッチャーが増えたことで、地域安全・地域福祉の充実化が図られている。 ・こども110番のいえに、地域住民・店舗・企業・マンション管理組合が協力している。 ・地区部会がセーフティウォッチャーやこども110番のいえの協力者募集のポスターを作成し、マンション等に掲示するなど、協力者の確保に向けての協力を実施した。 ・学校や民生委員などとの協力を得て、地域に居住している小・中学生の保護者を対象に「地域での困りごと」や「地域行事等への協力」についてのアンケートを実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 なお、前年度実施した保護者を対象としたアンケートについては、その結果に対し新たな地域活動についての検討を行いたい。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・高齢者の交流を図るため、一部の町内自治会で集会所を利用し、シニアリーダー体操を実施した。 ・落語会、チョイ飲み会、音楽会等、高齢者が交流する場を各町内自治会で実施し、地区部会ではその情報を共有している。 ・サロンなどの地区部会における拠点の確保については、検討課題として認識している。	予定：前年度同様の取組みに加えて、地区部会ではいきいきサロンを実施する。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・高齢者の健康増進を図るため、一部の町内自治会で集会所を利用し、シニアリーダー体操を実施した。今後、他の町内自治会でも実施すべくシニアリーダーと検討中である。 ・地区部会が、地域住民の交流を図るため実施している「歩こう会」は、活動再開に向けて検討中である。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・都川河口一帯を「結城野(ゆうきの)」と呼んできたことから命名された「ゆうきの夏祭り」に、歴史パネルを展示し地域の歴史を学ぶ機会を提供した。 ・町内自治会ごとに、夏祭り、クリスマス会、文化祭等を活動を再開した。 ・地域で音楽会を開催し、その中で新宿中学校の音楽部等の生徒に演奏等をしていただいた。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 なお、前年度活動再開に向けて検討した「歩こう会」については再開する予定。
	9　子育てサロンの充実	・一部の町内自治会が、年1回、新1年生の親子の交流会を実施している。 ・マンションが実施している夏祭りで交流を図っている。 ・新宿地区部会のサロン開催のパンフレットを配布している。 ・サロンなどの地区部会における拠点の確保については、検討課題として認識している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・地区部会として情報収集を行うなど、活動の実施に向けて検討中。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・マンションが実施している夏祭り等で交流を図っている。 ・年3回実施している公園清掃には企業も協力しており、地域の大人も子どもも100人以上参加し、世代間交流の機会となった。 ・地域で音楽会を開催し、その中で新宿中学校の音楽部等の生徒による演奏等を通して世代間交流を図った。	予定：前年度同様の取組みに加えて、マリンコート町内自治会でサロンを実施する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　千葉みなと地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
千葉みなと地区部会エリア	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・一部の町内自治会で、文化祭を実施しており、高齢者が趣味を披露する場となっている。 ・一部の町内自治会で、クリーンアップ作戦の案内をし、活動への参加を呼び掛けている。 ・一部の町内自治会で「いきいきマージャン」を開催した。 ・地域の高齢者がセーフティウォッチャーに協力し、地域安全・地域福祉の充実化が図られている。 ・地域の高齢者が、年3回実施している公園清掃に参加し、活動に協力した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会として情報収集を行うなど、活動の実施に向けて検討中である。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・地区部会として情報収集を行うなど、活動の実施に向けて検討中である。 　なお、一部の地区部会関係者が、薬やおくすり手帳などに関する勉強会・研修会を年2・3回開催する取組みを行っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に民生委員や町内自治会役員、マンションの管理人が対応している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・「ちばみなとjp」と連携し、地域のイベント情報の発信に努めている。 ・地区部会だよりを年1回発行した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・町内自治会のクリーンアップ作戦に子どもたちが参加し、地域の一員として活動している。 ・地域のセーフティウォッチャーが、児童・生徒に対し、挨拶などの声掛けを通して、児童・生徒に対する福祉教育・情操教育を行っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・地域でセーフティウォッチャーに協力している。 ・こども110番のいえに、地域住民・店舗・企業・マンション管理組合が協力している。 ・地区部会がセーフティウォッチャーやこども110番のいえの協力者募集のポスターを作成し、協力者の確保に協力している。 ・一部の町内自治会では、月1回、防犯パトロールを実施している。 ・問屋町・千葉港東地区町内自治会が、防犯カメラや防犯パトロールののぼり旗を設置している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		19　防災体制の充実	避難所運営委員会では、災害時の対応を協議するため、隔月で定例会議を開催するとともに、年1回、避難所開設訓練を行った。 　また、各マンションでトランシーバーを導入し、災害時の支援体制を整備するとともに、使い方についての訓練を実施した。 　各マンションでは、年1回、消防による初期消火訓練等の防災訓練を実施した。	【重点取組項目】 　災害時への対応に関する会議の開催や各種訓練の実施を通して、地域住民が災害時において円滑に避難等ができるよう努めたい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　蘇我地区部会

地区部会エリア

蘇我地区部会エリア

【人口・世帯数】
20,209人、10,712世帯
【町内自治会数】
９町内自治会
【高齢化率】
17.0%
【地域の特徴】
〇蘇我、今井、若草、南町を対象としたエリア。JR蘇我駅周辺の地区で、 隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターやサッカー場ができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	〇
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	－
敬老会	－
見守り活動	－
支え合い活動	－

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	・地域ケア会議は、新型コロナの影響で実施できなかった。 　ただし、民児協定例会（月１回）の会議に、あんしんケアセンター職員にも参加していただき、問題点の共有化を図った。 　また、コミュニティ懇談会【地域運営委員会】（年4回）や青少年育成委員会（年6回）に参加し、地域課題について情報交換を行うとともに、地区部会の会議や活動を通じて関係団体との連携を図った。 ・介護付有料老人ホーム「そんぽの家　蘇我」と地域が連携した取り組みについて協議した結果、これまで施設を利用し開催してきた高齢者の集いの場については、新型コロナやインフルエンザの感染状況などを鑑み、当面の間中止することとなった。	【重点取組項目】 　地域での各種会議を通して、地域の各種団体の強みを活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域課題の解決に向けて各種団体の連携を図るよう努めたい。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・地域の個別ニーズに対しては、主に民生委員や地区部会が対応している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　見守り体制をつくる	・地区部会が、地区内の8町内自治会を通じて町内自治会加入の全世帯を対象に配布している「冷蔵庫保管用安心カード」については、記載内容の見直しを行い、町内自治会を通じて配布した。 　また、町内自治会未加入の75歳以上のひとり暮らし高齢者については、民生委員の協力を得て、5月の「高齢者実態調査」の際に配布した。 ・地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携したが、実施予定だった「地域見守り活動～オレンジフェスティバル～」は中止となった。	【重点取組項目】 　地域の見守り活動を通して、災害発生時に円滑に避難ができるような地域づくりに努めたい。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・地区内4か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が、九都県市防災訓練の実施日に合わせ、避難所の設備・備品の点検等を行った。 　訓練の際は、福祉的配慮を必要とする人をケアする内容を加え改定した避難所運営マニュアルを活用するとともに、マニュアルの修正が必要な箇所を改正した。 ・避難所運営委員会として、消防署の方を招いて講演会を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	5　すべての子どもを地域で育てる	子どもたちの安全を守るため、「セーフティウォッチャー」や「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。 　また、不審者対応として、青色回転灯装着車によるパトロールも計画どおり実施するとともに、パトロール活動への支援として、若干のガソリン代の支給やドライブレコーダーの貸与等を実施した。 　地区部会が蘇我小学校から依頼を受ける、年1回の「昔あそび」のゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、蘇我小学校で全学年を対象に月１回実施している「わくわくキャンパス」に、内容に応じて参加・協力した。 　また、「ローゼンそが保育園」の昔あそびのゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、新たに認可保育園「そがチャイルドハウス」の昔遊びのゲストティーチャーとして役員が協力することとなっていたが、新型コロナの影響で実施できなかった。 　例年、地区部会が協力し、高齢者が昔遊びの指導等に協働参画している地区の子ども会行事や、主任児童委員が中心となり蘇我小学校に週1回出向き、全学年対象に実施している「本の読み聞かせ」を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・地区部会が、いきいきサロンを4会場で年間各4回、計16回実施した。 　また、健康増進のためにボッチャを試験的に4会場で各1回実施した。 　新型プロジェクターやパソコン、体操のDVDを購入し、サロンの１会場で活用した。	【重点取組項目】 　いきいきサロンの実施を通して、地域の高齢者の閉じこもり防止や仲間づくり、社会参加を図る機会を設け、フレイルの予防に努めたい。
	7　地域での健康づくり支援の充実	例年、60歳以上の高齢者を対象に、健康維持や交流の場づくりを目的として実施している「ふれあい・散歩クラブ」「ふれあい・いきいきサロン」を実施した。 　また、健康促進に関する年1回の講座、高齢者の健康増進を図るために地区部会として協力している、スポーツ振興会及び老人クラブで行っているスポーツ活動や蘇我いきいきセンターで月2回行われている健康体操を実施した。	【重点取組項目】 　ふれあい・散歩クラブや健康促進に関する講座等を通して、地域の高齢者の閉じこもり防止や健康の維持増進を図る機会を設け、介護・フレイルの予防に努めたい。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・「わくわくキャンパス」に地域の全関係者が加わり実施した。 ・蘇我小学校の昔遊びのゲストティーチャーとして地区部会役員が活動した。 ・「ローゼンそが保育園」、「そがチャイルドハウス」の昔遊びのゲストティーチャーとして地区部会役員が活動する予定であったが、インフルエンザの感染状況等に鑑み、当面の間中止となった。 ・地区部会がスポーツ振興会と共同で、蘇我小地区町民運動会を実施した。 ・蘇我小学校区内の3地区にて、盆踊り大会を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	9　子育てサロンの充実	・子育てサロンを年10回実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・「コミュニティまつり」でオリーブハウスの販売ブースを設置しているが、新型コロナの影響により中止となった。 ・地区部会や町内自治会のイベントでは健常者、障がい者を問わず、誰でも気軽に参加できるようPRに努めた。 ・福祉的配慮を必要とする人をケアする内容を加え改定した避難所運営マニュアルを各訓練で活用するとともに、マニュアルの修正が必要な箇所を改正した。 ・避難所運営委員会では、女性の委員を増やすとともに、障がい者や外国人にも委員としての参加を呼びかけており、一部の避難所運営委員会では障がい者や外国人が委員として参加するようになった。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　蘇我地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
蘇我地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・3地区の町内自治会が、盆踊り等の各種イベントを開催した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	地区部会のボランティア委員会が、月1回、「セントケアホーム蘇我」「グループホームさくら」の2施設で行っている話し相手やイベント手伝い等の活動を予定していたが、新型コロナの影響で中止となったが、今後の訪問活動内容について調整中である。	【重点取組項目】 施設への訪問活動等を通して、地域の高齢者が福祉参加に参加できる機会の創出を図りたい。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	（№10と同様）	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・地区部会が、健康促進に関する講座を実施した。また、食育に関する講座は、令和6年度に実施することに決めた。 ・いきいきサロンでも、健康体操などのメニューを取り入れているが、新型コロナの影響により中止となった。 ・介護付有料老人ホーム「そんぽの家　蘇我」が、高齢者向けの健康体操教室を予定しており、現在調整中である。	予定：前年度同様の取組みを継続するほか、新たにグループホーム2か所に声掛けをし、ふれあい・いきいきサロンに参加してもらう。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に民生委員や町内自治会長が対応している。 ・各町内自治会からの要望や相談については、「地域ケア会議」、「学校運営評議員会」や「い区制委員会」を通して、情報を共有した。 ・民生委員と地区部会、あんしんケアセンターが連携し、「ふれあい公園」と「八幡公園」を会場に、気軽に相談できる環境の場を計2回実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・全町内自治会で「防災マップ（危険箇所マップ）」を作成している。 ・年2回社協だよりを発行した。 ・蘇我中学校区の小・中学生が一緒に作成した「蘇我小子どもマップ（子どもの目からみた安全マップ）」の内容を更新した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・「わくわくキャンパス」に地域の全関係者が加わって実施している。 ・地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携して実施した「地域見守り活動～オレンジフェスティバル」には、淑徳大学の学生も参加を予定していたが、新型コロナの影響により中止となった。 ・主任児童委員が中心となり蘇我小学校に週1回出向き、全学年対象に実施している「本の読み聞かせ」を実施した。 ・青少年育成委員会で、地区の歴史散歩を毎年場所を変えて実施し、地域の歴史を理解し、地域を好きになってもらう事業を実施した。 ・蘇我中学校1年生を対象に、「子どもによる子どものための子どもの権利条約」の読書の勧めと感想文募集を継続実施し、全員の感想文が寄せられた。 ・地区部会が、健康促進に関する講座を実施した。また、食育に関する講座は、令和6年度に実施することに決めた。 ・いきいきサロンを実施し、その中で健康体操などのメニューを取り入れた。 ・子ども会では、地域リーダーを養成するための講習会を開催し、受講者の中には成人後も子ども会行事を手伝っている人もいる。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 ※オレンジフェスティバルの開催については、未定。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	例年、民生委員定例会や地域ケア会議、いきいきサロンで実施している「振り込め詐欺の対応や防止策」等についての講座を実施した。 育成委員会では、青色パトロールを各町内自治会で週割し、実施した。 第9地区連協では、49町内自治会のうち41町内自治会が防犯パトロール隊を結成し、パトロールを実施した。 移動交番が、蘇我コミュニティセンターや東武ストア蘇我店に開設されている。 蘇我中学校区の小・中学生が一緒に作成した「子どもの目からみた安全マップ」を広報紙に掲載している。 地域住民が「こども110番のいえ」に協力している。 PTAが学校の長期休暇に合わせ、防犯パトロールを兼ねて実施している地区内一斉点検に地区部会が協力した。	【重点取組項目】 防犯パトロールをはじめとした防犯活動を通して、地域住民が安心して生活できるよう努めたい。
		19　防災体制の充実	・各町内自治会の自主防災会でそれぞれ活動した。 ・第9地区連で10か所の避難所で運営組織を立ち上げ、各避難所の特性を考慮したマニュアルを作成し、地域の実情に合わせた運営ができるような体制をつくっている。 ・千葉工業高校を会場として、5町会による防災訓練を開催し、訓練には生徒や教員、地域住民が参加した。 ・地域運営委員会が必要に応じ、防災講座を開催した。 ・地区内4か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が、九都県市防災訓練の実施日に合わせ、避難所の設備・備品の点検等を行った。 ・令和6年度は、千葉工業高校と災害時に備えた炊き出し訓練を予定している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　白旗台地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
白旗台地区部会エリア 【人口・世帯数】 27,250人、13,906世帯 【町内自治会数】 ４1町内自治会 【高齢化率】 25.6% 【地域の特徴】 〇白旗、鵜の森町、今井町、大巌寺町、花輪町、宮崎、赤井町の一部、千葉寺町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 古くからの農村地帯と昭和50年代に宅地造成された地域がほぼ同じ割合で混在する区域で、一部住宅地では、高齢化率50%を超える町内自治会もある。 活動事業名 ／ 実績に〇印 いきいきサロン：〇 子育てサロン：〇 散歩クラブ：〇 広報紙：〇 ボランティア講座：〇 ふれあい食事サービス：〇 敬老会：〇 見守り活動：〇 支え合い活動：〇	1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	(1)地域運営委員会機能も有するコミュニティづくり懇談会では、コロナの万全な対策を取って3回の懇談会開催を予定したが、3回目の講師が見つからず本年度は2回の開催となった。 ９月１６日の第1回では「自転車の安全利用と走行環境の整備について」と題して道路部自転車政策課の石黒課長から説明を受け、自転車の安全利用を中心に質疑を行った（参加者68名）。 １２月２日の2回目は「最近の犯罪の特徴と対策」と題して中央署生活安全課の中川係長から説明を受けた。活発な質疑があり理解を深めた（参加者83名） 3回目は「町内自治会等のデジタル活用について」を計画したが、担当部課から適当な講師がいないとのことで中止とした。なお、新年会を１月２０日に開催し、70名の参加で懇親を深められた。又地域全体の活動支援テーマとして避難所の充実と青色回転灯パトロール活動の支援を決定した。 (2)避難所の立上げ訓練等は千葉市の計画日である8/27に7か所ある避難所の大半で実施し、本年は多くの避難所で避難訓練・避難所の立上げ運営訓練が実施でき、更に講演会やAED・応急処置訓練・消火訓練等も行なわれた。 (3)青色回転灯装着車によるパトロール活動については、学校のある日には毎日3台程度でパトロールをほぼ実施できた。不審者の出没抑え込み状況は目標値を少しオーバーしたがまずまずの状況で、又内容として特に心配する不審者情報は0件に減らすことができた。 (4)避難所備蓄品の充実については、エアーマットとトイレキットを購入し7か所の避難所の全てに市の配布品とは別に配布することができた。	【重点取組項目】 (1)地域運営委員会機能も有するコミュニティづくり懇談会で地域課題を解決するため、懇談会テーマおよび活動支援テーマを年初に決め実施する。 (2)コミュニティづくり懇談会や地区部会の主な会には行政やあんしんケアセンター、社協等にも参加してもらい、地域課題解決に向け連携強化を図る。
		2　支え合い活動の仕組みづくり	(1)令和5年度もコロナ問題を引きずり「生活必須」のゴミ出しが大半となった。支援対象を広げることについては、まだ積極的には取り組めなかった。 (2)活動件数は501件（41.75件／月）で目標値の40件／月を達成することができた。年度初めの4～6月が少し少なかったが、その後は目標値をクリアしている。 (3)7/2の理事会後に「地域支え合い活動事業・きずな隊」の研修会を実施した。又協力者の見直しは随時行えた。	【重点取組項目】 (1)住民アンケート等で明らかになった地域の生活課題を解決するために設けた、地域支え合い活動事業「きずな隊」の拡充・強化をはかる。 (2)地域支え合い活動の担い手の新たな確保・更新を実施する。 (3)地域支え合い活動推進の為、必要な会議を開き、PR活動等も行う。
		3　見守り体制をつくる	(1)地区部会を構成する41町内自治会すべてで実施することができた。 (2)活動内容としてはコロナ禍でいろいろ苦労があったが、防犯パトロール活動と連携した「さりげない見守り」を中心に、ほぼ計画どおり継続して実施できたところが多かった。 (3)3月の理事会で実施状況情報交換会を実施した。 (4)広報誌（部会だより）に記事を載せ広報活動も実施した。	【重点取組項目】 (1)日頃の生活の中でさりげない見守りを継続して実施する。 (2)重点見守り対象者、その支援者をできるだけ定めて、もれのない見守りも実施する。 (3)あんしんカード等に必要事項を記載して避難に備えるよう働きかける。
		4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	(1)本年は多くの避難所で一般市民を対象とした避難訓練を4年ぶりに8/27を中心に実施できた。更にAED、応急処置訓練、消火訓練、地震等の体験、講演会等を避難所ごとに選定して実施できた。 要支援者の参加は高齢者を中心に各避難所とも認められたが、重度の方の参加はなかった。又ケアマーネジャーからの相談を受けた報告はないが、町内自治会によっては、要支援避難者・支援者をきちんと決め、周知しているところも認められた。 (2)マニュアルの見直しも、避難所ごとに必要に応じた見直し等を行った。	【重点取組項目】 (1)既に全地域で設置している避難所運営委員会では、1回／年以上一般市民を含めた避難訓練・避難所立上げ・運営訓練を実施する。 (2)各町内自治会で独自の要支援避難者、支援者名簿を作成し安否確認や支援体制を明確にする。 (3)各避難所では運営マニュアルの見直し確認を毎年行う。 (4)出来るだけ避難訓練実施時に講演会や各種訓練も実施して災害に備える。
		5　すべての子どもを地域で育てる	(1)あいさつ運動やのぼり旗の更新等は、ほぼ予定どおり実施できた。又休みあけにはあいさつ運動を各地区で実施した。 (2)こども１１０番の家訪問・駆け込み訓練の再検討は進展しなかったが、青色回転灯装備車によるパトロールは1の(3)のとおり実施できた。また、パトロール車への若干の補助は本年も計画通り実施することができた。 (3)更に蘇我中1年生全員を対象にした「子どもによる子どものための子どもの権利条約」の読書感想文事業は本年度も1年生ほぼ全員（229名）の参加が得られ、内容もかなり充実していた。この内容について3月発行の「青少年育成委員会だより」に載せ地域にも周知した。 (4)各小ともにセーフティウオッチャー活動は活発に実施できた。 (5)通学路の安全対策も少しずつ改善できたが、難しい課題の改善要望等は行ってはいるが、まだ実現できていない。	【重点取組項目】 (1)あいさつ運動を継続して近所の子どもと顔見知りになる。又のぼり旗の更新を適時行う。 (2)学校とも連携し、セーフティウオッチャー活動、青色回転灯パトロール活動を継続する。 (3)「こども110番の家」訪問、挨拶、かけ込み訓練の実施について検討する。 (4)蘇我中1年生を対象にした「子どもによる子どものための子どもの権利条約」の読書感想文事業を継続実施する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　白旗台地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
白旗台地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	(1)「健康」をテーマに地区部会主催で計画したいきいきサロンは、計画した9会場すべてで実施できた。講師は中央保健福祉センター健康課より派遣された保健師、看護師等とあんしんケアセンターで実施した。 (2)各町内自治会主催のものは、コロナ感染予防対策を十分に行いながら実施できた。（12月まで合計93回） 回数はほぼ以前の状況に戻ってきたが、参加人数はまだ以前より少ない状況であった。	【重点取組項目】 (1)地区部会が主催する「ふれあい・いきいきサロン」を健康課等の支援を受けて9回/年程度実施する。 (2)各町内自治会等が主催する「ふれあい・いきいきサロン」の実施を働きかけ支援を行う。 (3)閉じこもりがちな高齢者等に民生委員等と連携し、参加を働きかける。
		7　地域での健康づくり支援の充実	(1)ふれあい散歩クラブ活動は、比較的多くの町内自治会で実施できた。（12月まで合計129回） (2)いきいきサロンでの健康体操についても、継続実施ができたところもあった。 (3)スポーツ振興会主催のものでは、市民体育祭は3小学校区とも再開することができた。（大巌寺小は校庭修理のため体育館でボッチャ大会実施） 各小学校区とも久しぶりの開催でかなり苦労したが実施することができた。（宮崎小は雨天で中止） (4)本年もあんしんケアセンター主催の多職種連携会議が開催されたが他行事と重なり、参加者が限定された。 (5)地区部会主催で「歯っぴ一健口教室」（講師：健康課の保健師、歯科衛生士）を開催し23名の高齢者が参加。	【重点取組項目】 (1)ふれあい散歩クラブ活動等活発化のため、各町内自治会等に働きかけを行う。 (2)ふれあい・いきいきサロンにおいて、介護予防や転倒防止運動を定期的に実施する。 (3)フレイル予防や健康等をテーマとした研修会等を開催する。 (4)スポーツ振興会が主催するスポーツ大会や歴史散歩等の文化活動に、より多くの人が参加するように働きかける。
		8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	(1)蘇我中地区の伝統行事にもなっていた「蘇我の歴史散歩」については、本年度は新しい歴史を作り始めているロックフェスティバルについて「大規模ロックフェスティバルの舞台裏」と題し、研修会に切りかえて実施した。 (2)「放課後こども教室」は本年度、3小学校で実施した。大森小については本年度よりアフタースクールに切りかわった。 (3)スポーツ振興会の市民体育祭は7の(3)のとおり実施できた。又他のスポーツ大会も概ね従来に近い内容で実施できた。 (4)屋内のスポーツイベントについてもほぼ従来のレベルに戻すことができた。	【重点取組項目】 (1)スポーツ振興会主催のスポーツ大会等を支援し、活発化を図る。 (2)歴史散歩等の文化事業を支援し活発化を図る。 (3)高齢者から子どもまで参加して楽しめる「ふれあいひろば」を1回/年開催する。
		9　子育てサロンの充実	(1)コロナの対策をしっかりとりながら計画どおり（4回/月）実施できた。 　参加者は若干減少したが、以前のペースに近づきつつあった。 (2)赤ちゃんのための防災教室（講師：防災対策課須崎氏）も開催し、0～3歳児と保護者等20名が参加した。	【重点取組項目】 (1)地区部会が主催する子育てサロンを2回/月以上開催する。 (2)この中で研修会等も開催し内容の充実を図る。 (3)広報誌等を活用してPR活動を行い参加者の増を図る。
		10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	(1)障がい者対応としては、避難所訓練や地区部会「ふれあいひろば」等の地域行事への参加を予定していたが明確な障がい者の参加はごく少数であった。 (2)それでも避難所の運営委員については女性委員の比率が高まり、また障がい者や外国人が委員になって交流を深められるような避難所が増えてきた。 (3)地区部会では障害者福祉委員会のボランティア講座として「障害福祉事業の歴史と現在の課題」と題し、社会福祉法人みらい工房の平井理事長を講師に迎え43名が参加して講演会を開催した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	(1)子育てサロンをほぼ計画通りに開催し、高齢者スタッフ等を含め幅広い世代間交流はできたが、いきいきサロン等との交流等は進展しなかった。 (2)地域での世代間交流の場である盆踊りや社協まつりについては、ほぼ再開することができたが、盆踊りについてはまだ半分ほどに留まった。 (3)子どもたちや子育て世代が中心となって敬老会を実施し、世代間交流を図る地区もでてきた。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	(1)総合的にみて好ましいかは別として、地区部会をはじめ地域の各種団体の福祉課題の取組において、高齢者の活動は確実に増加し、又その比率も高まってきた。 (2)老人クラブやサークルの福祉施設慰問は、活動団体が十分に復帰しておらず、又福祉施設側の心配もありほとんど実施できなかった。 (3)身近な見守り活動や地域支え合い活動においても、支援者の中の高齢者の比率は確実に高まってきた。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	(1)ふれあいひろばや障がい者も参加する避難訓練は実施できたが、参加数は若干少なかった。それでも避難所運営委員に障がい者がなるケースもあり、活動の範囲は広がりつつある。 (2)障がい者の避難に不安を持つ方も多く、問い合わせや話し合いの場を持つケースも認められたが、障がい者が他の障がい者の為に改善要望する等はまだなかった。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　白旗台地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
白旗台地区部会エリア	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	(1)地区部会主催の研修会を5回（7/2、11/12、11/20、1/17、2/15）実施できた。 (2)コミュニティづくり懇談会では地域福祉活動に関する部分も一部取り入れた懇談会を、コロナ対策を行った上で2回実施し、合わせて151名が参加した。 また、懇談会の内容を「コミ懇だより」に掲載し各家庭に回覧した。 (3)各町内自治会等でも、出前講座等で福祉に関係する研修会等は実施できたが、まだごく一部に限られていた。	【重点取組項目】 (1)地区部会が主催する研修会、講演会を各委員会担当のものを含め5回/年程度実施する。 (2)コミュニティづくり懇談会では2～3回/年、コミュニティ懇談会を開催する。 (3)こうした研修会、講演会、懇談会には地域住民にもできるだけ参加を呼びかける。 (4)地区部会主催のふれあいひろばを1回/年開催し、地域住民や小中学生に来場を呼び掛けるとともに、小中学生がスタッフとして参画することを検討する。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	(1)地域住民等から寄せられる相談は、地区部会役員や町内自治会役員・民生委員等が個別又は共同で対応してきたが、相談件数、情報提供件数は増加傾向が続いている。 (2)相談や情報提供を受けたもののうち、行政やあんしんケアセンター、社協等へつないだ件数も多くなってきた。	【重点取組項目】 (1)地区部会や町内自治会等が開催する諸事案では、スタッフが相談に応じ、必要に応じて専門機関につなぐ等を行う。 (2)民生委員と町内自治会役員は連携を強めて、気軽に相談できる環境づくりを行う。 (3)「中央区ふくし防災ガイド&マップ」の内容の充実と更新を働きかける。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	(1)部会だよりを年1回発行している。 (2)「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」については、3年ごとの更新の年を過ぎたが、こういう時期で延期された。今後の対応について協議を行ったが明確な結論は出せなかった。 (3)地区部会の地域支え合い活動事業「きずな隊」の活動については、部会だよりでPRするとともに、町内自治会長が交替した町内自治会にも周知を再度図った（全町内自治会長等がメンバーの理事会・研修会で再徹底した）。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	(1)地区部会の5つの委員会でボランティア講座を各1回開催した。 (2)蘇我中学校1年生を対象に「子どもによる子どものための子どもの権利条約」の読書の勧めと感想文募集を継続実施し、ほぼ全員から感想文が寄せられている。 (3)青少年育成委員会で地区の歴史散歩を、毎年場所を変えて実施し、地域の歴史を理解し地域を好きになってもらう事業を実施してきた。令和5年度は蘇我で新しい歴史を作りつつあるロックフェスティバルについての講演会を実施した。 (4)すべての子どもを地域で育てる事業では、のぼり旗の更新等も行い、休みあけにはあいさつ運動を展開した。 (5)放課後子ども教室は大森小、宮崎小、大巌寺小全てで実施できた。 (6)青少年相談員が主催した中学3年生を対象にした「新しい価値観」をテーマにした標語募集結果を、青少年育成委員会だよりに載せ周知を図った。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	(1)各町内自治会による防犯パトロールについては、ほぼ例年通り実施できた。 　また、コミュニティづくり懇談会では「最近の犯罪の特徴と対策」と題した講演会を開催した。 (2)青色回転灯装着車によるパトロール活動については、前年度までと同様学校のある日には、毎日3台のペースで実施できた。不審者の出没の抑え込みでは目標値を少しオーバーしてしまったが、内容的には特に心配すべきものを0件にすることができた。	【重点取組項目】 (1)各町内自治会の防犯パトロール隊については活発に活動してきたが、最近中止した所もあり実態を再調査し活性化を図る。 (2) 青色回転灯装着車によるパトロール活動を継続し、不審者出没を抑え込む。 (3)こども110番の家活動について地域や子どもたちに周知し、訪問、挨拶,かけ込み訓練の実施について検討する。 (4)講演会、研修会を開催する。
		19　防災体制の充実	(1)避難所の立上げ等の訓練は、8/27の市の訓練日を中心に一般市民の避難訓練を含めて実施できた。更に多くの避難所では、AED、応急処置訓練、消火訓練、地震等の体験、講演会等を避難所ごとに選定して実施した。 (2)マニュアルの見直しについては、避難所ごとに必要に応じた見直し等を行った。 (3)地域7か所の避難所全てにエアーマット10セット、トイレキット（調整中）を市の支給品とは別にコミコンで配布し備蓄品の充実を図った。 (4)地区部会の児童母子福祉委員会のボランティア講座として「赤ちゃんのための防災教室」を開催し、参考になる多くの話を聞き理解を深めた。	【重点取組項目】 (1)地域の全避難所で避難訓練を実施する。 (2)防災会未設置の町内自治会に、設置の働きかけを行い防災訓練も実施する。 (3)避難所の備蓄品の充実を図る。 (4)防災に関する研修会、講演会を開催する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　生浜地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
生浜地区部会エリア 【人口・世帯数】 24,852人、12,407世帯 【町内自治会数】 １2町内自治会 【高齢化率】 24.9% 【地域の特徴】 〇村田町、浜野町、塩田町、生実町、南生実町を対象としたエリア。 千葉市街地の中心よりやや外れ、南は市原市に接し、西には京葉工業地域を有している。古墳や神社仏閣も多く、古くからの歴史と伝統が引き継がれている地域でもある。	１　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	・「生浜地区地域運営委員会」の4部会、「青少年部会」、「高齢者・要支援者部会」、「防災部会」、「スポーツ部会」で、それぞれ活動を実施した。	【重点取組項目】 「生浜地区地域運営委員会」の4部会、「青少年部会」、「高齢者・要支援者部会」、「防災部会」、「スポーツ部会」が連携を図りつつ、活動を実施していきたい。
		2　支え合い活動の仕組みづくり	・支え合い活動の実施に向け、協議を検討したものの、協議の再開はできなかった。	【重点取組項目】 地域住民の生活課題の解決を図れるよう、支え合い活動の仕組みづくりについての協議を再開していきたい。
		3　見守り体制をつくる	・民生委員が中心となり、見守り活動を実施した。	【重点取組項目】 見守り活動を通して、災害発生時においても円滑な避難ができるよう地域づくりに努めるとともに、活動を町内自治会に広げていきたい。
		4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・特別な訓練は実施できなかったものの、自然災害発生時の合同防災訓練（風水害の対応等）を実施した。 ・「第44回　九都県市合同防災訓練」の日にあわせて、避難所運営委員の行動の共有化を図るとともに、備品の点検を実施した。 ・避難所における感染対策の検討を行った。	【重点取組項目】 特に支援を必要とする地域住民が災害発生時においても円滑な避難ができるよう、防災部会で協議を行っていきたい。
		5　すべての子どもを地域で育てる	・生浜地区の防犯パトロールを実施した。 ・学校が主体となって実施しているセーフティウォッチャーに地域住民が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組んだ。	【重点取組項目】 生浜地区の防犯パトロールやセーフティウォッチャーによる登下校時の児童の見守りを通して、子どもたちが地域の中で安全に過ごせるよう環境づくりに努めたい。
	２　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・令和5年6月より、いきいきサロンを5か所で計35回実施した。 ・老人クラブでは、グラウンドゴルフや輪投げ、ダーツ等の行事を開催した。	【重点取組項目】 いきいきサロンの実施を通して、高齢者が身近なところで集い、交流する場所の機会の充実を図り、閉じこもり防止や仲間づくり、社会参加を図る機会を設け、フレイル予防に努めたい。
		7　地域での健康づくり支援の充実	・「いきいき健康体操教室」を5か所で計70回実施した。	【重点取組項目】 いきいき健康体操教室を実施を通して、地域の高齢者の閉じこもり防止や仲間づくり、健康の維持増進を図る機会を設け、介護やフレイルの予防に努めたい。
		8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・11月に「生浜地区体育祭」を実施した。 ・育成委員会が「子どもふれあい祭り」を開催し、地区部会として体験コーナーを設けて参加した。	【重点取組項目】 「生浜地区体育祭」や育成委員会の「子どもふれあい祭り」の実施を通して、世代を超えたスポーツ活動・文化活動による交流の場を設け、子どもたちの健全育成を図りたい。
		9　子育てサロンの充実	・「子育てサロン」を3か所で計22回実施した。 ・幼稚園、保育所、保育園との情報交換会を実施した。	【重点取組項目】 「子育てサロン」の実施等を通して、子育て中の親子の仲間づくりの場と機会を拡充できるよう努めたい。
		10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・地区部会の障害者委員会が中心となり、7月から障害者福祉施設「こころふる浜野」での支援活動を行った。 ・生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車いす体験やボッチャ体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。	【重点取組項目】 障害者福祉施設での支援活動や障がいに関する学習の機会の場の提供を通して、地域住民の障がい者に対する意識の高揚を図れるよう努めたい。
		11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・生浜地区内のイベント（地域の体育祭・盆踊り・お祭り）を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	－
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	－
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	〇

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　生浜地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
生浜地区部会エリア	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・受け入れ可能な福祉施設へのボランティア活動を実施した。 ・地区部会や町内自治会等、地域団体の役員になっている高齢者は、地域行事でスタッフとして活動している。 ・「セーフティウォッチャー」に地域の高齢者が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組んでいる。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・地域行事（盆踊り）の参加は、インフルエンザ・新型コロナ感染症を考え、障害者施設側より中止との申し出があったため、実施できなかった。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車いす体験やボッチャ体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・ふれあい・いきいきサロンや子育てサロンの中で、個別に取り組んだ。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・地域福祉に関する情報を住民に提供する「地区部会だより」を年3回発行した。カラー印刷にし、紙面の充実を図った。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・各町内自治会で実施している「敬老のつどい」に中学生がボランティアとして参加し、中学生との「福祉のこころ」を育む機会となった。 ・生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車いす体験やボッチャ体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・地区部会が、熟年者を対象とした「電話で詐欺防止講習会」を実施した。 ・防犯パトロールを組織化している町内自治会では、定期的にパトロールを実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		19　防災体制の充実	・自然災害発生時の合同防災訓練（風水害の対応等）を実施した。 ・避難所における感染対策の検討を行った。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　松波地区部会

地区部会エリア

松波地区部会エリア

【人口・世帯数】
4,959人、2,886世帯
【町内自治会数】
１町内自治会
【高齢化率】
22.9%
【地域の特徴】
〇松波を対象としたエリア。
JR西千葉駅の東側に位置し、戸建て住宅がメインとなっている。
エリア内に高校（千葉商業高校）があるほか、隣接するエリアに複数の大学もある文教地区となっている。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	〇
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	－
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	〇

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	・民児協、町会長やスポーツ振興会など地区部会の役員となっており、横の連携はとれている。 ・地域の大きな行事の際は、松波町会、第114地区民児協、商工振興会、子ども会、シニアクラブを含め、地域の関係団体が集まって打ち合わせを行っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・松波会館が地域の拠点となっており、10:00～15:00に事務ボランティアが常駐し対応している。 ・町会有志で「お助けマンクラブ」として草取り、剪定、ゴミだし作業のサービスをしている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　見守り体制をつくる	・「松波見守り隊」を発足し活動しているが、今後見直しを行い、実情にあった活動を検討中である。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・町会の防犯防災部が中心となり年末の夜警を実施した。 ・毎年、松波自主防災会が主催で「防災訓練」を実施し、地区部会、消防団、民生委員・児童委員が協力して訓練を実施している。 ・千葉商業高校の避難所運営委員会が行う避難所開設訓練に、地区部会として協力している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	5　すべての子どもを地域で育てる	・毎年、町会主催「餅つき大会」や弥生小スポーツ振興会主催「弥生小学校地区体育祭」に地区部会が協力事業として活動している。 ・民生委員や地区部会役員が中心となり毎朝、登校時に2か所で声かけを実施している（弥生小セーフティウォッチャー）。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。 ・地区部会と第114地区民児協、松波町会が連携して、多世代交流の輪が広がる「地域食堂　松波のちゃぶ台」を月2回実施している。実施にあたっては、千葉経済学園と近隣高校の学生・生徒も一緒に活動している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	いきいきサロンは、グラウンドゴルフ（雨天及び学校の長期休暇期間は休み）を松波公園で週2回開催するとともに、松波会館で脳トレ会、ウクレレ会を月2回、卓球会を週1回開催し、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・地区部会が「散歩クラブ」を月1回実施している。地区部会役員の中に看護師が3名いるため、開催時には血圧測定を行い、健康と安全管理に注意している。 ・弥生小スポーツ振興会がグラウンド・ゴルフを定期的に開催している。 ・地区部会が主催となり、多世代間交流の場「ドッキングプレイス」の中で、ボッチャと輪投げを実施した。幼児から高齢者まで、30名程度の方が参加した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・地域で開催している「夏祭り」で地区部会として模擬店を出店し、多くの子どもと触れ合っている。 ・毎年、町会主催「餅つき大会」や弥生小スポーツ振興会主催「弥生小学校区体育祭」に地区部会が協力事業として活動している。 ・地区部会が主催となり、多世代間交流の場「ドッキングプレイス」の中で、ボッチャと輪投げを実施した。幼児から高齢者まで、30名程度の方が参加した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	9　子育てサロンの充実	地区部会が、子育て中の親子を対象に、月2回、工作、季節のイベントや、中央区健康課の保健師、栄養士、歯科衛生士による指導、スタッフ（助産師）による育児相談等を内容とした子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・年末に、80歳以上の独居高齢者を対象としたプレゼント用に、オリーブハウスでクッキー（100個）を購入し、販売促進に協力している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・地区部会が主催となり、多世代間交流の場「ドッキングプレイス」の中で、ボッチャと輪投げを実施した。幼児から高齢者まで、30名程度の方が参加した。 ・地区部会と第114地区民児協、松波町会が連携して、多世代交流の輪が広がる「地域食堂　松波のちゃぶ台」を月2回実施している。実施にあたっては、千葉経済大学や千葉経済大学附属高校の学生・生徒も一緒に活動している。	【重点取組項目】 地域食堂「松波のちゃぶ台」や「ドッキングプレイス」の実施などを通して、地域住民が世代の枠を超えて交流できる機会の創出を図りたい。
3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・ふれあい事業や敬老会、夏祭り、防災訓練など、高齢者が深くかかわり活動する機会を提供している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・年末に、80歳以上の独居高齢者を対象としたプレゼント用に、オリーブハウスでクッキー（100個）を購入し、販売促進に協力している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　松波地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
松波地区部会エリア	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・松波町会が主催となり、11月にロコモ予防教室を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 また、あんしんケアセンターと障害者基幹相談支援センター主催の精神疾患についての勉強会に地区部会が協力する。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・松波会館が地域の拠点となっており、10:00～15:00に事務ボランティアが常駐しているため、内容により対応可能である。 ・相談があれば、地区部会もしくは町会を通して、可能であれば対応している。 ・民生委員・児童委員も個別で相談に対応している。 ・ホームページにより、地域情報を発信している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	地区部会が、地域住民を対象に、地区部会活動の紹介と啓発、会員の募集状況等の報告、毎月の地区部会事業の日程の周知やボランティア募集を図るため、社協だよりを、年4回発行している。また、毎月の予定を町内掲示板を使い周知している。 ・千葉市松波町会のホームページのリンクより、「社協松波地区部会」、「お助けマンクラブ」ほか諸団体のページに飛ぶことが出来るようしており、地域情報発信の充実を図っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	敬老会に、千葉商業高校の吹奏楽部が参加し、福祉の心を育む機会を設けた。 町会の夏祭りには、子どもたち（クラーク国際高校の生徒）が山車を一緒にひき、地域住民との交流を図ることができた。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・有志が月2回、夜間パトロールを行っている。 ・移動交番が月1～2回、松波会館駐車場で活動しており、町会、民生委員・児童委員、地区部会と情報交換している。警察から防犯に関する注意喚起の情報提供をいただいている。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。 ・民生委員や地区部会役員が中心となり毎朝、登校時に2か所で声かけを実施している（弥生小セーフティウォッチャー）。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		19　防災体制の充実	（No.4と同様）	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　松ケ丘地区部会

松ケ丘地区部会エリア

【人口・世帯数】
11,403人、5,875世帯

【町内自治会数】
３６町内自治会

【高齢化率】
25.1%

【地域の特徴】
〇松ケ丘町の一部、仁戸名町の一部、星久喜町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。
戦後、京葉臨海工業地帯造成発展に伴い、全国から人が流入し人口が急増。以前は川鉄及びその関連会社に勤める住民が中心であったが、近年はその傾向は減少。平成4年度、千葉急行（現京成電鉄）の大森台駅が開業によりJR千葉駅や東京方面への交通の便が改善され、地区の活性化に役立っている。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	〇
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	〇
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	〇

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	・「松ケ丘中学校地区地域運営委員会」が設立され、現在、地域の47団体が参加している。 　本委員会に4つの部会（円卓会議、地域問題検討部会、広報部会、ふるさとまつり部会。なお、ひだまり運営部会は平成28年度から独立した。）を設け、ホームページによる地域行事等の情報発信、ふるさとまつりの開催など、諸事業に取り組むとともに、円卓会議を月１回開催し、構成団体が、地区の課題や情報を共有した。 　特に重要な地域課題については、地域問題検討部会（年4回）において、地区の将来像や地域の実情に合った活動について話し合い、継続的、計画的な住民同士の「助けあい・支えあい」による地域運営に取り組んだ。 　地域の各団体の関係が密になり、地域の様々なイベントにおいて協力体制が整ってきており、効果が表れている。 ・地区部会の会議や活動を通じて関係団体との連携を図っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・地区部会が、高齢者等を対象に、雑草取り、刈り込み、立木の一部伐採作業等をお手伝いし、ひとり暮らし高齢者等の生活の一部を支援した。 ・地区部会スタッフを中心とした「ひだまり運営委員会」が、住民が気軽に立ち寄れる地域の交流の場を運営した。 ・地区部会が、ふれあい食事サービスを年3回実施した。（1回あたり200食） ・地域住民が気軽に集まり、誰もが参加できる集い・交流の場を設けた。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　見守り体制をつくる	・地区部会が、ひとり暮らし高齢者や障がいのある方などのうち、見守りを希望する方（手上げ方式）及び見守りが必要と思われる方に対し、目配りや電話による安否確認を実施し、継続した見守りに取り組んだ。 　また、町内自治会や協力員に対し研修会を実施し、見守り活動に対する理解を深めることができた。 　定例理事会を開催し、毎月活動報告を行っている。	【重点取組項目】 　ひとり暮らし高齢者等に対する見守りを通して、災害発生時においても円滑な避難ができるような地域づくりに努めたい。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・地区内の避難所4か所すべてに「避難所運営委員会」が設置されており、避難所運営委員会ごとに訓練を実施した。 ・松ケ丘地区独自の「自主防災・防犯の会」が、地区全体の防災研修会や防災訓練を年2回以上実施した。 ・各町内自治会に自主防災会が組織されており、自主防災会ごとに年2回以上の訓練は実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	5　すべての子どもを地域で育てる	・セーフティウォッチャーは、毎日の下校時、町内自治会長を中心とした各町会（各町会5人程度）が協力している。 ・有志の方が、朝、あいさつ運動を実施している。 ・地区部会のネットワーク委員会が、月・水・金曜日の下校時、青色パトロール車1台で、地区内（主に裏通り）を巡回し、声かけを主体にパトロールしている。また、自主防災・防犯の会も青色パトロール車でパトロールを行っており、地区全体で10台の車両でパトロールを実施した。 ・「こども110番のいえ」にも、地域の方（約180件）に協力いただいている。 ・PTA、地域と小学校が連携し、5年生が里山事業（田植え～稲刈り、竹の子掘り等）を実施した。 ・育成委員会と各種団体が連携し、「子どもの広場（年1回から2回に増加）」や「子ども夏まつり」、「新春マラソン大会」を実施し、また、松ケ丘小・仁戸名小・松ケ丘中・淑徳大学で昔あそびを教えた。 ・「子ども食堂」を月1回実施した。 ・活動拠点「ひだまり」で『どこでもこどもカフェ』を開設し、放課後の児童の健全育成や居場所の提供を図った。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・地域交流の拠点として「ひだまり」を運営し、月～土曜日、役員が当番制で常駐している。誰もがいつでも立ち寄り、地域住民の交流の場となっている。 ・いきいきサロン（高齢者福祉委員会）を年6回、3会場で開催した。また、活動拠点「ひだまり」にて『ゆうあいひろば』を月1回（祝日は休み）開催した。年々参加者が増加している。 ・活動拠点「ひだまり」で、『カラオケサロン（毎月第2・第4火曜日）』を開催し、地域住民の交流の機会を提供した。	予定：前年度同様の取組みを継続するほか、新たに「昭和熟女のおしゃべりクラブ」を月1回、スマホ教室を月2回実施する。
	7　地域での健康づくり支援の充実	地区部会では、「いきいきサロン」や高齢者向けの集いの場「ゆうあいひろば」のメニューとして淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、介護予防やひきこもり防止の講話（相談含む）を行った。 　また、「いきいき散歩クラブ（高齢者福祉委員会）」を月2回開催した。 　さらに、千葉市のシニアリーダー養成講座修了者と協力し、松ケ丘公民館（週1回）、恵光園（週1回）、仁戸名町内自治会館（週1回）、第3公園（週1回）でシニアリーダー体操を実施し、高齢者の健康維持・増進を図った。 　あんしんケアセンターでは、さくら会館で健康体操を実施した。 　各町内自治会では、有志によるグラウンドゴルフは盛んに行われ、大会を年3回開催している他、スポーツ振興会が年2回、大会を開催した。 「淑徳大学看護栄養学部」と「ひだまり運営委員会」が連携し、「淑徳オレンジカフェ」を月1回開催した。	【重点取組項目】 　「いきいき散歩クラブ」や「シニアリーダー体操」の実施などを通して、地域高齢者の閉じこもり防止や仲間づくり及び健康の維持増進を図る機会を設け、介護・フレイルの予防に努めたい。 ボッチャを月1回実施する。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・PTA、地域と小学校が連携し、5年生が里山事業（田植え～稲刈り、竹の子掘り等）を実施した。 ・育成委員会と各種団体が連携し、「子どもの広場（年1回から2回に増加）」や「子ども夏まつり」、「新春マラソン大会」を実施し、また、松ケ丘小・仁戸名小・松ケ丘中・淑徳大学で昔あそびを教えている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　松ケ丘地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
松ケ丘地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	9　子育てサロンの充実	・子育てサロン（児童母子福祉委員会）を年9回実施した。毎年、淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、幼児相談や母親相談を取り入れて活動した。 　今後も同学部と連携、協力し継続する。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・町内自治会関係者等を対象に、車椅子講習会を実施した。 ・小・中学生を対象にした車いす体験を実施していく予定である。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・地区部会スタッフを中心とした「ひだまり運営委員会」が、月曜日から土曜日の間、役員が当番制で開設し、誰もがいつでも立ち寄れる地域住民の交流の場を提供した。高齢者の交流を中心に、小、中学生の自習や友人との交流の場として利用されている。地域の各種団体の会議やイベント、親睦の場としても使用されており、他地区からの見学も増えている。 ・毎週金曜日の17：00～20：00に「ひだまり」で「大人の時間」を実施し、地域住民の交流の場を提供している。地域のことについて意見交換を行い、意思疎通を図っている。 ・地域運営委員会が「ふるさとまつり」を実施し、誰でも参加できるイベントで交流を図った。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・民生委員が中心となり、都苑への施設見学や手伝いを行った。 ・地域の高齢者が「お助け隊」のボランティアとなり、活動を行っている。また、地域行事には、高齢者がボランティアとして参加している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	（№10と同様）	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・年2回、ボランティア委員会で講座を実施している。 ・淑徳大学看護栄養学部と連携し、「ひだまり」で月2回（第1・第3月曜日）、健康や栄養相談を実施している。 ・月１回開催している「淑徳オレンジカフェ」では、認知症に関する理解の普及に努めている。 ・あんしんケアセンターと協力して、認知症サポーター研修を松ケ丘公民館で実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続するが認知症サポーター研修については、今年度から地区部会、あんしんケアセンター、松ケ丘公民館の三者の共催により実施する予定。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・松ケ丘中学校区地域運営委員会が毎月開催している「円卓会議」で各団体のイベントや活動の情報収集及びPRに努め、運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載するとともに、「ひだまり」にサークル紹介や各団体のチラシを掲載、配布して情報発信に努めた。 　また、地区部会でもホームページを開設し、情報発信を行っている。 　なお、「ひだまり」に役員が当番制で常駐し、問い合わせに対応し、その場で回答できないものは関係団体から回答する体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境づくりに取り組んだ。 ・毎週金曜日の17：00～20：00に「ひだまり」で「大人の時間」を実施し、地域住民の交流の場を提供している中で、悩みなどの相談に応じた。	【重点取組項目】 「ひだまり」における相談できる環境づくりや地域の情報発信などを通して、福祉に関して気軽に相談に乗るとともに地域住民がより適切に情報を入手する機会を設け、地域での孤立化の防止を図れるよう努めたい。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・年3回社協だよりを発行し、地域の協力者を通じて全戸配布している。 ・「ひだまり」にも、市の便利帳や各種情報を掲載している冊子を置いている。 ・松ケ丘小学校地区の町内自治会の「防災マップ」を作成している。 ・松ケ丘中学校地区地域運営委員会が運用するホームページにより地域のイベントや出来事を掲載し、情報発信に努めた。 ・松ケ丘地区部会のホームページを開設し、情報発信を行っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・ジュニアボランティア隊を結成し、各イベントの手伝いを行っている。 ・淑徳大学看護栄養学部の学生と高齢者との意見交換会を実施した。 ・地区部会が、淑徳大学看護栄養学部の学生に、看護実習などの際、高齢者とのコミュニケーション手段として役立ててもらうため、年１～２回、昔遊び等を教えている。 ・放課後子ども教室に地域住民が協力している。 ・松ケ丘小3年生、仁戸名小5～6年生に地域の歴史や昔話を伝える授業に、地区部会が協力している。 ・松ケ丘小学校が「まち探検」を行っており、地域の方が質問に答える等、協力している。 ・年2回、ボランティア委員会で講座を実施した。 ・松ケ丘小の地域の様々なボランティアの話を聞く授業に協力している。 ・淑徳大学看護栄養学部と連携し、「ひだまり」で月2回、健康や栄養相談を実施している。 ・月１回開催している「淑徳オレンジカフェ」では、認知症に関する理解の普及に努めている。 ・あんしんケアセンターと協力して、認知症サポーター研修を松ケ丘公民館で実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・「まちの交番」として移動交番が月１回、「ひだまり」を利用している。 ・自主防災会が、青色パトロール車（10台）で毎週土曜日に巡回活動を行っている。 ・地区部会のネットワーク委員会が月・水・金曜日の下校時、青色パトロール車１台で、地区内（主に裏通り）を巡回し、声かけを主体にパトロールしている。 ・「こども110番のいえ」にも地域の方（約180件）に協力いただいている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		19　防災体制の充実	（№4と同様）	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　川戸地区部会

地区部会エリア

川戸地区部会エリア

【人口・世帯数】
6,953人、3,453世帯

【町内自治会数】
１３町内自治会

【高齢化率】
30.0%

【地域の特徴】
〇川戸町、仁戸名町の一部、赤井町の一部、平山町（緑区）の一部を対象としたエリア。千葉市の中央台地に位置し、大網街道を境に東側は旧川戸の部落で、西側は高層住宅の立ち並ぶ地域である。周辺には、千葉南高校、千葉県がんセンター、国立千葉東病院などの公的機関が存在するが、千葉市の公的機関が少なく、川戸公民館が唯一のコミュニティの場である。また、高齢化率については、30%を超え高くなっている地域である。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	－
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	〇
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	〇

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	例年、地区部会が主催する行事や活動は、今年度においてもコミュニティ懇談会、第21地区連絡協議会、民生委員・児童委員協議会、スポーツ振興会、PTA、子ども会など、各種地域の関係団体の協力を得て実施している。 ・いきいき活動（バス研修日帰り旅行）を6月に実施した。 ・高齢者等のちょっとした困りごとの手伝いをする「お助け隊」を16件実施した。 ・地域の高齢者や障がいのある方を対象とした見守り隊活動を実施した。 ・ふれあい食事サービスを川戸公民館で5月に実施した。 ・敬老会を「淑徳大学第2キャンパス」で開催した。 ・福祉バザーを川戸公民館で10月に開催した。	【重点取組項目】 川戸地区の各種団体の強みを活かし、地域課題の解決に向けて連携を図りながら、各種事業の実施に努めたい。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・地区部会が高齢者や障がいのある方を対象に、簡易な草取り、話し相手等、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「お助け隊」を継続しており、令和5年度は16件実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　見守り体制をつくる	地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方を対象に、日常的な目配りや声掛けによる安否確認等を行い、安心して地域で暮らせるよう、毎日、または定期的に見守り活動を実施した。また、見守り報告会については、9月、3月に実施した。	【重点取組項目】 公的機関やあんしんケアセンターと連携した見守り活動を通して、災害発生時においても円滑な避難ができるような地域づくりに努めたい。 見守り報告会については、9月、3月の実施を予定している。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・地区内の3か所の避難所すべてに避難所運営委員会があり、避難訓練を実施した。 ・町内自治会単位で防犯パトロールや防災訓練を実施した。 ・地区部会の災害時の支援としては、火災や災害の被害にあった方に対し、見舞金制度を設けているが、令和5年度は見舞金の支払いはなかった。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	5　すべての子どもを地域で育てる	・育成委員会が実施している年2回のパトロールに協力した。 ・例年9月に川戸小学校、川戸中学校、川戸保育所地区の清掃活動をPTAが実施しているが、今年度は雨天のため中止となった。 ・子育てサロン「も一も一クラブ」を年9回実施した。 ・敬老会には、千葉南高校、川戸中学校、川戸小学校の児童・生徒や地域の各種団体が参加し交流を図っているが、令和5年度は川戸小・中学校の合唱、踊りの参加の実現にはいたらなかった。 ・地域住民がセーフティウォッチャーに協力した。 ・放課後子ども教室に地域住民が協力した。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 清掃活動は予備日を設けて悪天候時に対応する（9月予定）。敬老会も同様に計画中。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	地区部会が、いきいきサロン「ひまわり会」を年12回実施した。 コロナ禍で閉じこもりの高齢者に外出・交流を図る目的で、回数を増やすとともに、会員を増やすことができた。 いきいきサロン「ひまわり会」では、スポーツ振興会の協力でボッチャを取り入れ、参加者の運動機能の向上を図った。	【重点取組項目】 いきいきサロンの実施を通して、地域の高齢者の閉じこもり防止や仲間づくり、社会参加を図る機会を設け、フレイルの予防に努めたい。 いきいきサロンは、年12回の実施を予定している。
	7　地域での健康づくり支援の充実	スポーツ振興会が毎週日曜日にラジオ体操と散歩を実施した。 また、いきいきサロン「ひまわり会」では、スポーツ振興会の協力でボッチャを取り入れ、高齢者の健康維持、運動機能の増進を図った。	【重点取組項目】 ラジオ体操や散歩活動、いきいきサロンにおけるボッチャなどを通して、地域の高齢者の閉じこもり防止や健康の維持増進を図る機会を設け、介護・フレイルの予防に努めたい。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・地域の団体が「盆踊り大会」「運動会」「菊見会」「子ども会バザー」「正月の凧作り・凧揚げ」等を実施し、地区部会が協力している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 盆踊りは名称を「夏祭」に変更する。
	9　子育てサロンの充実	地区部会が、子育てサロン「も一も一クラブ」を年9回実施し、子育て支援を図った。	【重点取組項目】 子育てサロンの実施を通して、地域の子育て中の親子の孤立化を防止し、仲間づくりの場を設けるよう努めたい。 子育てサロンについては年9回の実施を予定している。
	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・障害者グループホーム「りべるたす」とは、家庭ごみ廃棄、買い物支援などで交流を図っている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　川戸地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
川戸地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・敬老会は、13町内自治会合同で実施した。川戸小・中学校の参加はなかったものの、地区の太鼓祭りや千葉南高校吹奏楽部、千葉中央警察署の詐欺防止に関する講話などを実施した。 ・福祉バザーを実施し、地区部会では煮物などの提供を行った。 ・各団体が、盆踊り大会、スポーツ祭り（運動会）を実施した。また、餅つきは希望を縮小し、日程を短縮した上で実施した。	【重点取組項目】 　敬老会や各種行事の開催などを通して、地域住民が世代の枠を超えて交流できる機会を創出したい。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・敬老会を実施し、会の中で地域の方が一体となって盛り上げている。 ・地区部会や町内自治会等、地域団体の役員になっている高齢者は、地域行事でスタッフとして活動した。 ・地区部会の見守り隊やお助け隊の協力員として高齢者に参加いただき、その都度課題に対応していただいた。 ・満100歳の方に祝い金を渡しているが、令和5年度も対象者がいなかった。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	（№10と同様）	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・地区部会が、介護教室（運動に関すること）を11月に実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 また、介護教室と同時期に公民館主催事業の食の健康教室で協働実施（11/26実施予定）。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・町内自治会長や民生委員が個別の相談対応を行っている。 ・各町内自治会及び民児協より地区部会役員として選任されているため、地区部会の状況や対応内容等、情報がスムーズに流れるよう心掛けている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 見守り報告会において、あんしんケアセンター松ケ丘より情報提供の予定。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	地区部会が、地域福祉に関する情報を住民に提供するため、広報紙を年1回発行している。コロナ禍においても各種行事は行ったものの、今年度も広報紙の発行は見合わせた。	【重点取組項目】 　広報紙の発行についての検討などを通して、地域での孤立化の解消を図れるよう努めたい。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・地区部会が開催する敬老会には、川戸小学校、川戸中学校の児童・生徒の参加は実現しなかったものの、千葉南高校が高齢者と交流する機会を設けた。 ・PTA・スポーツ振興会主催の餅つきや運動会、地域のサークルと子育てサロン（も一も一クラブ）との菊見会、川戸保育園の七夕まつり、中学校の盆踊り等、地域行事を通じて、高齢者と児童の交流を図っている。 ・放課後子ども教室に地域住民が協力している。 ・地区部会が、福祉に関する講座を7月に実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 なお、PTAはコミ懇へ変更。 福祉講座も計画している。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・地区部会の見守り隊やお助け隊の協力員から、地域の犯罪被害に関する情報が届くことも多い。 ・町内自治会単位で防犯パトロールや防災訓練を実施した。 ・学校とPTAが、夏休み、冬休み前の年2回、防犯パトロールを実施した。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		19　防災体制の充実	・町内自治会単位で防犯パトロールや防災訓練を実施した。 ・地区内の3か所の避難所すべてに避難所運営委員会があり、一部を除いて避難訓練を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　星久喜地区部会

星久喜地区部会エリア

【人口・世帯数】
11,533人、5,900世帯

【町内自治会数】
２４町内自治会

【高齢化率】
29.8%

【地域の特徴】
〇矢作町、星久喜町の一部、松ケ丘町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。
かつては純農村地帯だったが、東金有料道路の開通・宅地化の波とともに、世帯数も増加した。
「千葉市都市緑化植物園」「青葉の森公園」などの公共施設を抱え、緑に囲まれ恵まれた環境にある。

実施事業	実施に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	－
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	－
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	－

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進（R6～：地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進）	・地域運営委員会では、地域団体の事業の日程調整を行い、理事会を開催し、共通理解、連携強化に努めた。 ・地域運営委員会のホームページを随時更新し、情報発信に努めた。	【重点取組項目】 地域運営委員会など、地域内の各種団体のそれぞれの強みを活かしながら、地域団体事業日程調整を行い理事会を開催することや、地域運営委員会のホームページを更新し情報発信を行うなど、地域課題の解決に向けて引き続き連携の強化を図りたい。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・主に民生委員は個別の相談対応に当たっている。また、あんしんケアセンターなどにも相談している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	3　見守り体制をつくる	・23町内自治会で、高齢者などに対し、各町内自治会の班長が、日常的な目配り、心配りによる安否確認を行い、継続して見守り活動を行っている。 各班長に「見守り協力員の証」を配布し、何か気づいたことがあれば、民生委員や町内自治会長に連絡する体制を整えている。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・地区内にある3か所の避難所全てに避難所運営委員会が設立されており、避難所ごとに訓練を実施した。また、各町内自治会の班長が見守り協力員になっており、日常の見守り活動を災害時にも生かす仕組みとしている。 ・町内自治会単位でも防災訓練を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	5　すべての子どもを地域で育てる	・地区部会ボランティア及び青少年育成委員会等が、子どもたちの安全を守るため、毎日の登下校時にセーフティウォッチャー活動を実施した。 ・青少年育成委員会が、長期休暇前の学区点検を実施した。 ・育成委員会と地区部会が共催している書き初め練習会・書き初め展示会を実施し、子どもたちとの交流を図った。 ・育成委員会と公民館共催の「プチ夏祭り」において、スイカ割りや「怖い話」の朗読を実施した。 ・「お泊りイン星久喜」は中止になったが、代替事業として、凧作りと凧あげ大会を開催した。 ・星久喜公民館文化祭において、地域運営委員会が「星フェス」を開催した。 ・スポーツ振興会主催の地域運動会を開催した。	【重点取組項目】 セーフティウォッチャー活動や学区点検活動、各種イベントの実施などを通して、子どもたちが地域で安全かつ健やかに過ごせるような環境づくりに努めたい。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・地区部会が70歳以上の高齢者を対象に、青葉の森公園・都市緑化植物園の散策・クリスマスお楽しみ会などのいきいきサロンを年8回（うち1回は落語）実施し、高齢者の仲間づくりや健康維持に取り組んだ。 ・地域運営委員会で脳トレサロンを前期9回、後期9回開催し、高齢者の認知症やフレイルの予防に取り組んだ。 ・75歳以上の高齢者を対象に、敬老祝賀の会を開催した。	【重点取組項目】 いきいきサロンの実施を通して、地域の高齢者の閉じこもり防止や仲間づくり、社会参加を図る機会を設け、フレイルの予防に努めたい。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・スポーツ振興会が中心となって、グラウンドゴルフ大会などを開催した。 ・スポーツ振興会が実施している「ふれあい大運動会」では、高齢者が参加する競技を取り入れた。 ・いきいきサロンでも、青葉の森公園や都市緑化植物園での散策が行われた。 ・青葉の森ラジオ体操会が、青葉の森公園中央広場で、毎朝、ラジオ体操を行った。 ・一部の町内自治会が、あんしんケアセンター松ケ丘と連携し、介護予防や健康づくりの取り組みを行った。 ・脳トレサロンにおいて、笑いヨガ・体操の時間を設けた。	予定：前年度同様の取組みを継続する。 また、星フェスにおいて輪投げゲームを行い、小さなお子さんから高齢者まで様々な世代での健康づくりを推進する。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・育成委員会と地区部会が、令和5年末に書初めの練習会・令和6年の年明けに書初め展示会をそれぞれ開催した。 ・育成委員会と公民館が共催し、凧作り、凧あげ大会を開催した。	予定：育成委員会と地区部会とで書初め練習会と展示会をそれぞれ開催する。
	9　子育てサロンの充実	地区部会が、子育て中の親子を対象に、年10回都市緑化植物園のお散歩、読み聞かせ、歯科衛生士のお話、栄養士のお話、クリスマスお楽しみ会、七夕等を内容とした子育てサロン「トントンルーム」を実施し、仲間づくりに取り組んだ。	【重点取組項目】 子育てサロンの実施を通して、地域の子育て中の親子の孤立化を防止し、仲間づくりの場を設けるよう努めたい。
	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・公民館文化祭は開催されたが、作業所作品販売がなかったため、障がい者福祉委員会によるお手伝いは中止となった。	【重点取組項目】 地域において障がい者が活動できる機会を設け、障がい者と地域住民が相互理解できるよう努めたい。 公民館文化祭において、作業所作品販売が行われるようであれば、協力を行う予定である。
	11　世代間交流の場の提供（R6～：世代間交流と生涯活躍の場の提供）	・「バス日帰り旅行」を実施した。 ・公民館文化祭において、地域運営委員会主催で「星フェス」を開催した。	【重点取組項目】 日帰りバス旅行や、地域運営委員会主催の「星フェス」の実施などを通して、地域住民が世代の枠を超えて交流できる機会を創出したい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票　星久喜地区部会

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定
星久喜地区部会エリア	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・毎朝、星久喜小学校通学路においてセーフティウォッチャー活動を実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・障がい者福祉委員会による「車椅子介護講習会」を実施した。 講習会では車椅子10台を借り、実習を行った。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供（R6～：地域福祉活動に参加する機会の提供や地域福祉に関する講座の開催）	・障がい者福祉委員会による「車椅子介護」をテーマとした研修会を実施した。	【重点取組項目】 福祉講座の開催を通して、地域住民が地域福祉活動に参加するきっかけづくりの場を設けるよう努めたい。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・民生委員や地区部会事業のボランティアが個別の相談応対に当たり、地区部会役員はパイプ役を担った。 ・認知機能の低下を防ぐ効果が期待できることから、脳トレを月2回2会場で開催した。併せて、参加者の相談に対応するため、あんしんケアセンターと連携した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・広報紙「ふくし」を年2回発行した。 ・緊急ノートを独居と75歳以上高齢者を対象に配布しており、対象世帯と民生委員がそれぞれ保管している。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	（№14と同様）	目標： 福祉講座の開催を通して、地域住民が地域福祉活動に参加するきっかけづくりの場を設けるよう努めたい。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・「こども110番のいえ」を実施している（約100軒）。 ・一部の町内自治会では、防犯パトロールを実施した。	予定：前年度同様の取組みを継続する。
		19　防災体制の充実	（№4と同様）	予定：前年度同様の取組みを継続する。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）総括表

◆基本方針別取組状況

【達成状況の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた　○：年度目標が概ね達成できた
△：年度目標の一部が達成できた　×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった

基本方針	取組項目数	重点取組項目数	重点取組項目の達成状況		主な取組内容
1　心身の健康と交流の場づくり	8	8	◎	1	・各サロン活動、ふれあいコンサート、障害者バス旅行など、交流と介護予防に重点をおき実施。下半期からは、概ねコロナ前の活動規模の水準まで回復している。【朝日ヶ丘】 ・散歩クラブの参加グループが1つ増え、5グループとなった。また、犢橋小学校体育館において、夏休みカレー食堂を新たに開催した。更に、こども防災教室や落語会等のイベントも実施した。【犢橋】 ・いきいきサロンは、月2回継続実施し、ふれあい食事サービスは年4回配食方式で実施した。【幕張・武石】 ・ふれあい３事業は78ヵ所で開催、敬老会は4か所（9町内自治会）で開催された。また、柏井地区子ども会で「歩いてビンゴ」を実施し、併催で認知症の方への声かけ・見守り訓練を実施した。【花見川】 ・社会福祉法人やあんしんケアセンターと連携し、多世代交流カフェの活動に参画した。【こてはし台】 ・全世代参加型の新規事業立ち上げに向けて、検討を行った。【こてはし台】 ・地域内で活動している団体や行政の方を講師に招き、隔月に1回（2部制）セミナーを開催し、地域の方々に行政の制度や地域の活動、問題などについて、理解を深めていただく機会を提供した。【天戸】 ・「福祉まつり」を4年ぶりに再開、様々な団体との連携により、2会場で実施した。【さつき】
			○	6	
			△	0	
			×	1	
2　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	16	16	◎	0	・地域に（見守りに関する）アンケートを取る方向で動くことができた。【検見川】 ・敬老会の再開や各サロン活動・親子の集いの継続により、顔の見える関係づくりに努めた。また、「花園おせっかい」活動や地区部会だよりを通じて見守り活動等の啓発活動を実施した。【花園】 ・ある自治会では、分散避難の実施に向けチラシで周知し、訓練を実施。終了後に安否確認も実施した。【花園】 ・あんしんケアセンターや消費生活センターと連携し、講演会を実施した。また、地域運営委員会や学校評議会等の会議が再開されたことにより、地域の各種団体等と連携を図ることができた。【朝日ヶ丘】 ・町内自治会を通じて、見守りたよりを配布・回覧した。また、ボッチャイベントの開催、新規サロン開設、県立特別支援学校イベントを通じて交流を図るとともに、見守り活動を継続実施した。【こて台中】 ・令和5年度は、避難行動要支援者名簿に基づき、対象者の見直しを行い、訪問を実施した。【幕張・武石】 ・あんしんケアセンターと連携し、専門医による認知症予防講座をオンライン形式で実施した。【幕張・武石】 ・3町内自治会で月1回の見守り活動を継続実施した。また、子ども会行事での認知症啓発活動、認知症サポーター養成講座の開催、地域ケア会議等へ参加した。【花見川】 ・花見川団地内の支え合い活動を継続実施した。【花見川２】 ・地域ケア会議に参加し、「高齢化地域の課題」について各団体と意見交換を行った。【こてはし台】 ・サロンにあんしんケアセンター等の関係職員を招き、フレイル予防や健康寿命延伸に努めた。【天戸】 ・「高齢者緊急通報システム」は有効な手段であるため、普及・啓発活動を行った。【天戸】 ・避難行動要支援者名簿の申請団体の普及・啓発に向け民生委員との情報交換に努めた。【天戸】 ・地区部会活動を通じて、一部の関係機関と連携強化を図れた。【天戸】 ・「ご近所のたすけあい」活動を継続実施。ボランティアだよりにスーパー等の宅配状況を掲載した。【さつき】 ・朝のゴミ出し支援は継続して実施。また、社会福祉法人の車輌を利用した買物支援事業を年5回実施した。【畑】
			○	12	
			△	3	
			×	1	
3　地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	7	7	◎	1	・ボランティアの発掘等に向け検討会議を開き、組織の見直しを図り、次年度から動けるようにした。【検見川】 ・ボランティア講座の開催に向け、話し合いを持ち準備を進めた。【検見川】 ・地区部会の担い手確保を図るため、SNSを通しての広報活動を検討した。地区のイベント開催時に、地区部会の担い手確保を図るためパネルやポスターを展示した結果、新規協力者の確保につながった。【朝日ヶ丘】 ・専門職を講師に迎え健康体操教室を開催し、高齢者の介護予防や担い手の確保等に努めた。【花見川２】 ・団地内に新たに子どもカフェを立ち上げ、子どもたちの居場所づくりに努めた。【花見川２】 ・ホームページの充実に向けて、体制強化の検討を行った。【こてはし台】 ・ホームページ・メールマガジンの管理充実の検討は行ったが、広報紙の発行には至らなかった。【天戸】
			○	2	
			△	1	
			×	3	
4　安全・安心なまちづくり	3	3	◎	0	・町内自治会によっては、避難所運営マニュアルの改定を行い、訓練を実施した。また、分散避難における支援物資を得る方法のお知らせ文書を作成した町内自治会もあった。【花園】 ・避難所運営委員会は、地区部会内3か所と地区部会外との混合構成3か所で構成されている。また、防災防犯パトロールについては、毎月13か所、不定期3か所、歳末4か所で行われている。【花見川】 ・分散避難推進を目的とした避難施設の増設の検討を近接の町内自治会と行った。【天戸】
			○	0	
			△	2	
			×	1	
今年度の振り返り	34	34	◎	2	令和5年度は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが第5類へと移行となったこともあり、食事を伴う活動など、コロナ禍では全く開催することができなかった活動も再開されるようになってきた。 また、地域によっては、新規事業にも取り組むなど、コロナ前の活気がようやく地域に戻ってきた感があった。
			○	20	
			△	6	
			×	6	

今後の課題と方針	新型コロナウイルス感染症による地域への影響もだいぶ緩和され、地域全体の活動が徐々に再開されたことにより、地域全体に活気が戻りつつある。しかし、一方で地域福祉活動の停止が長期化したことにより、担い手の高齢化や次世代へのノウハウの継承が課題となっている。 今後は、第５期花見川区支え合いのまち推進計画に基づき、地域の実情に応じた活動を展開するとともに、これらの地域課題解決にむけ、関係機関や団体との連携強化を図っていきたい。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第１回	７月１２日（水）	・第５期花見川区支え合いのまち推進計画の進捗状況（令和５年度）について ・花見川区支え合いのまち推進計画の進捗状況（令和４年度）の提出について
第２回	１２月１５日（金）	・第５期花見川区支え合いのまち推進計画の進捗状況（令和５年度）中間報告について ・花見川区支え合いのまち推進協議会だより（第25号）原稿案について ・花見川区支え合いのまち推進協議会委員の改選について ・第５期花見川区支え合いのまち推進計画の一部見直しについて ・支え合いのまち推進計画の令和４年度の推進状況について【再掲】
第３回	令和６年 ３月８日（金）	・第５期花見川区支え合いのまち推進計画の進捗状況（令和５年度）実績報告 ・花見川区支え合いのまち推進協議会だより（第２５号）の発行について ・花見川区支え合いのまち推進協議会委員の推薦依頼について

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
第２５号	令和６年 ３月１９日（火）	発行部数：6,000部 主な配布先：各町内自治会へ郵送、窓口配布270部

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

朝日ヶ丘地区部会 『クリスマス会』

朝日ヶ丘地区部会では、毎月第４金曜日に「子育てサロンたんぽぽ」を開催しています。６ヶ月から３歳までの子どもと保護者を対象に、自由に遊んだり、おしゃべりや情報交換をしたり、楽しみながら仲間づくりができる場です。

令和５年１２月２２日には、クリスマス会を開催し、ピアノの生演奏に合わせてクリスマスソングをみんなで歌うなど、楽しいひと時となりました。初めての方でも気軽に参加できるサロンになっています。

畑地区部会 『買物支援サービス事業』

畑地区部会では、令和元年１２月に社会福祉法人斉信会畑町ガーデンと民生委員・児童委員の協力を得て、買物支援サービス事業の試行を実施しました。その後、コロナ禍で実施が難しい状況が続きましたが、令和５年１０月２６日に３年ぶりに試行を再開できました。この日は、畑町ガーデンの送迎車が参加者３名のご自宅にお迎えにうかがい、JA千葉みらい農産物直売所しょいか～ごへ。約１時間の買い物を満喫し、帰りの車内では楽しい会話で盛りあがりました。参加者の方々は、「楽しくおしゃべりもでき、協力員さんがいるので重いものも買うことができて助かりました」とおっしゃっていました。

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

あんしんケアセンター花見川『認知症キッズサポーター養成講座』

令和５年１１月７日、作新小学校にてあんしんケアセンター花見川による、「認知症キッズサポーター養成講座」が開催されました。

参加したのは、４年生の５６名と教員２名。

本講座は、認知症を正しく理解し、行動できるように働きかける体験型講座です。

紙芝居では、あんしんケアセンターの職員と教員が、認知症の高齢者、その家族に扮し、認知症の特徴的な症状や、望ましい接し方をわかりやすく演じました。紙芝居のあとの認知症クイズでは、子どもたちも真剣そのもの。街なかで困っているお年寄りと出会ったら、優しく声を掛けられる、頼もしい認知症サポーターに成長してくれることでしょう。

あんしんケアセンターでは、小学校の総合学習の一環として、「認知症キッズサポーター養成講座」を順次開催して参ります。

あんしんケアセンターこてはし台『多世代交流　〇〇（まるまる）カフェ』

令和５年９月こてはし台地域ケア会議で、多世代交流の機会を作り、地域からの孤立予防等の必要性を確認しました。それを受け、令和元年度からコロナの影響で開催延期となっていた認知症カフェ「〇〇カフェ」開催に向け動き出しました。

自治会、地区部会、社会福祉法人オリーブの樹、こてはし台・横戸台ボランティアの会、２０６地区民生委員・児童委員の協力を得て、１１月からオリーブハウスのフリースペースで月一回の「〇〇カフェ」を開催することが出来ました。写真はマスコットづくりの模様です。

「〇〇カフェ」は、地域住民や認知症・障害のある方、そのご家族等、どなたでも来られるカフェをコンセプトとし、〇〇の部分は、来られた方自身が好きなように名前を決めてもらえたらとの思いがあります。地域の人達が気軽に集い、認知症の人や家族の悩みを共有し合いながら、専門職に相談もできる場所となっています。

障害者福祉サービス事業所 オリーブハウス『コミュニティコンサート』

社会福祉法人オリーブの樹は、障害者の就労や地域生活を援助する事業を展開しています。一方、法人の施設がこてはし台団地に隣接する場所にあることから、この地域の方々に向けての「ふれあいフェスティバル」の開催や高齢者のお困りごとを助ける「ごようきき活動」等の地域貢献事業も行っています。

その一環として毎年コミュニティーコンサートを開催していますが、昨年は１２月１６日に千葉市を拠点に音楽活動をしているシンガーソングライターの松尾貴臣さんに演奏いただきました。当日は地域の方々、当法人施設の障害者や職員の方々等、約６０名が聴きに来てくださいました。コンサートでは、松尾さんのオリジナル曲、他のシンガーのカバー曲などを軽快な語りを交え歌い、参加者も一緒に手拍子をしたり歌ったりと、中には歌に合わせて踊りだす障害者の方も出て、会場内に一体感が作られ、とても楽しいコンサートになりました。

町内自治会等 『敬老会の開催』

新型コロナ感染症の影響により、中止、縮小されていた敬老会が令和５年から本格的に復活しました。９月は敬老の日や週末に、各地区で敬老会が盛大に開催されました。

また、令和５年１２月末の統計では、花見川区内にも１００歳以上の方が84人もおられ、まさに、人生１００年時代、長寿社会の進展を実感いたします。

披露された演目は、大いに盛り上がり、美味しいお弁当に舌鼓をうち、久しぶりの再会を喜び合う姿があちこちに。長寿を表彰された方もとても誇らしげでした。

敬老会の準備にあたった、運営スタッフも参加者の笑顔に癒され、苦労したかいがあったようです。

大きい会場、小さい会場と内容は様々ですが、どの会場も趣向を凝らした温かい敬老会となりました。

地区部会・民生委員児童委員協議会・赤十字奉仕団『花見川区民まつりに参加』

令和５年１０月２２日に花島公園で、第３１回花見川区民まつりが４年ぶりに開催され参加しました。

地区部会では、活動紹介パネルの展示でＰＲを行い、輪投げ等のゲームコーナーも設け、子どもも大人も笑顔で楽しんでいました。

民生委員児童委員協議会では、地域の身近な相談相手として広く知っていただくために、紹介パンフレットや啓発物品でＰＲを行い、多くの方に紹介することができました。

赤十字奉仕団では、ハイゼックス炊飯袋を使った非常食の炊き出しと豚汁の無料配布を行い、皆さん美味しいと大好評でした。

当日は、たくさんの方が訪れ、「来年もぜひ来てみたい」という声もかけていただきました。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針
検見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,711人、　6,778世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 19.0% 【地域の特徴】 検見川神社を中心とした古い町。	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・地域の町内自治会や民児協と連携・協議し、見守り活動をどう進めていくか協議する。	地域にアンケートを取る方向で動くことができた。	△	・地域内の高齢者を対象にお困り事等のアンケートを取り、どう進めていくかを検討する。同時に支援員の募集を行う。	町内会・自治会の協力で、アンケートを取り見守りができるように進める。
	○	**3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり**	⑪ ・地域での声かけをしたり、地域でのイベント、広報紙（地区部会だより）、区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの発掘や育成に努めます。	広報紙や区ボランティアセンターを通じてボランティア募集活動に努める。	地区部会の中で検討会議を開き、組織の見直しを図り、次年度から動けるようにすることができた。	△	広報紙や区ボランティアセンターを通じてボランティア募集活動に努める。	町内会・自治会等の協力で組織の構成員の見直しを図り、よい方向に向けていく。
	○	**3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり**	⑬ ・地域住民やこどもに地域の魅力や福祉をテーマとした研修・講座を開催します。 ・地域住民やこどもに地域福祉活動の体験の場を提供します。	・講座の内容、参加者や講師の選定等、講座開催の準備を進める。	話し合いを持ち準備を進めている。	×	・ボランティア養成講座を開催する。	日頃からの声かけと講座を開催し、社協を知ってもらい協力を仰ぐ。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針
花園地区部会エリア 【人口・世帯数】 21,000人、　9,996世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 23.4% 【地域の特徴】 JR新検見川駅北側に展開する古くからの住宅地と花見川区役所を中心とする新しい住宅地（高層マンション群を含む）からなる。東大総合グラウンドに隣接、東西に貫く桜並木は有名。西側に花見川、千本桜緑地がある。	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	④ ・隣近所や地域において、あいさつ・声かけによる気配り・心配りを行い、顔の見える関係づくりに努めます。	花園地区部会の伝統的な活動及び「花園おせっかい」活動を通じて、住民同士の顔の見える関係づくりに努める。 ①高齢者福祉：敬老会・ふれあい食事会 ②児童母子：子育てサロン・親子の集い（音楽会など） ③健康福祉：公園清掃・グラウンドゴルフ ④ボランティア：いきいきサロン ⑤福祉ネット：啓発ポスター・チラシの作成・見守り新鮮情報 ⑥広報：地区部会だより ⑦重点取組み項目：「花園おせっかい」「避難所に関する情報交換」「イベントの再開対応」 ⑧防災訓練の実施：各避難所の避難所開設・運営訓練 ①～⑧を実施する。	・花園地区部会の伝統的な活動　敬老会（大規模敬老会）を再開 9/23（土）9：30～ 会場：花園中学校アリーナ 75歳以上 530名、総勢 787名参加 ・経常的な実施：子育てサロン・いきいきサロン・公園清掃とグラウンドゴルフ グラウンドゴルフは盛況で、参加者も増えている ・親子の集いが実施できた。春の音楽会（花園中吹奏楽部スプリングコンサート）を3月23日（土）に開催。 ・啓発活動：ポスター、チラシの作成・見守り新鮮情報・地区部会だよりの発行 ・重点項目として「花園おせっかい」の継続（チラシ・ポスター）、行事終了後のアンケートの配布・回収・情報の伝達	○	花園地区部会の伝統的な活動及び「花園おせっかい」活動を通じて、住民同士の顔の見える関係づくりに努める。 ①高齢者福祉：敬老会・ふれあい食事会 ②児童母子：子育てサロン・親子の集い（音楽会など） ③健康福祉：公園清掃・グラウンドゴルフ ④ボランティア：いきいきサロン ⑤福祉ネット：啓発ポスター・チラシの作成・見守り新鮮情報 ⑥広報：地区部会だより ⑦重点取組み項目：「花園おせっかい」「避難所に関する情報交換」「イベントの再開対応」 ⑧防災訓練の実施：各避難所の避難所開設・運営訓練 ①～⑧を実施する。	・ふれあい食事サービスの再開 ・「能登半島地震」からの教訓による防災対策の見直し
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑦ ・災害時要支援者支援体制を構築します。そして、体制構築後は、体制の充実・強化を図り、研修会や訓練などを実施します。	・「花園おせっかい」の活動を通じて、地域へ災害に対する備えに関する呼びかけを行う。 ・避難所開設訓練に参加し、災害時における「花園おせっかい」活動の活用方法について調査・研究を行う。	（大型自治会の例：花園文化会） 分散避難訓練の実施：事前にチラシを通して一連の訓練内容を周知 安否確認の実施：訓練開始後、安全タオルの掲示のない住宅を全て訪問して安否を確認し、その後の支援について確認を行った。 ・避難訓練は避難所ごとに実施している ・「花園おせっかい」のPRを実施している	△	・「花園おせっかい」の活動を通じて、地域へ災害に対する備えに関する呼びかけを行う。 ・避難所開設訓練に参加し、災害時における「花園おせっかい」活動の活用方法について調査・研究を行う。	防災訓練の水平展開
	○	**4 安全・安心なまちづくり**	・防災訓練を実施します。 ・避難所開設・運営訓練を実施します。 ⑮ ・新型コロナウイルス等感染症に対応した避難所運営委員会マニュアルの見直しを行います。	各避難所では避難所運営委員会により、防災マニュアルや防災マップを活用して、避難所訓練を行っている。また、災害時の安否確認、分散避難食料支援などは避難所ごとの条件が異なり、それぞれの自治会の判断により、多少違いがみられる。 引き続き、社協の立場、対応方針、訓練参加などについて関係機関と情報交換を密にして、対応していく。	（大型自治会の例：花園文化会） 避難所運営マニュアルの改定を行った。 11月18日　安否確認訓練・防災訓練を実施 分散避難における食料等の支援を受ける方法について、お知らせ文書を作成した。 今後はこれを水平展開していきたい。	△	各避難所では避難所運営委員会により、防災マニュアルや防災マップを活用して、避難所訓練を行っている。また、災害時の安否確認、分散避難食料支援などは避難所ごとの条件が異なり、それぞれの自治会の判断により、多少違いがみられる。 引き続き、社協の立場、対応方針、訓練参加などについて関係機関と情報交換を密にして、対応していく。	・他地区への水平展開 ・社協からの情報発信

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針
朝日ケ丘地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,662人、　　5,413世帯 【町内自治会数】 12町内自治会 【高齢化率】 38.7% 【地域の特徴】 戸建、団地、マンションの混じった住宅地。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	③ ・世代の違いや障害の有無を超えた交流やイベントなどを実施します。 ・高齢者施設や障害者施設などでのボランティア体験や施設主催のイベントへ参画します。	コロナ以前の活動を取り戻すべく、ふれあい食事サービス、ふれあい喫茶、ふれあいコンサート、障害者バス旅行、いきいきサロン、子育てサロン、健康体操など、交流と介護予防活動に重点を置いて実施していく。	コロナ以前の活動を取り戻すべく、ふれあい食事サービス、ふれあいコンサート、障害者バス旅行、交流広場ふれあい、いきいきサロン、子育てサロン、健康体操など、交流と介護予防活動に重点を置いて実施してきた。下半期から、ほぼ、コロナ前の活動を復活することができ、休眠明けの活動についても従前の活動規模の水準まで回復し、予想以上の展開を見せている。	◎	ふれあい食事サービス、ふれあい喫茶、ふれあいコンサート、障害者バス旅行、いきいきサロン、子育てサロン、健康体操など、交流と介護予防活動に重点を置いて実施していく。	会場の都合で再開が遅れてきたふれあい喫茶を今年度中に、歌声喫茶を次年度に再開する予定で、すべての活動の復活ができる予定である。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑩ ・地域福祉活動にあたり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンター、障害者基幹相談支援センター、学校、社会福祉事業者、企業、ボランティア団体、ＮＰＯ、企業など地域の多様な主体との連携強化を図ります。	・アフターコロナ、もしくはウィズコロナの状況に合わせて、従来の活動の復活、再生を図る。 ・あんしんケアセンターとの連携による講演会（「交流ふれあい広場」）を開催する。 ・消費生活センターとの連携による講演会（「交流ふれあい広場」）を開催する。	アフターコロナ、もしくはウィズコロナの状況に合わせて、従来の活動が復活、再生している。 ・あんしんケアセンターとの連携による講演会（「交流ふれあい広場」）を開催した。 ・消費生活センターとの連携による講演会（「交流ふれあい広場」）を開催した。 ・地域運営委員会、中学校の学校評議会、公民館の運営懇談会が再開され、それぞれ部会長が出席した。	○	アフターコロナ、もしくはウィズコロナの状況に合わせて、従来の活動の復活、再生を図る。	交流広場ふれあい事業について、年3回の開催内容がややマンネリ化してきており、計画の見直しを考えたい。
	○	**3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり**	⑫ ・広報紙の発行やホームページ、ＳＮＳ、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。	これまでの広報紙発行を続けながら、SNSを通しての広報活動の方策の検討を始める。 （他地区の事例調査、広報に関する住民、関連団体の意向調査など）	これまでの広報紙発行を続けながら、SNSを通しての広報活動の方策の検討を始めたが、有効な手段が見えてこない。 ・地区部会常任理事会において、とくに人員拡充に関する方策案を各委員会に求め、それを軸に、イベントポスターへの募集コメント挿入、イベント時の呼びかけを行った。 ・地区の文化祭において、地区部会の活動を広報するためのパネル展示を行った。 ・広報に求人の特集記事を掲載した。 これらの活動によって、４名の新規参加者を得ることができた。 なお、広報紙は前年度からカラー印刷を実施し、好評を得ている。	○	広報紙発行を続けながら、広報活動をSNSで行うべく、体制を整える。	SNSの活用については、なかなか良い手段が見えず、検討を中断している。 引き続き、広報活動の拡充（読みやすい、読まれやすい広報紙、掲示の充実）を図る。 また、人員拡充のためのキャンペーンを続ける。
犢橋地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,501人、　　5,515世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 30.4% 【地域の特徴】 昔からの農村地域（犢橋町）と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・ふれあい３事業、散歩クラブへの参加グループの追加加入を図る。 ・いきいきプラザ等とタイアップした運動教室の開催やシニアリーダー体操を推進する。 ・子供向けイベントの開催（子ども防災教室など）を検討する。 ・落語会などの文化的なイベントを企画して、住民が気軽に集える場づくりに努める。	・散歩クラブへの参加グループが一つ増え、５グループとなった。 ・シニアリーダー体操は複数個所で開催中。 ・夏休みカレー食堂の開催（犢橋小学校にて７月～８月に計５回開催） ・千葉市防災普及公社、花見川消防署の支援の下「こども防災教室」開催（１１月２３日） ・落語会開催（３月１７日）	○	・５年度中に準備を進めて、「こども食堂」を再開する。 ・子どもと高齢者が交流できる場を地区内数カ所に分けてつくる。 ・「流しそーめん」や「餅つき大会」などに向けて検討、準備を行う。	・「こども防災教室」の継続実施 ・「フードパントリー」の継続実施（２ヵ月毎に） （子ども食堂は諸般の事情によりまだ再開が難しいと判断） ・「夏休みカレー食堂」の継続実施 ・「もちつき大会」の再開（「流しそーめん」は衛生管理が難しいと判断“手でつかむ）

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針
こてはし台中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 5,382人、　　2,415世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 28.9% 【地域の特徴】 新興住宅地と旧農村	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・見守り対象者の現状把握と見直しを継続して推進する。 ・各支部単位で、福祉活動推進員、自治会を含めた活動（情報交換、共同行動）を強化する。 ・昨年度から開始した見守り対象者とのコミュニケーション手段としての「見守りたより」を４回発行する。	・10月に見守りたよりを発行し、見守り対象者、町内自治会に配布・回覧した。 ・11月に対象者を含めた「ふれあい秋フェスタ～ボッチャを楽しもう～ 」を開催した（約９０名が参加）。 ・12月に見守りたよりを発行し、見守り対象者、町内自治会に配布・回覧した。 ・み春野支部でふれあいサロン「ふらぁっとみ春野」を１２月から毎月開催。 ・２月に約６０名参加の地区全体のふれあい食事会を実施。 ・地域にある「県立特別支援学校」主催のミニ集会や授業参観などに参加し、交流と理解を深めた。 ・見守り活動を継続実施。	○	見守り対象者の現状把握と見直しを継続して推進する。 ・各支部単位で、福祉活動推進員、自治会を含めた活動（情報交換、共同行動）を強化する。 ・見守り対象者とのコミュニケーション手段としての「見守りたより」を４回発行する。 ・生活支援のニーズを把握し、できるところから支援を実施する。（自治会との協働）	・見守り活動の継続実施と各支部のふれあいサロン活動の開催 ・ボッチャなどのイベント開催 ・広報活動の継続実施
幕張・武石地区部会エリア 【人口・世帯数】 5,503人、　　2,790世帯 【町内自治会数】 3町内自治会 【高齢化率】 21.4% 【地域の特徴】 旧住民と新住民との混合地域。高齢化が進んでいる。現在区画整理が進められている。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・「ふれあいいきいきサロン」を、基本的に月２回、延べ２０回開催するとともに、内容充実の検討を行う。 ・「ふれあい食事サービス」を年４回実施する。前年度まで、コロナで開催できなかったことから、今年度は、会食形式での実施はせず、配食形式での実施を計画している。	「いきいきサロン」は、予定の月2回、実施することができた。 「ふれあい食事サービス」は、年４回、配食形式で実施できた。	○	・ふれあいいきいきサロンを月２回実施する。 ・ふれあい食事サービスを年４回実施する。	「いきいきサロン」は、今後更に内容の充実を図っていく。 「ふれあい食事サービス」は、配食形式と会食形式の両方を実施する。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑦ ・災害時要支援者支援体制を構築します。そして、体制構築後は、体制の充実・強化を図り、研修会や訓練などを実施します。	「支え合いカード」を基に対象者一覧表を作成し、要支援者宅を訪問する。	災害時要支援者の支援体制について、千葉市から提供された名簿に基づき、対象者宅を訪問できた。	○	千葉市から新しく提供される要支援者名簿に基づき、対象者の見直しを行い、再度要支援者宅を訪問する。	町内自治会により、取り組み（支援体制）に差がある。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑧ ・認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座の開催や声かけ訓練などを実施します。	あんしんケアセンターやいきいきプラザ等の専門職と連携し、介護予防や認知症予防のための講座を、地域の人を含め開催する。	地区部会研修として、認知症専門医による予防講座を、１２月にオンラインで開催し、地域住民を含め３５名の参加が得られた。	○	関係機関と連携を図りながら、会員相互のステップアップのための講座を開催する。	今後、認知症に対する地域住民の意識を更に高めるための講座を考える。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針
花見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,654人、　　5,677世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 40.0% 【地域の特徴】 戸建住宅（昭和30年代後半より入居）、農林地帯、UR団地（分譲）、マンション群の混在地域。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	アフターコロナでサークル活動が活発になってきたこともあり、以下を目標に計画の推進を図る。 ・ふれあい３事業を９０サークルで開催する。 ・地区部会内の敬老会の開催地域を増やす。４か所以上の開催を目標。 ・子ども会行事に 声かけ・見守り訓練 をコラボする。	・ふれあい3事業は、１２月末現在で、７８サークルが活動中。 ・敬老会は　４か所 参加３９０名（９自治会）で開催。 ・柏井地区子ども会で「みんなで歩いてビンゴ」を開催。参加１２１名（カード回収数）。併催で認知症の方への声かけ・見守り訓練を実施。	○	・ふれあい３事業を９０サークル。 ・敬老会の開催、福祉バザーの開催、地区子ども会行事の開催。	・ふれあい３事業は、高齢化と中年層への普及が課題。 ・６年度の敬老会は合同開催を無くし、自治会、サークル単位での開催方針。 ・子ども会ウォークラリーは、より発展を目指す。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・見守り活動の促進…現在、鷹の台、千代の台、花見川住宅では、見守り活動が行われているが、他地区への活動拡大を推進する。 ・子ども会行事にコラボして見守り訓練を実施する（学校・PTAに協力依頼）。 ・地域ケア会議の開催（鷹の台自治会、花見川住宅自治会）。	・見守り活動の実施　（鷹の台自治会　千代の台自治会　花見川住宅自治会　月１回ベース） ・子ども会行事に併せ認知症啓発活動を実施。認知症サポーター養成講座の開催。 ・地域ケア会議の開催（鷹の台自治会 花見川住宅自治会 年４回ベース）	○	・見守り活動の推進 ・子ども会行事にコラボして見守り訓練 ・地域ケア会議の開催	・見守り活動の地域拡大と被見守り人を増やす。 ・子ども会行事と認知症啓発活動の拡大充実。 ・地域ケア会議の開催
	○	**4 安全・安心なまちづくり**	⑮ ・防災訓練を実施します。 ・避難所開設・運営訓練を実施します。 ・新型コロナウイルス等感染症に対応した避難所運営委員会マニュアルの見直しを行います。	・地区部会内の避難所運営委員会の現状把握に努める（防災対策課に依頼）。 ・防災・防犯パトロールの継続実施。	・避難所運営委員会　地区部会内構成３カ所 他地区部会と混合構成３カ所 活動状況未把握 ・防災防犯パトロール 毎月１３カ所 不定期３カ所 歳末４カ所 延1,171人と予想（3月末現在）。	△	・避難所運営マニュアルの更新、防犯・防災活動の実施。	・避難所運営委員会については次年度も把握に努める。 ・防犯防災パトロールについては県社協の地域福祉フォーラムの支援で始めたが緒についてきたので地区部会として取り上げたい。
花見川第２地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,712人、　　6,393世帯 【町内自治会数】 7町内自治会 【高齢化率】 40.8% 【地域の特徴】 花見川団地を中心とした住宅地。地区内には図書館、市民センターなどが整備されている。	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・支え合い活動の継続実施。 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・花見川団地内で実施している支え合い活動「ハンド　ハンド」を継続実施した。主な活動は、家具の移動、買い物、話し相手など であった。	○	・支え合い活動の継続実施。 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・地域全体が高齢化しているため、担い手不足が深刻化している。 ・花見川団地以外の地域への活動普及が進まない。 ・花見川団地内の支え合い活動を継続するとともに、地域全体に活動の機運が広まるよう、引き続き広報啓発活動に努める。
	○	**3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり**	⑪ ・地域での声かけをしたり、地域でのイベント、広報紙（地区部会だより）、区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの発掘や育成に努めます。	・養成講座を開催し、新たな担い手の育成・確保に努める。 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・花見川いきいきプラザ、花見川いきいきセンターの職員を講師に迎え、2月1日・19日・28日の３日間、健康体操教室を開催し、高齢者の介護予防に努めるともに、担い手の確保、担い手のスキルアップに努めた。	○	・養成講座を開催し、新たな担い手の育成・確保に努める。 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・担い手不足は、深刻な問題であるが、引き続き、養成講座開催や広報紙を活用した担い手の育成・確保に努める。
	○	**3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり**	⑬ ・地域住民やこどもに地域の魅力や福祉をテーマとした研修・講座を開催します。 ・地域住民やこどもに地域福祉活動の体験の場を提供します。	・こども達の居場所の立ち上げに向けて、引き続き関係機関との調整、他地区事例の情報収集等を行うとともに、スタッフ募集、スタッフ同士の会合等を行い、立ち上げに向けた準備を進める。	９月より開始した、こども達の居場所「花見川団地こどもカフェ」の活動を継続した。 今年度は、９月、11月、12月、1月、２月、3月の年6回実施した。12月は、団地内でイベントが開催されていたこともあり、19名の参加があった。	◎	・こども達の居場所を立ち上げるとともに、内容の充実に向けて調査・研究に努める。	団地内に子どもが少なく、参加者が少ないのが課題である。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針
こてはし台地区部会エリア 【人口・世帯数】 5,775人、　　2,879世帯 【町内自治会数】 1町内自治会 【高齢化率】 45.2% 【地域の特徴】 昭和46年に千葉県住宅供給公社が開発した戸建中心（テラスハウス25%）の住宅街。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	あんしんケアセンターこてはし台や障害者福祉作業所と連携し、認知症や障害のある方、またその家族の方々が気軽に集える新たな交流の場を開催することを目途に、具体的内容について関係機関と検討する。	社会福祉法人オリーブの樹の「コミュニティスペース そよ風」は、充実した。「オープンカフェ」を目指して、「脳トレ」、「歌声喫茶」、「落語会」などを行い、地域の人たちが、徐々に集うようになった。当面は、あんしんケアセンターこてはし台、ボランティアの会、地区部会が協力、スタッフとして活動している。	○	年数回の交流の場を開催する。	「オープンカフェ」の現状を地域の皆さんに広く知っていただくことが重要で、そのための積極的な広報活動が求められる。 当地区部会もこの活動に積極的に協力していく。
	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	③ ・世代の違いや障害の有無を超えた交流やイベントなどを実施します。 ・高齢者施設や障害者施設などでのボランティア体験や施設主催のイベントへ参画します。	「全世代参加型」の新規事業の設立についての検討委員会を設置し、「設立可能な新規事業」について検討する。	「新規事業設立の検討」は、地域全体の事として、他団体と共に検討する。そのキッカケ作りとして、２月１０日に福祉活動推進員２０名が「全世代参加型」事業とは何か、どんな事業が考えられるか、などを検討した。有意義な意見もあり、次年度の検討委員会に提案する。	×	新規事業の具体的な実施時期・内容等について検討する。	検討委員会には、若い世代の方々に入っていただくことが必須、当地区では、若い世代の方の入居者が増えており、当地区部会としても積極的な声かけを行い、検討委員会への参加をお願いする。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑩ ・地域福祉活動にあたり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンター、障害者基幹相談支援センター、学校、社会福祉事業者、企業、ボランティア団体、ＮＰＯ、企業など地域の多様な主体との連携強化を図ります。	令和4年度の「地域ケア会議」で討議された「訪問介護事業者車両問題」は一応の解決策を見出し、検討は終了した。 令和5年度は「高齢化地域の課題」を議題とし、9月頃に第１回「地域ケア会議」が開催される予定であり、引き続き「地域支え合いの街づくり」に資する会議として積極的に参加していく。	「地域ケア会議」が９月２６日に開催され、当会も参加した。当日は、「高齢化地域の課題」について情報交換を行い、ごみ出し、買物などの日常のお困りごとが出された。２月に行われた会議でも本件について情報交換を実施したが、次年度も引き続き検討することとなった。	○	「地域ケア会議」で検討された課題について検討する。	多くの課題があるが、継続して取り組むことが重要である。当会は、前向きに捉え、積極的に参加していく。
	○	**3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり**	⑫ ・広報紙の発行やホームページ、ＳＮＳ、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。	・情報発信の迅速化のために、ホームページチーム（２～３名）を創る。 ・次世代に向けた「この街の良さ」について町内自治会の協力を得て、情報の収集・編集を行い、発信していく。	“街づくりホームページ” については、今年度は、発信内容の一部を修正したのみであった。現在の担当者１名体制を、３名体制に強化し、次年度に備えたい。	×	・公共機関（図書館・公民館）などの協力を得て、住民に役立つ情報を収集、発信する。	次年度は、発信した情報を全てチェックし、修正して発信することを早々に行う。そのうえで、新情報の発信を行うこととする。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針
天戸中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 17,020人、　　7,942世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 32.2% 【地域の特徴】 農村地域と新興住宅地域。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	② ・健康や介護予防をテーマとした講習会や研修会などを開催します。	各専門委員会活動の活性化を図りアフターコロナに向けた地区部会活動の再開を目指す。	地域の方々が抱える漠然とした先行きに関する不安に対して、地域でサポートを実践されている方々や行政の制度設計にご尽力されている方々を講師にお招きし、奇数月の第3土曜日にセミナーを定期開催した。セミナーの内容は、1部・2部の２部制に分け、地域の方々に行政の制度や地域の活動、問題などについて、ご理解を深めていただくテーマとした。	○	地域サロン活動の活性化と活動場所の拡大を推進する。	定期的なセミナー開催を続けることにより、少子高齢化社会を見据えた地域包括ケアシステムの構築等、行政の医療・介護施策を地区部会内で情報共有するとともに、ステップアップ・地域での理解促進を目指す。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑤ ・既存のサロンなど身近な場所や専門機関による相談の場を設けたり、民生委員やあんしんケアセンターなどの相談先の紹介を行います。	広報紙、ホームページ、SNS等を活用し、相談先の啓発活動を行うとともに、地区部会活動に相談機関を招き、参加の相談に対応する。	・いきいきサロンは、年間計画を立て、社協・あんしんケアセンター花見川・健康課の協力もいただき開催している。参加者からも好評で、3年目となった。 ・地域の方々のフレイル予防・健康寿命延伸にも、貢献できたのではないかと思われる。	○	広報紙、ホームページ、SNS等を活用し、相談先の啓発活動を行うとともに、地区部会活動に相談機関を招き、参加の相談に対応する。	継続して今後も続けることが必要。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・民生委員等の関係機関と連携し、要支援者が利用できる制度を紹介する。 ・地区部会活動を通じても、緊急通報装置や安心電話の普及に努める。	超高齢化社会に鑑み、近所での見守りには限界があり、切れ目のない継続的な見守りには、緊急通報システムはもっとも有効な手段であると考えられる。 この普及・啓発活動も6年目になり、これまでこのシステムにより救急搬送で助かった方4名、孤独死0を継続出来ている。	○	・民生委員等の関係機関と連携し、要支援者が利用できる制度を紹介する。 ・地区部会活動を通じても、緊急通報装置や安心電話の普及に努める。	増加する高齢者に対応できる行政の制度設計が必要と考える。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑦ ・災害時要支援者支援体制を構築します。そして、体制構築後は、体制の充実・強化を図り、研修会や訓練などを実施します。	災害時要支援者支援体制の構築に向け、普及・啓発活動に努める。	避難行動要支援者名簿を持っている民生委員との情報交換には努めたが、普及・啓発活動には至らなかった。	×	災害時要支援者支援体制の構築に向け、普及・啓発活動に努める。	関連死が多く、世界で最も劣悪と言われる日本の避難体制、指定避難所であるが、分散避難・在宅避難に避難方法がかわりつつある現在、千葉市地域指定避難施設の増設が必要であると考える。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑩ ・地域福祉活動にあたり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンター、障害者基幹相談支援センター、学校、社会福祉事業者、企業、ボランティア団体、ＮＰＯ、企業など地域の多様な主体との連携強化を図ります。	地区部会活動や地域の会議等を通じて、志を同じくする関係機関との連携強化に努める。	サロンやふれあい食事サービス、今年度から開始したセミナー等の地区部会活動を通じ、一部の関係機関との連携強化が図れた。	△	地区部会活動や地域の会議等を通じて、志を同じくする関係機関との連携強化に努める。	地域団体の地域福祉に対する考え方は団体によって異なる為、引き続き、志を同じくする団体との連携推進拡大を目指す。
	○	**3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり**	⑫ ・広報紙の発行やホームページ、ＳＮＳ、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。	広報紙・メールマガジン等を活用して地域への情報提供を促進するとともに、メルマガ会員数の拡大を目指します。	今年度は、広報紙の発行には至らなかった。 ホームページ・メールマガジンは、管理充実の検討に留まった。	×	広報紙・メールマガジン等を活用して地域への情報提供を促進するとともに、メルマガ会員数の拡大を目指します。	広報紙の発行を継続する。 ホームページ・メールマガジンの管理充実を目指すとともに、地域で起きている事についてマガジンでの発信を目指す。
	○	**4 安全・安心なまちづくり**	⑮ ・防災訓練を実施します。 ・避難所開設・運営訓練を実施します。 ・新型コロナウイルス等感染症に対応した避難所運営委員会マニュアルの見直しを行います。	避難所運営委員会への協力・支援を行う。	分散避難推進を目的とした千葉市指定避難施設の増設を近接の町内自治会と行っていたが、地区部会としての避難所運営委員会への協力実施事例はなかった。	×	避難所運営委員会への協力・支援を行う。	・避難所運営委員会の位置付け・使命を理解した上での活動の推進・組織構築が必要である。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針
さつきが丘・宮野木台地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,381人、　5,335世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 35.3% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	③ ・世代の違いや障害の有無を超えた交流やイベントなどを実施します。 ・高齢者施設や障害者施設などでのボランティア体験や施設主催のイベントへ参画します。	世代の違い、障害の有無や立場を超え、地域の多くの人々が参加して、福祉に親しむ機会である「福祉まつり」を開催する。新型コロナウイルスの影響で３年間中止が続いているが、新型コロナの５類移行に伴い、４年ぶりの開催を目指す。令和５年度は、移動交番や郵便局の参画や、第２会場における野菜販売など新たな取組みも計画していきたい。	6月11日（日）に、『福祉まつり』を４年ぶりに開催することができた。 例年、福祉まつりを開催していた さつきが丘公民館の他に、貝塚公園にも会場を設け、新たな団体とも連携し、２会場での開催とし、時間もずらして実施した。	○	『福祉まつり』を年１回開催し、広い世代、障害の有無、立場を超え、地域の多くの人々が集い、福祉に親しむ機会を設ける。	・令和５年度『福祉まつり』の反省のもと、６年度は、『福祉まつり』を２会場で、同じ時間帯に実施し、ユニバーサルデザインの町づくりの一助にしたい。 ・若い協力者を増やす。 ・「あいさつ運動」も継続し、『福祉まつり』の中でもアピールしていく。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動の実施、緊急通報システムや安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・「ご近所のたすけあい」活動を継続実施するとともに、登録ボランティア確保のための募集、PRに努める。 ・より利用しやすい支援活動ができるようボランティア委員会で検討し、改善に努める。	・「ご近所のたすけあい」活動を継続実施した。 ・11月に「ボランティアだより」を発行し、スーパー等の宅配状況の資料を作成した。	○	・「ご近所のたすけあい」活動を実施。 ・ボランティア活動の周知と改善。ボランティアの確保に努める。	・「ご近所のたすけあい」活動を継続実施するとともに、ボランティア活動の周知と改善に努める。 ・ボランティアの確保に努める。
畑地区部会エリア 【人口・世帯数】 6,159人、　2,879世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 31.8% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・朝のゴミ出し支援活動を継続するとともに、広報活動に努める（ご近所同士で対応しているところもあるが限度がある）。また、民児協と連携を図り、高齢者実態調査等の機会にゴミ出しに困っている方のニーズの把握に努める。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業の定期運行に向けた検討を行い、試行運行を実施する。	・朝のゴミ出し支援は、声かけは行っているが、希望者がいなく実績はなし。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業は、10月26日、12月15日、1月15日、2月16日、3月22日の年5回実施した。	○	・朝のゴミ出し支援活動を継続するとともに、広報活動に努める。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業の定期運行を実施する。	・朝のゴミ出し支援については、引き続き声かけを行っていく。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業は、4月以降は定期運行を実施する。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）総括表

◆基本方針別取組状況

基本方針	取組項目数	取組項目の達成状況		主な取組内容
1　みんなの様々な居場所と健康づくり	11	◎		高齢者の健康増進や介護予防を目的とした「いきいきサロン（97か所　836回）」や子育て中の親同士の交流を目的とした「子育てサロン（15か所　99回）」等を実施するなど、地域の方が気軽に集うことができる居場所の創出に取り組みました。
		○		
		△		
		×		
		－	11	
2　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	30	◎		一部の地区部会、町内自治会エリアにおいて住民主体の見守り活動が継続的に実施された他、生活上のちょっとしたお手伝い（ごみ出し、買い物支援）などの支援を行いました。 また、コロナウイルスが5類に移行したことにより、休止していた敬老会や各種イベントを再開し、幅広い世代が交流できる場づくりに取り組みました。
		○		
		△		
		×		
		－	30	
3　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	8	◎		町内自治会及び自主防災組織で防災訓練や避難所開設訓練が実施されたほか、防災に関する講座を開催するなど、住民に対する防災に対する意識の向上に努めました。 また、警察などと連携し、防犯パトロールや防犯に関する講座を実施して、地域住民の防犯意識を高めるとともに、住民同士の防犯活動に取り組みました。
		○		
		△		
		×		
		－	8	
今年度の振り返り	49	◎		コロナウイルスが5類に移行し、各地区部会エリアにおいて休止していた地域活動を再開するため、様々な手段で地域の状況を把握し、把握した困りごとや気づきを共有するために話し合い、実施に向けて様々な工夫をしながら活動に取り組みました。
		○		
		△		
		×		
			49	

今後の課題と方針	地域課題はますます複雑化、複合化しており、地区部会を中心として地域の関係団体・機関及び行政等が相互に連携・協働を図り、地域が一体となって相互に支え合い、助け合う体制を構築する必要がある。 また、高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、地域や学校等へ働きかけを行い、新たな担い手の育成・確保に向け取り組んで行きたい。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第１回	令和5年9月12日（火）	(1) 令和4年度の進捗状況について (2) 第5期区支え合いのまち推進計画の中間見直しについて (3) 支え合いのまち稲毛（稲毛区推進協だより）について
第２回	令和6年3月4日（月）	(1) 稲毛区支え合いのまち推進計画　令和5年度の取り組みについて

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
第30号	令和5年10月1日	発行部数：5,250部 主な配布先： 町内自治会、図書館、公民館、コミュニティーセンター（市民センター）、あんしんケアセンター、いきいきプラザ（センター）

※区内で実施している取組みの中で、工夫して取り組んでいる事例について自由にご記入ください。

・コロナウイルスの影響により休止していた「買い物支援事業」の再開に向け、地区部会、民児協、社会福祉法人と協議を行い、令和6年7月より再開。
・エリア内にある公園を活用し、近隣の高齢者等を対象としてイベント的にラジオ体操を開催した。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
〇：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針（５期）	取組項目（４期）	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
小中台東地区部会 【人口・世帯数】 19,750人・9,291世帯 【町内自治会数】 34町内自治会	1　みんなの様々な居場所と健康づくり	②　健康づくりや介護予防の普及・啓発	地域住民を対象とした福祉講座の中で認知症に関する講座を開催する他、いきいきサロンにおいて健康づくりや介護予防についての啓発を行います。 また、開催地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会がイベント等を実施し、気軽に参加できる健康づくりや運動の機会を増やします。	地区部会があんしんケアセンターや区健康課等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン（13か所、98回開催　、延べ928人参加）などを実施し健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みました。	－	地域住民を対象とした福祉講座の中で認知症に関する講座を開催する他、いきいきサロンにおいて健康づくりや介護予防についての啓発を行います。 また、開催地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会がイベント等を実施し、気軽に参加できる健康づくりや運動の機会を増やします。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと活動内容について協議を行い、いきいきサロンにおいて健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んで行きたい。
【高齢化率】 32.6% 【地域の特徴】 稲毛の北西部に位置し、小中台町、園生町の一部、宮野木町の一部、長沼町の一部を含む比較的広いエリア。 集合住宅、戸建てが混在しており、旧来からの集合住宅は独居・高齢者世帯が増加し、高齢化率も急速に進んでいる。	2　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	③　あいさつから始まる地域との関わり	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャーが連携・協力し、登下校時に通学路などで子どもたちと挨拶をかわすと共に、防犯パトロールの際などに、住民同士のあいさつが浸透するよう努めます。 また、地域内小学校に依頼してあいさつ標語の作品募集を行い、結果を東西社協まつりや広報紙、掲示板などを活用して広めます。	各小学校で民生委員と青少年育成委員会が連携・協力して登下校時のあいさつ運動に取り組みました。 また、近隣校（園生小、小中台小、柏台小、小中台南小）の協力を得て、あいさつをテーマにした標語作品を募集し、小中台西地区部会と共同開催する「東西社協まつり（10/29）」において、優秀作品の展示を行いました。	－	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャーが連携・協力し、登下校時に通学路などで子どもたちと挨拶をかわすと共に、防犯パトロールの際などに、住民同士のあいさつが浸透するよう努めます。 また、地域内小学校に依頼してあいさつ標語の作品募集を行い、結果を東西社協まつりや広報紙、掲示板などを活用して広めます。	町内自治会、学校、セーフティウォッチャー等と連携し、あいさつ運動の拡充を図るとともに、地域のイベントや広報媒体等を通じて広報啓発を行い、あいさつ運動が地域へ浸透するように取り組んで行きたい。
		⑥　地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して、独居高齢者や高齢者世帯等に対し、日常的な声かけやあんしんカードの配布等を行う他、いきいきサロン参加の呼び掛けなどの機会を活用した見守り活動に取り組みます。	地区部会が独居高齢者や高齢者世帯などに対して、あんしんカードを配布すると共に、町内自治会が日常的な声かけを行うなど、継続的な見守り活動に取り組みました。	－	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して、独居高齢者や高齢者世帯等に対し、日常的な声かけやあんしんカードの配布等を行う他、いきいきサロン参加の呼び掛けなどの機会を活用した見守り活動に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、地域住民へ働きかけると共に、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。
		⑧　地域での福祉教育の普及・啓発	地区部会が町内自治会や学校、各種活動団体と連携・協力し、福祉講座を企画するなど、ボランティア活動の普及・啓発に努めます。 また、サマーフェスタなどイベントの機会には近隣の小・中学校にボランティア募集を行い、ボランティア活動の実践を通した福祉教育に取り組みます。	年度ごとにテーマを設定した地区部会主催による講座（10回）の開催や地区部会が町内自治会と連携・協力し、健康づくりや災害をテーマとした情報交換会を開催するなど、住民に対して地域ボランティア活動の普及・啓発に取り組みました。	－	地区部会が町内自治会や学校、各種活動団体と連携・協力し、福祉講座を企画するなど、ボランティア活動の普及・啓発に努めます。 また、サマーフェスタなどイベントの機会には近隣の小・中学校にボランティア募集を行い、ボランティア活動の実践を通した福祉教育に取り組みます。	地区部会が町内自治会・民児協と連携して、地域住民、エリア内の学校に対し、福祉への意識向上を目的として、福祉教育の普及・啓発に取り組んで行きたい。
		⑨　地域の情報の収集と発信	地区部会や町内自治会等が、地域の活動に関する情報を相互に共有すると共に、広報紙等で情報発信に取り組みます。	地区部会や町内自治会が相互に会議等へ参加し、地域活動の情報の共有に努めるとともに、地区部会が広報紙（3回発行）で地域住民に対して地域活動の情報発信に取り組みました。 また、地区部会が町内自治会と連携・協力し、健康づくりや災害をテーマとして情報交換会を開催するなど、情報収集などに取り組みました。	－	地区部会や町内自治会等が、地域の活動に関する情報を相互に共有すると共に、広報紙等で情報発信に取り組みます。	地区部会や町内自治会等が相互に会議等へ参加し、情報共有を図ると共に、情報交換会を通じて、関係者間で共有した情報は広報紙等を通じて地域へ発信して行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針（５期）	取組項目（４期）	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
山王地区部会 【人口・世帯数】 16,798人・4,886世帯 【町内自治会数】 11町内自治会 【高齢化率】 32.2% 【地域の特徴】 稲毛区の北部に位置し、四街道市が隣接する、旧来からの戸建て住宅が立ち並び、区内でも高齢化率が高いエリア。 エリア内には、大型の複合施設や総合病院、県道沿いに店舗が点在している。 外出の際、公共交通機関の利用はJRの各駅までは距離があるため、移動手段はバスが中心となる。	2　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	③　あいさつから始まる地域との関わり	セーフティウォッチャー、学校と更なる連携を進め、あいさつ運動を更に推進するため、青少年育成委員会や町内自治会、地区部会などとの協力体制づくりを進めます。	地区部会が小学校のセーフティウォッチャーと連携し、登校時にあいさつ運動を実施しました。 また、防犯パトロール時にあいさつ運動を行うなど、住民同士のあいさつ運動の浸透に取り組みました。	－	セーフティウォッチャー、学校と更なる連携を進め、あいさつ運動を更に推進するため、青少年育成委員会や町内自治会、地区部会などとの協力体制づくりを進めます。	町内自治会、学校、セーフティウォッチャー等と連携し、あいさつ運動の拡充を図るとともに、地域のイベントや広報媒体等を通じて広報啓発を行い、あいさつ運動が地域へ浸透するように取り組んで行きたい。
		④　地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	地区部会や町内自治会、地域の各種活動団体等が連携・協力し、夏まつりやお楽しみ会など幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組むと共に、各イベントにおいて子育てサロンへの参加を促し、子育て世代との地域交流を進めます。	地区部会が町内自治会や地域の関係団体と連携・協力して、夏祭りや敬老会、地域の合同運動会などのイベントを実施し、多くの地域住民の参加・交流の場づくりに取り組みました。	－	地区部会や町内自治会、地域の各種活動団体等が連携・協力し、夏まつりやお楽しみ会など幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組むと共に、各イベントにおいて子育てサロンへの参加を促し、子育て世代との地域交流を進めます。	既存の地域イベント等を継続するため、各種活動団体が、相互に連携・協力し、開催内容を充実させるなど、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組んで行きたい。
		⑤　地域で活動している人・組織同士の連携・協力	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などがイベントや地域活動の際に情報共有を行い、相互の連携・協力体制づくりに努めます。 特に、あいさつ運動を中心に、青少年育成委員会とも連携して通学路の安全を図っていきます。	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などが連携・協力し、各種会議や情報交換会を通じて情報を共有すると共に、地域イベントやあいさつ運動を通じて相互に連携・協力体制づくりに努めました。	－	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などがイベントや地域活動の際に情報共有を行い、相互の連携・協力体制づくりに努めます。 特に、あいさつ運動を中心に、青少年育成委員会とも連携して通学路の安全を図っていきます。	町内自治会、民児協、学校など地域の関係団体が実施する会議等へ参加し、情報共有を図りながら連携・協力体制の構築に努めて行きたい。
		⑥　地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会が町内自治会や民児協、社会福祉施設などと連携・協力し、防犯パトロールを活用した見守り活動や、買い物が困難なひとり暮らし高齢者を対象とした買い物支援サービス「ドライブサロン」などの実施に取り組むなど、外出困難な高齢者を対象に、より丁寧な対応を進めます。	3町内自治会（山王町中央自治会、山王町南自治会、長沼原台自治会）において、一人暮らし高齢者等に対して安否確認等による見守り活動に取り組みました。また、地区部会が民児協や福祉施設と連携・協力して、買い物が困難な一人暮らし高齢者等を対象とした「ドライブサロン」はコロナウイルスの影響により実施には至りませんでした。	－	地区部会が町内自治会や民児協、社会福祉施設などと連携・協力し、防犯パトロールを活用した見守り活動や、買い物が困難なひとり暮らし高齢者を対象とした買い物支援サービス「ドライブサロン」などの実施に取り組むなど、外出困難な高齢者を対象に、より丁寧な対応を進めます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、担い手を確保するため、地域住民へ働きかける必要がある。 また、民児協や福祉施設と、休止中となっているドライブサロンの再開に向け取り組んで行きたい。
	3　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	⑪　いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	地区部会が公民館と連携・協力して防災講座を継続実施すると共に、町内自治会（自主防災組織）が防災訓練や避難所開設訓練などを行う中、より多くの地域住民に参加をしてもらえるよう日程調整をするなどし、防災に関する意識の向上に取り組みます。	地区部会が公民館と共催で地域での防災講座を企画すると共に、自主防災組織での防災・避難訓練を実施しました。	－	地区部会が公民館と連携・協力して防災講座を継続実施すると共に、町内自治会（自主防災組織）が防災訓練や避難所開設訓練などを行う中、より多くの地域住民に参加をしてもらえるよう日程調整をするなどし、防災に関する意識の向上に取り組みます。	地区部会を中心に防災訓練や避難訓練などの機会を活用し、住民に対して災害時に備えた危機意識向上に取り組むとともに、町内自治会と連携が図れるよう体制の構築に取り組んで行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
〇：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針（５期）	取組項目（４期）	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
轟・穴川地区部会 【人口・世帯数】 11,295人・5,927世帯 【町内自治会数】 15町内自治会	1　みんなの様々な居場所と健康づくり	②　健康づくりや介護予防の普及・啓発	地区部会が町内自治会やあんしんケアセンター等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロンを実施するなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課などと協力し地域の高齢者を対象としたいきいきサロン（6か所、68回開催、延べ468人参加）において健康体操や健康相談などを実施しました。	－	地区部会が町内自治会やあんしんケアセンター等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロンを実施するなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと活動方法の検討や活動内容など、協議を行い、いきいきサロンにおいて健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んで行きたい。
【高齢化率】 23.2% 【地域の特徴】 稲毛区の南東に位置する、轟町・穴川・穴川町で構成され、新旧の戸建て、集合住宅が混在しているエリア。 公共交通機関の利便性も比較的高くエリア内には商業施設の巡回バスやタウンバスも運行している。 教育施設（大学）も多く存在し、文教のまちの呼称でも親しまれ、公共機関（教育施設、行政施設等）を内包する。	2　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	⑤　地域で活動している人・組織同士の連携・協力	地区部会や町内自治会、老人クラブなど各種活動団体が、地域のイベントなどを実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	地区部会が、各町内自治会で開催された敬老会（7か所）への支援をした他、地域内の学校や福祉施設からの協力を得るなど、協力体制の構築に努めました。	－	地区部会や町内自治会、老人クラブなど各種活動団体が、地域のイベントなどを実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、地域住民へ働きかけると共に、町内自治会、民児協、学校など地域の関係団体が実施する会議等へ参加し、情報共有を図りながら連携・協力体制の構築に努めて行きたい。
	3　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	⑪　いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	地区部会が公民館と連携・協力して防災講座を継続実施すると共に、町内自治会（自主防災組織）が防災訓練や避難所開設訓練などを行い、防災に関する意識向上に取り組みます。	一部の町内自治会（自主防災組織）が災害時に備え、必要な情報把握に取り組むと共に、防災・避難訓練を実施しました。	－	地区部会が公民館と連携・協力して防災講座を継続実施すると共に、町内自治会（自主防災組織）が防災訓練や避難所開設訓練などを行い、防災に関する意識向上に取り組みます。	町内自治会自主防災組織を中心に、地域住民に対して災害時に備えた支援体制の構築に取り組む必要がある。また、防災に関連する講座の開催や避難所開設訓練などを行い、防災に関する意識向上に取り組んで行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
〇：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針（５期）	取組項目（４期）	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
稲毛地区部会 【人口・世帯数】 12,387人・6,095世帯 【町内自治会数】 11町内自治会 【高齢化率】 32.2% 【地域の特徴】 稲毛区の最南に位置し、JR稲毛駅と国道の間に新・旧の戸建て住宅が立ち並ぶ高齢化率が比較的高いエリア。 旧来からの戸建てが集中する場所は向こう三軒両隣の風習が残っていることから、地域の繋がりは強い。 移動の際の主な公共交通機関として京成線・バスの利用が可能となるが、バスルートは浅間通りに限定される。 また、商業施設はJR稲毛駅周辺に集中していることから、自前の移動手段を保有しない高齢者の利便性は低い。	1　みんなの様々な居場所と健康づくり	①　公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	地区部会が公民館や社会福祉施設などと連携・協力し、いきいきサロンや子育てサロンを実施し、住民同士が気軽に集える居場所づくりの充実に取り組みます。	地区部会が公民館や福祉施設と連携・協力し、いきいきサロン（3か所、28回開催、延べ242人参加）、子育てサロン（1か所、6回開催、延べ45人参加）を実施し、住民同士が身近なところで気軽に集える居場所づくりに取り組みました。	－	地区部会が公民館や社会福祉施設などと連携・協力し、いきいきサロンや子育てサロンを実施し、住民同士が気軽に集える居場所づくりの充実に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、地域住民へ働きかけると共に、新規の参加者が気軽に参加できるよう地域の実情に沿った活動に取り組んで行きたい。
		②　健康づくりや介護予防の普及・啓発	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、いきいきサロンや散歩クラブを実施し、健康体操や健康相談を行うなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンター、行政などと連携・協力して、高齢者を対象としたいきいきサロン（3か所、28回開催、延べ242人参加）や散歩クラブ（12/7 15人参加）を開催するとともに、介護保険についての講座を開催するなど、健康増進や介護予防の普及啓発に取り組みました。	－	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、いきいきサロンや散歩クラブを実施し、健康体操や健康相談を行うなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、いきいきサロンの内容について参加者のニーズを把握して実施すると共に、介護予防に関する情報を共有し、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んで行きたい。
	2　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	④　地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会など各種活動団体や学校、幼稚園、保育園などが連携・協力して敬老会やふれあい広場などを企画実施し、幅広い世代が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会、各種団体及び近隣の小・中学校と連携・協力して敬老会（9/18）や、多世代の交流を目的としたふれあい広場（2/24）を開催し、幅広い世代が交流できる場づくりに取り組みました。	－	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会など各種活動団体や学校、幼稚園、保育園などが連携・協力して敬老会やふれあい広場などを企画実施し、幅広い世代が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会が各種活動団体と、相互に連携・協力し、開催内容・方法などについて協議を行い、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組んで行きたい。
		⑤　地域で活動している人・組織同士の連携・協力	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、青少年育成委員会などが、地域のイベント（敬老会やふれあい広場など）を実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会、青少年育成委員会などが相互に会議等へ参加し、情報共有を図りながら連携・協力体制の構築に努めました。	－	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、青少年育成委員会などが、地域イベント（敬老会やふれあい広場など）の開催に向け相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけると共に、町内自治会、民児協、学校など、地域の関係団体が実施する会議等へ参加し、情報共有を図りながら連携・協力体制の構築に努めて行きたい。
		⑥　地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して地域内のニーズを把握することに努め、見守り、支え合い活動の必要性について協議します。	地区部会が民児協や町内自治会と協力し、いきいきサロンやふれあい食事サービスなどの地域活動を通じて、参加者への声かけによる見守り活動に取り組みました。	－	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して地域内のニーズを把握することに努め、見守り、支え合い活動の必要性について協議します。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、地域住民へ働きかけると共に、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針（５期）	取組項目（４期）	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
稲丘地区部会 【人口・世帯数】 12,245人・5,731世帯 【町内自治会数】 ７町内自治会 【高齢化率】 23.4% 【地域の特徴】 JR稲毛駅前付近は高層大規模な集合住宅が林立し、若い世代が集中して、戸建て住民を牽引する形で地域意識が好い町作りの方向に変容しつつある。 集合住宅と戸建住宅が混在する稲毛の台地部で、快速の停車駅JR稲毛駅と、京成稲毛駅はバスの利用なしで行ける。 エリアは７つの自治会から成るが、JR稲毛駅至近に建つ1マンション区が小学校区は稲丘小、地区部会は小中台西エリアに属し、双方の地区部会活動に関わっている。	１　みんなの様々な居場所と健康づくり	①　公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力し、町内自治会館において、いきいきサロンや子育てサロンを実施するなど、住民同士が集える居場所づくりに取り組みます。	地区部会と、町内自治会（稲毛東、稲毛台、稲丘町）が連携・協力し、自治会館及び稲丘小学校校庭、体育館等を利用していきいきサロン（11ヶ所　110回　延べ828人参加）を実施し、住民同士が気軽に集える居場所づくりに取り組みました。	－	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力し、町内自治会館において、いきいきサロンや子育てサロンを実施するなど、住民同士が集える居場所づくりに取り組みます。	参加者の固定化・毎期、毎回同じ顔触れの集うサロン活動から脱却するため、新規の参加者が増えるようなサロン企画・開催を行う必要があります。 また、町内自治会、民児協と連携し、新規で交流の場の立ち上げについて取り組んで行きたい。
		②　健康づくりや介護予防の普及・啓発	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課等と連携協力し、高齢者に対していきいきサロンを実施するなど、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターと連携・協力し、いきいきサロン（11ヶ所　110回　延べ828人参加）、あんしんケアセンターの協力を得て敬老会、文化祭での体力測定診断を実施するなど、高齢者に対して健康づくりや介護予防に取り組みました。	－	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課、シニアリーダー等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロンを実施するなど、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	区健康課、あんしんケアセンターなどと活動内容の検討、協議を行い、健康づくり、介護予防の普及・啓発のためのサロンづくりに取り組んで行きたい。
	２　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	④　地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが連携・協力し、イベント（敬老会、地区運動会、正月行事など）を企画実施し、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会が各町内自治会、稲丘小スポーツ振興会主催の敬老会や三色対抗競技会等のイベントへ協力するなど、多くの地域住民が参加交流できる場づくりに取り組みました。 なお、昔の子供遊びの再現や餅つき体験等の正月行事については諸所の事情を考慮し、開催を見送りました。	－	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが連携・協力し、イベント（敬老会、地区運動会、桜を見る会・夏祭り等の季節行事など）を企画実施し、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	幅広く各世代が参加、交流できる場づくりとしてイベントの実施は一番有効な方法と考えているが、複雑、多様化した最近の社会環境下で、地域住民の共感、協力を得られるような新しいイベントづくりに会員と協議してその実現に努めていきたい。
		⑥　地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、いきいきサロンやふれあい食事サービスなどを通じて声かけによる安否確認を行うなど、見守り活動に取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協と相互に連携・協力し、高齢者に対しての声掛け、訪問、住民同士の見守り活動に取り組みました。 なお、ふれあい食事サービスについては、担い手不足、高齢化等もあって、従来の方法では実施が困難と判断し、常任理事会において、再開に向けての方策を協議しました。	－	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、いきいきサロンやふれあい食事サービスなどを通じて、声かけによる安否確認を行うなど、見守り活動に取り組みます。	担い手不足の解消に向けて、地域住民への働きかけと併せて、各町内自治会、民児協と連携・協力して、地域の実情に沿った活動の実施に努めて行きたい。 また、ボランティアの高齢化に伴い、事業の継続が非常に困難となっている。どのように継続していくかを地域全体の課題という認識を持ち、一緒に議論していきたい。
		⑨　地域の情報の収集と発信	地区部会が町内自治会、民児協、関係機関等と連携協力して会議等に相互に参加し、情報を共有するとともに、広報紙等により地域の活動の情報発信に取り組みます。	各町内自治会会長、民児協役員で構成される常任理事による常任理事会を隔月第3土曜日に開催し、情報の共有を図りました。 また、地域住民に対して地区部会、各自治会発行の広報紙などにより情報発信に取り組みました。	－	地区部会が町内自治会、民児協、関係機関等と連携協力して会議等に相互に参加し、情報を共有するとともに、広報紙等により地域の活動の情報発信に取り組みます。	地区部会を取り巻くネットワーク（町内自治会・民児協・学校・PTA・各種関係団体等）を活用し、より密な連携協力体制の構築を図ると共に、地域の活動の情報発信に取り組んで行きたい。
		⑪　いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	町内自治会自主防災組織が地域住民に対して、災害時に備えて防災訓練や避難訓練を実施するなど、平常時からの防災への意識の向上に努めます。	稲丘小学校避難所運営委員の構成員に地区部会、町内自治会会長、民児協役員を明記し、防災に関する情報の共有を図りました。 また、稲毛区公開防災講座への参加や稲丘小避難所マンホールトイレ実証訓練、実施地域住民対象の防災訓練を行うなど、防災意識の向上に努めました。	－	町内自治会自主防災組織が地域住民に対して、災害時に備えて防災訓練や避難訓練を実施するなど、平常時からの防災への意識の向上に努めます。 また、町内自治会間で防災活動に関する情報共有を行い、災害時における連携強化に努めます。	町内自治会を中心に防災訓練や避難訓練などの機会を設けるとともに、防災に関する公開講座への参加を呼びかけ、住民一人一人の災害時に備えた意識の向上に努めて行きたい。
		⑫　地域住民を地域で守る取組み	町内自治会等が警察と連携し、地域住民の防犯意識を高めるために防犯パトロールを行うなど、住民同士の防犯活動に取り組みます。	各町内自治会が独自のルールで町内パトロールを行うと共に、夏休み、冬休み期間中には育成委員会、PTAが防犯パトロールを実施するなど地域内の防犯活動に取り組みました。	－	町内自治会等が警察と連携し、地域住民の防犯意識を高めるために防犯パトロールを行うなど、住民同士の防犯活動に取り組みます。	高齢化社会に伴い、地域の関係が希薄となる中、地区部会が町内自治会や民児協、育成委員会、警察などと連携し、地域住民の防犯への意識を高めると共に、防犯パトロールの強化を行うなど、防犯活動に取り組んで行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針（５期）	取組項目（４期）	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
千草台中学校地区部会 【人口・世帯数】 7,523人・4,806世帯 【町内自治会数】 8町内自治会	1　みんなの様々な居場所と健康づくり	②　健康づくりや介護予防の普及・啓発	地区部会が町内自治会やあんしんケアセンター、区健康課等と連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロンなどを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンター、シニアリーダー等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン（6ヶ所　60回　延べ779人参加）、ボッチャ、グラウンドゴルフ大会、認知症声かけ訓練を実施するなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みました。	－	地区部会が町内自治会やあんしんケアセンター、区健康課等と連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロンなどを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、担い手を確保するため、地域住民へ働きかけて行きたい。
【高齢化率】 34.5% 【地域の特徴】 2,000世帯から成る千草台団地を中心に新旧の戸建て、マンションが立ち並ぶ全8町内自治会で構成されているエリア。 バスが主な移動手段となり、JR稲毛駅、千葉駅、西千葉駅の利用が可能。 駅までは距離があるが千葉都市モノレールも2駅が利用可能。 また、エリア内には生鮮食料品を扱う店舗は千草台団地内の1店舗。 前記の千草台団地の高齢化率は47%で稲毛区でも2番目に高く、エリア全体でも比較的高い数値となっている。	2　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	④　地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	地区部会が町内自治会、スポーツ振興会などが連携・協力し、イベント（秋祭りや敬老会、地区運動会など）を企画実施し、幅広い世代層が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会や町内自治会、民児協などが相互に連携・協力して、敬老会（9/28）や秋祭り（11/12）、正月行事（1/14）などを開催し、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組みました。	－	地区部会が町内自治会、スポーツ振興会などが連携・協力し、イベント（秋祭りや敬老会、地区運動会など）を企画実施し、幅広い世代層が交流できる場づくりに取り組みます。	引き続き、既存の地域活動を継続するため、各種活動団体が、相互に連携・協力し、開催内容を充実させるなど、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組んで行きたい。
		⑤　地域で活動している人・組織同士の連携・協力	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会などが、イベントなどを実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会などが相互に会議等へ参加し、情報共有を図りながら連携・協力体制の構築に努めました。	－	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会などが、イベントなどを実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	町内自治会、民児協、学校など地域の関係団体が実施する会議等へ参加し、情報共有を図りながら連携・協力体制の構築に取り組んで行きたい。
	3　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	⑪　いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	町内自治会が地域住民に対して避難訓練等を行うなど、平常時から災害時に備えた支援体制づくりに努めます。	地区部会や各町内自治会（自主防災組織）が連携・協力して、防災訓練（9/3）を実施し、災害時の支援体制づくりに取り組みました。	－	町内自治会が地域住民に対して避難訓練等を行うなど、平常時から災害時に備えた支援体制づくりに努めます。	町内自治会を中心に防災訓練や避難訓練などの機会を活用し、住民に対して災害時に備えた危機意識向上に取り組んで行きたい。 また、防災に関連する講座を開催するなど、地域住民に対し、防災に関する意識向上に取り組んで行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針（５期）	取組項目（４期）	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
草野地区部会 【人口・世帯数】 13,591人・6,819世帯 【町内自治会数】 21町内自治会 【高齢化率】 35.9% 【地域の特徴】 京葉道路の一部、穴川インターチェンジの一部をエリアに含み、概ねエリアの中央を走る国道16号線を境に東西へまたがり、地域には古くからの戸建て、アパート群の中に新設のマンションが建設され、新旧住民が混在している。エリア内で一番世帯数の多いあやめ台団地は高齢化が急速に進行しており、住民の半数近くは高齢者となっている。	１　みんなの様々な居場所と健康づくり	①　公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力し、町内自治会館や集会所などにおいて、いきいきサロンや子育てサロン、地域カフェを実施するなど、住民同士が集える居場所づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロン（14ヶ所　137回　延べ1,663人参加）や子育て中の親子を対象とした子育てサロン（1ヶ所　11回　延べ138人参加）を実施しました。 また、幅広い世代が気軽に集える地域カフェを開設するなど、身近な居場所づくりに取り組みました。	－	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力し、町内自治会館や集会所などにおいて、いきいきサロンや子育てサロン、地域カフェを実施するなど、住民同士が集える居場所づくりに取り組みます。 また、子どもたちの居場所づくりの一環として、子ども食堂の実施に向け、地域の関係者と協議を行います。	町内自治会や民児協等と連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。
		②　健康づくりや介護予防の普及・啓発	地区部会があんしんケアセンターや区健康課と連携・協力し、いきいきサロンや散歩クラブなどを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協、区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロン（14ヶ所　137回　延べ1,663人参加）や散歩クラブ（3ヶ所　33回　延べ241人参加）を継続して実施すると共に、健康講座や認知症サポーター養成講座などを実施して、健康づくりや介護予防の啓発に取り組みました。	－	地区部会があんしんケアセンターや区健康課と連携・協力し、いきいきサロンや散歩クラブなどを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと実施内容について検討を行い、いきいきサロン等において健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んで行きたい。
	２　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	④　地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	町内自治会やスポーツ振興会、青少年育成委員会などが連携協力し、イベント（夏祭りやラジオ体操、敬老会、地区運動会など）を企画実施するなど、幅広い世代が交流できる場づくり取り組みます。	一部の町内自治会がスポーツ振興会や青少年育成委員会、子ども会と連携・協力し、夏祭りや夕涼み会、ラジオ体操、敬老会、防災訓練などを継続して企画実施し、幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組みました。	－	町内自治会やスポーツ振興会、青少年育成委員会などが連携協力し、イベント（夏祭りやラジオ体操、敬老会、地区運動会、スポレク大会）を企画・実施するなど、幅広い世代が交流できる場づくり取り組みます。	既存の地域イベントを継続するため、各種活動団体が、相互に連携・協力し、開催内容を充実させるなど、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組んで行きたい。
		⑥　地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会や町内自治会、民児協、ＵＲなどが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対し、「安心登録カード」や「緊急医療情報キット」などによる住民同士の見守り活動に取り組みます。	町内自治会や民児協、ＵＲなどが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して「あんしん登録カード」や「緊急医療情報キット」を継続して配布するなど、地域住民による見守り活動に取り組みました。	－	地区部会や町内自治会、民児協、ＵＲなどが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対し、「安心登録カード」や「緊急医療情報キット」などによる住民同士の見守り活動に取り組みます。 また、ゴミ捨てや草取りなど、支援が必要な高齢者等に対し、生活支援に関する活動に取り組んで行きたい。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、地域住民へ働きかけると共に、町内自治会や民児協などと連携・協力して、地域の実情に沿った支え合い活動の実施に向け取り組んで行きたい。
	３　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	⑪　いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	地区部会や町内自治会、民児協などが千葉市と連携協力し、地域住民に対して災害時に備えて防災訓練や防災講座などを実施するなど、防災意識の向上に努めます。	町内自治会（自主防災会）が地域住民に対して防災訓練や避難訓練を実施するなど、住民一人ひとりの災害時に備えた危機意識の向上に取り組みました。	－	地区部会や町内自治会、民児協などが千葉市と連携協力し、地域住民に対して各町内自治会において災害時に備え防災訓練の実施や防災講座などを実施するなど、防災意識の向上に努めます。	町内自治会を中心とした防災訓練や避難訓練などの機会を通じて、講座を活用して、住民に対して災害時における意識の向上に取り組みます。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
〇：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針（５期）	取組項目（４期）	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
緑が丘地区部会 【人口・世帯数】 16,833人・8,173世帯 【町内自治会数】 28町内自治会 【高齢化率】 36.5% 【地域の特徴】 柏台、長沼町の一部、宮野木町の一部、園生町の一部、あやめ台の一部をエリアとしている。あやめ台団地内の一街区、二街区はあやめ台小学区、三街区は柏台小学校区と、団地内で学区が分かれており、旧来からの住民と、最近立ち始めた戸建て住宅に転入してくる新しい方が混在している。	２　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	③　あいさつから始まる地域との関わり	地区部会が学校やセーフティウォッチャー、町内自治会などと連携・協力し、学校周辺及び通学路においてあいさつ運動を実施すると共に、防犯パトロールによる声かけを行うなど、地域内のあいさつ運動の浸透に努めます。	町内自治会や老人会が地域の防犯パトロールや、セーフティウォッチャーによる、小学校（宮野木小・柏台小）の登下校時の声掛けを行うなど、地域内のあいさつ運動に取り組みました。	－	地区部会が学校やセーフティウォッチャー、町内自治会などと連携・協力し、学校周辺及び通学路においてあいさつ運動を実施すると共に、防犯パトロールによる声かけを行うなど、地域内のあいさつ運動の浸透に努めます。	児童・生徒への登下校時や防犯パトロール時のあいさつ運動を行うため、セーフティーウオッチャーや町内自治会などの関係団体と連携を図るとともに、活動を通じて、住民同士のあいさつ運動の浸透に取り組んで行きたい。
		⑤　地域で活動している人・組織同士の連携・協力	地区部会や町内自治会、民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会等がイベント（緑ンピックなど）や交流会（民児協と子どもルーム交流など）の実施の際に相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会が連携・協力して、緑ンピック（10/21）等のイベントや、防犯に関する講座を開催しました。また、民児協が子どもルームと行う交流会の支援を行うなど、連携・協力体制の構築に努めました。	－	地区部会や町内自治会、民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会等が緑ンピック（10/19　宮野木小学校）や交流会（民児協と子どもルーム交流など）、地域のニーズに応じた講座の開催するなど相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、地域住民へ働きかけると共に、町内自治会、民児協、学校など地域の関係団体が実施する会議等へ参加し、情報共有を図りながら連携・協力体制の構築に努めて行きたい。
		⑥　地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力して、高齢者等に対して日常的な声かけなどによる見守り活動やゴミ出し等、住民同士の見守り・支え合い活動の拡充に取り組みます。	地区部会が町内自治会、民児協と連携し、地域の高齢者に対して安否確認の訪問やゴミ出し支援等、見守りや支え合いに関する活動を行い、意見交換や情報共有に取り組みました。	－	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力して、高齢者等に対して日常的な声かけなどによる見守り活動やゴミ出し等、住民同士の見守り・支え合い活動の拡充に取り組みます。	地域のニーズを把握し、町内自治会や民児協などと連携・協力して、地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針（５期）	取組項目（４期）	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
301（作草部・天台）地区部会 【人口・世帯数】 12,441人・5,318世帯 【町内自治会数】 16町内自治会 【高齢化率】 29.8% 【地域の特徴】 稲毛区の南西に位置する、中央区と若葉区が隣接する新旧の戸建て・集合住宅が立ち並ぶエリア。 商業施設も充実しており、公共交通機関は千葉都市モノレールやバスの利用が可能で、利便性は高い。 旧来からの戸建て住宅では高齢化が進行し、独居・高齢者世帯が増加している。	2　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	④　地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	新型コロナウイルスの状況を踏まえ、工夫しながら「社協まつり（敬老会）」や「夏休みラジオ体操大納会」等、大人数での事業開催に向け取り組んでいきたい。	新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、休止となっていた「社協まつり（11/3　敬老会）」や「ラジオ体操大納会（8/27」を、町内自治会や民児協、小・中学校と連携・協力して開催し、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組みました。	－	新型コロナウイルス等の状況を踏まえ、「社協まつり（敬老会）（11/2）」や「夏休みラジオ体操大納会（8/25）」など、コロナ以前の状況に戻せるよう、工夫しながら大人数での事業開催に向け取り組んでいきたい。	各種活動団体が、相互に連携・協力し、開催内容・方法などについて協議を行い、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組んで行きたい。
		⑥　地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会が町内自治会・民児協と連携・協力し、高齢者等に対してゴミ出しや買物のお手伝いなど、身近な住民同士の支え合い活動に取り組んでいきたい。	地区部会が町内自治会・民児協と連携・協力して行う、「301地区支え合いの会」において、高齢者等を対象にゴミ出しや買物の手伝いの他、多様なニーズに対応するなど、住民同士の支え合い活動に取り組みました。また、継続して2町内自治会において、「無事です」ステッカーを活用した安否確認や1町内自治会で新規に見守り活動を開始しました。	－	地区部会が町内自治会・民児協と連携・協力し、高齢者等に対してゴミ出しや買物のお手伝いなど、身近な住民同士の支え合い活動に取り組んでいきたい。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけると共に、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。
		⑨　地域の情報の収集と発信	地域の団体・関係機関が相互に会議等へ参加し、情報共有を行い、地域住民に対し地域活動等の情報発信に取り組んでいきたい。	コロナウイルスの影響により規模を縮小して、地区部会や町内自治会、民児協、各種活動団体・関係機関が相互に会議等に参加し、情報共有を行いました。 また、広報紙（9月、3月発行）などを通じて地域住民に地域活動等の情報発信に取り組みました。	－	地域の団体・関係機関が相互に会議等へ参加し、情報共有を行い、地域住民に対し地域活動等の情報発信に取り組んでいきたい。	地区部会が関係団体と連携・協力して会議等に相互に参加し、情報共有を行うと共に、広報紙等により地域住民に対して有益な情報の発信に取り組んで行きたい。
	3　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	⑪　いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	地区部会や町内自治会自主防災会などが連携・協力し、避難所開設訓練等や講座を実施するなど、地域住民に対して災害時に備えた防災に関する意識の向上に取り組みます。	地区部会や町内自治会自主防災会などが連携・協力し、避難所運営委員会の開催（7月）、避難所開設訓練や防災講座（9月）を実施するなど、地域住民に対し防災に関する意識の向上に取り組みました。	－	地区部会や町内自治会自主防災会などが連携・協力し、避難所開設訓練や講座を実施するなど、地域住民に対して災害時に備えた防災に関する意識の向上に取り組みます。	地区部会や町内自治会自主防災会などが連携・協力し、防災訓練や避難訓練などの機会を活用し、住民に対して災害時に備えた危機意識向上に取り組むと共に、避難所運営委員会と更なる連携が図れるよう体制の構築に取り組んで行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
〇：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針（５期）	取組項目（４期）	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
緑・黒砂地区部会 【人口・世帯数】 9,261人・5,043世帯 【町内自治会数】 ７町内自治会 【高齢化率】 22.1% 【地域の特徴】 JR線を境に、南に走る国道357号線までの緑町、黒砂、黒砂台1丁目～2丁目をエリアとし、中心を京成線が東西に走っている。 文教施設（大学）が隣接していることもあり、エリアには多くの学生が居住している。	１　みんなの様々な居場所と健康づくり	①　公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	地区部会が民児協などと連携し、公民館や公園などを活用し、高齢者や子育て世代の居場所づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロン（2か所　13回　延べ192人参加）や子育て中の親子を対象として子育てサロン（1か所　6回　延べ87人参加）を実施しました。	－	地区部会が民児協などと連携し、公民館や公園などを活用し、高齢者や子育て世代の居場所づくりに取り組みます。	活動の継続に向け、地域住民へ働きかけると共に、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。
		②　健康づくりや介護予防の普及・啓発	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターと連携・協力し、高齢者に対していきいきサロンや、ふれあい食事サービスを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	地区部会が民児協やあんしんケアセンター等と連携し、高齢者向けにいきいきサロン（1か所　10回　延べ130人参加）や、エリア内数か所の公園でラジオ体操（1か所3回　延べ62人参加）を開催した他、健康講座などにより健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みました。	－	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターと連携・協力して、高齢者に対していきいきサロンや、ふれあい食事サービス、健康講座を開催し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	地区部会が民児協やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、いきいきサロンやふれあい食事サービスを通じて健康づくりの推進を図るとともに、介護予防に関する情報を共有し、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んで行きたい。
	２　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	③　あいさつから始まる地域との関わり	学校（セーフティウォッチャー）と各種関係団体が連携し、一定期間に通学路や学校周辺、地域内であいさつ運動を行い、子どもから大人までが顔なじみになるよう関係づくりに取り組みます。	町内自治会や学校（PTA）と連携し、一定期間に、通学路や学校周辺であいさつ運動を行うと共に、見守り隊によるあいさつ（声掛け）をするなど、子どもから大人までが顔なじみになるよう、あいさつ運動への協力に取り組みました。	－	学校（セーフティウォッチャー）と各種関係団体が連携し、一定期間に通学路や学校周辺、地域内であいさつ運動を行い、子どもから大人までが顔なじみになるよう関係づくりに取り組みます。	町内自治会、学校、セーフティーウオッチャー等と連携し、あいさつ運動の拡充を図るため、地域イベントや広報紙を通じてあいさつ運動が地域へ浸透するように取り組むとともに、担い手確保に向け、見守り隊の募集を行っていきたい。
		④　地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	地区部会が主体となり幅広い世代が参加できる「福祉バザー」を実施する他、町内自治会、民児協が連携・協力し、「納涼祭」「敬老会」等を実施するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	町内自治会や青少年育成委員会、民児協が連携・協力し、地域全体で納涼祭（8/19）や敬老会（9～10月）、福祉バザー（11/23）を開催するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組みました。	－	地区部会が主体となり幅広い世代が参加できる「福祉バザー（11/23）」を実施する他、町内自治会、民児協が連携・協力し、「納涼祭」「敬老会」等を実施するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	既存の地域イベントを継続するため、各種活動団体が、相互に連携・協力し、開催方法を検討するなど、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組んで行きたい。
	３　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	⑫　地域住民を地域で守る取り組み	町内自治会や民児協、各種活動団体が連携・協力して防犯活動協力者を確保し、自転車に防犯ステッカーを掲示するなど、地域内の防犯活動に取り組みます。	民生委員活動を通じて、高齢者等に対し声かけによる安否確認や、一部の町内自治会が、週２回の防犯パトロールや見守り活動を継続して取り組むと共に、「防犯ステッカー」を防犯活動協力者の自転車に掲示するなどして、地域内の防犯活動に取り組みました。	－	町内自治会や民児協、各種活動団体が連携・協力して防犯活動協力者を確保し、自転車に防犯ステッカーを掲示するなど、地域内の防犯活動に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、地域住民へ働きかけると共に、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針（５期）	取組項目（４期）	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
小中台西地区部会 【人口・世帯数】 21,342人・12,537世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 24.4% 【地域の特徴】 JR稲毛駅周辺を中心とした小仲台1丁目から9丁目のエリア。 新・旧の戸建て住宅とマンションが混在し、駅周辺のマンションには若い世代が多く居住しているが、JR稲毛駅から距離のある旧来からの集合住宅では高齢化が進行している。	２　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	③　あいさつから始まる地域との関わり	地区部会が町内自治会・学校・青少年育成委員会と連携・協働し、あいさつをテーマにした標語の作品募集を行い、「東西社協まつり（10月）」や広報紙などで作品の広報啓発に取り組みます。 また、地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して、町内に掲出するステッカー等により、地域住民に「あいさつ・声かけ運動」の浸透に取り組みます。	地区部会が近隣校（園生小、小中台小、柏台小、小中台南小）の協力を得る中、あいさつをテーマにした標語作品を募集し、東西社協まつり（10/29　小中台公民館）で優秀作品の展示会を行うと共に、あいさつ運動のステッカーを作成して町内自治会の掲示版へ掲示するなど、あいさつ運動の浸透に取り組みました。 また、セーフティウォッチャー（園生小・小中台小、小中台南小）が青少年育成委員や民生委員と連携・協力して登下校時のあいさつ運動や、町内自治会が防犯パトロールを兼ねてあいさつ・声かけ運動に取り組みました。	－	地区部会が町内自治会・学校・青少年育成委員会と連携・協働し、あいさつをテーマにした標語の作品募集を行い、「東西社協まつり（10月）」や広報紙などで作品の広報啓発取り組みます。 また、地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して、町内へステッカーの掲示やセーフティウォッチャーが青少年育成委員や民生委員と連携・協力し、登下校時や、町内自治会が防犯パトロールを兼ねてあいさつ・声かけ運動に取り組みます。	町内自治会、学校、セーフティーウオッチャー等と連携し、町内自治会が防犯パトロールを兼ねたあいさつ・声かけ運動の拡充を図るとともに、地域のイベントや広報媒体等を通じて広報啓発を行い、あいさつ運動が地域へ浸透するように取り組んで行きたい。 また、町内自治会未設置エリアへ、あいさつ運動への理解と協力に向け働きかけて行きたい。
		④　地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	地区部会が町内自治会や民児協、各種活動団体と連携・協力して「東西社協まつり（10月）」や「茶話会（3月）」などイベントを企画実施する他、自治会単位で開催する祭やイベントなどを通じて住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協、商工会、学校などと連携・協力し、東西社協まつり（10/29　小中台公民館）や町内自治会ごとに夏祭り、75歳以上の高齢者を対象とした茶話会（3/17　小中台公民館）を開催するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組みました。	－	地区部会が町内自治会や民児協、各種活動団体と連携・協力して「東西社協まつり（10月）」や「茶話会（3月）」などイベントを企画実施する他、自治会単位で開催する祭やイベントなどを通じて住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、地域住民へ働きかけると共に、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。
		⑥　地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会が町内自治会や民児協と連携し、一人暮らし高齢者等に対して日常的な声かけなどの安否確認等による見守り活動に取り組みます。	7町内自治会が一人暮らし高齢者に対して訪問による声かけや防犯パトロール等により安否確認の見守りを継続的に取り組んだ他、地区部会が町内自治会や民児協と連携・協力し、いきいきサロン（9か所　75回延べ760人参加）の活動を介して高齢者等の見守りに取り組みました。また、一部の自治会で平常時のほか、災害時など緊急時の見守りとの2パターンを想定した見守り活動に取り組みました。	－	地区部会が町内自治会や民児協と連携し、一人暮らし高齢者等に対して日常的な声かけや、いきいきサロン、ふれあい食事サービスの参加者・利用者への安否確認等による見守り活動に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、地域住民へ働きかけると共に、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）総括表

【達成状況の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた　○：年度目標が概ね達成できた
△：年度目標の一部が達成できた　×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった　―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

◆基本方針別取組状況

基本方針	取組項目数	重点取組項目数	重点取組項目の達成状況		主な取組内容
1　誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	29	28	◎	0	高齢者）　ふれあい・いきいきサロン、コミュニティカフェを実施。様々な工夫を凝らし地域の高齢者の仲間づくりや交流の場を提供。 子ども）ふれあい・子育てサロンの実施。凧揚げ、折り紙教室、子ども食堂等、地域ぐるみの子育て支援に取り組む。インスタグラムでの子育てサロン動画の配信を行う。 その他）歩こう会、グラウンドゴルフ、ボッチャ、バレーボール大会等の運動イベントの開催。介護支援・介護予防教室、福祉の集いの開催。健康体操、ラジオ体操等を通し健康づくりに取り組む。
			○	24	
			△	1	
			×	1	
			―	2	
2　あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう【地域での担い手発掘】	26	12	◎	0	訪問、安心カード配付、広報紙による地域住民への啓蒙、理解促進等に取り組む。支えあい活動により、買物、付添、ゴミ出し等の支援を行う。高齢者等の見守り活動者や普及のための地域住民の説明会の実施。地区部会や町内自治会の広報や各種イベント等で福祉活動推進員やボランティアの募集を行う。 （共通）「安心カード」の配付と緊急通報システムの利用促進
			○	10	
			△	1	
			×	0	
			―	1	
3　備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう	3	3	◎	0	地域自治会やボランティア活動により防犯パトロール、セーフティーウォッチャー等の見守り活動、チラシ回覧にて注意喚起を促す。防災マップ作成準備、町内自治会に対し自主防災組織設置の働きかけ、防災訓練、防災講習会等の開催、町内自治会と地区部会による災害時要支援者情報の共有化検討等に取り組む。
			○	3	
			△	0	
			×	0	
			―	0	
4　必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう	21	6	◎	1	「ミニ福祉通信」等の広報紙を発行。地域福祉に関する多様な情報提供を実施。地域ケア会議を開催し地域課題の共有と意見交換を行う。サロン開催や広報誌作成時にあんしんケアセンターと連携し、相談窓口の設置や介護保険等の情報提供に取り組む。 （共通）オンライン会議の普及・啓発
			○	5	
			△	0	
			×	0	
			―	0	
5　世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう【将来的な人材育成】	16	2	◎	0	ふれあい祭等を通した子供たちとのふれあい、小中学校の夏季及び冬季休業時に学校と地域との連携による工作教室や昔遊びの実施。高校、大学、地域住民並びに地区部会の連携によるふれあい・子育てサロン、各種講座を実施。広報誌を発行し、福祉教育に代わる啓発や福祉に関する地域への情報提供を行う。 （共通）各地区部会エリアの連携（好事例等の情報交換）
			○	1	
			△	0	
			×	1	
			―	0	
今年度の振り返り	95	51	◎	1	昨年度までは新型コロナウィルス感染拡大の影響で中止や見合わせする活動が見られたが、今年度は各活動団体が感染症対策を講じつつ多くの活動が再開されたため、年度目標を概ね達成した取組みが8割を超えた。 また、年度当初に第５期計画中間見直しを行い、次年度からの重点取組目標の選定作業をおこなっており、新たに設定した若葉区共通の取組みについての内容も反映した。
			○	43	
			△	2	
			×	2	
			―	3	

今後の課題と方針	今年度実施した中間見直しで、第５期計画策定時は未設定であった「具体的な取組み」「重点取組項目」を各社協地区部会エリアで選定している、次年度からは、各社協地区部会エリアで作成した年次計画表（令和６年度～令和８年度）を基に、年度毎に進捗状況を把握しながら取組を推進していく。 また、中間見直しで課題として上げられていた、若葉区全体としての活動の一体化、オンラインの普及・啓発、各活動団体間の連携や情報共有等に対しては、独自に「若葉区全体の統一した試み（若葉区共通）」を設け、推進協議会が中心となり取組みを進め、各地区部会エリアの取組みにも反映させていく。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第１回	令和５年７月１４日（金）	第５期計画中間見直し素案作成　令和４年度取組み状況調査
第２回	令和５年１０月２７日（金）	第５期計画中間見直し原案作成
第３回	令和６年３月６日（水）	令和５年度以降の年次計画書　若葉区統一した試みの検討　次年度のスケジュール等

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
第２８号	３月	８４０部　（自治会、社協、市民センター、公民館、図書館等）

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

●白井地区部会での取り組み

【敬老会】
圏域が広く、会場まで徒歩で来ることができない参加希望者に対して、近隣の３施設（和陽園、美香宛、中野園）に、当日の送迎について協力を仰ぎ、実施することができた。
【将来的な人材育成】
他区の地区部会の福祉教育の取り組みを視察した。

●千城台東南・金親地区部会での取り組み

【買物支援サービス事業】
移動が困難な高齢者の食料品や生活用品等の買物のニーズに答えるため、エリア内に設置されている施設が地域貢献活動をしたい旨、市社協を通じて連絡があり、検討を重ね、令和５年９月より、当該サービスを開始。アンケートの結果を踏まえ、千城台東町から試験的にスタートし、徐々にエリアを拡大していく予定（千城台東３、４丁目から１、２丁目へ拡大）。施設に車両を出してもらい、毎週水曜日、午前と午後一便ずつ運行。

【有償の家庭ごみ排出代行事業】
住民の高齢化により、市営や県営住宅の高階の住人や、戸建てにおいてもごみ収集場所が遠く、ごみ出しが困難な住民が年々増加するなか、これまでのボランティアによるごみ出し支援が、ボランティアの高齢化により、現状を継続することが困難な状況にあった。その将来を見越した対応策として、有償のごみ出し支援事業を検討。千葉市よりダストボックスの提供を受け、近隣の生活介護事業所の協力により、令和５年８月より当該事業を開始。ごみ出し希望者より料金を徴収、ごみ排出代行者へ協力金を支払う仕組みを確立。生活介護事業所が排出代行を担当。予め取り決めた曜日と時間にごみを回収しダストボックスで保管、収集日に収集業者がごみを収集する。

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目		令和５年度の目標	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標	今後の課題と方針
坂月地区部会エリア 【人口・世帯数】 4,884人、2,220世帯 【町内自治会数】 ５町内自治会 【高齢化率】 21.1% 【地域の特徴】 戸建住宅が少しずつ増え、新住民も増えてきているが、多くの生徒は、千城台西小学校へ通学しているため、エリア内にある坂月小学校（市内で最少人数）に通学する生徒は少ない。	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	④	福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・歩こう会、グラウンドゴルフ大会の実施 ・アルパ（ハープ）演奏会の実施 ・坂月小学校児童との交流事業（花植え）の実施	・10/29（日）に坂月小グランドにおいて、グランドゴルフ大会を予定していたが、雨天のため中止となった。 ・12/2（土）に大草町自治会館において、アルパ演奏会を実施した。 ・2/7（水）に坂月小学校児童との交流事業「花と心の通う路」花植えを実施した。 ・2/18（日）に歩こう会及び小倉会館において落語会を実施した。	○	・歩こう会、グラウンドゴルフ大会の実施。 ・アルパ（ハープ）演奏会の実施。 ・坂月小学校児童との交流事業（花植え）の実施。	①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開
	共通	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう** **【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・「安心カード」の配付と緊急通報システムの利用促進。	・「安心カード」の配付状況の確認と、緊急通報システム利用の促進を図った。	○	・カード更新及び配布。 ・緊急通報システム拡大の検討（加入数把握）。	
	○	**備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう**	⑧	防犯活動の実施	・学校セーフティウォッチャー事業への協力することと併せて、人員を確保するため、登録の呼びかけを行う。	・学校セーフティウォッチャー事業に一年を通じて参加協力し、児童の登下校の見守りを行った。	○	・学校セーフティウォッチャー事業への協力することと併せて、人員を確保するため、登録の呼びかけを行う。	
	○	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑩	地域福祉に関する情報の発信	・地域福祉に関する情報を発信するため、広報紙「あさつゆ」の内容の拡充を図り、年2回発行する。	・広報紙「あさつゆ」を9月、10月の年2回発行し、方法の発信に努めた。	○	・地域福祉に関する情報を発信するため、広報紙「あさつゆ」の内容の拡充を図り、年2回発行する。	
	共通	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑪	オンライン活用による情報交流	・オンライン会議の普及・啓発。	―	―	・推進協、地区部会連絡会のハイブリッド開催。 ・有志によるZOOM体験の実施。	
	共通		⑬	福祉を学び実践する	・各地区部会エリアの連携（好事例等の情報交換）。	・支えあいのまち推進協議会において、他地区の事例紹介、意見交換を行った。	○	・推進協開催時の好事例等の紹介。 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目		令和５年度の目標	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標	今後の課題と方針
貝塚地区部会エリア 【人口・世帯数】 6,504人、3,664世帯 【町内自治会数】 ９町内自治会 【高齢化率】 21.1% 【地域の特徴】 代々続く旧家の多いエリアと、造成地へ戸建てが立ち、そこへ住む転入住民、賃貸住宅の多いエリアなどが混在し、古くから住宅のあるエリアでは2世代、3世代同居の家も多い。	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	①	あいさつ運動やサロンを活用したふれあい、機会づくり	・ふれあいの仕組みづくりとして、いきいきサロンやボランティア講座等を通じて交流・居場所づくりの推進。	・いきいきサロン「貝塚くらぶ」を4ヵ所、計5回実施した。	○	・引き続き、ふれあいの仕組みづくりとして、いきいきサロンやボランティア講座等を通じて交流・居場所づくりの推進する。	①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	②	健康や介護を通じた関係づくり	・健康づくりのための健康セミナーや「100歳体操」（いきいきサロン時）の実施。	・11/26（日）に芋煮会に合わせて健康セミナーを実施した。また、いきいきサロン時に体操を実施し、健康づくりに努めた。	○	・引き続き、健康づくりのための健康セミナーや「100歳体操」（いきいきサロン時）を実施する。	
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	③	公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	・お楽しみ会の実施（児童・未就学児対象）。	・7/8（土）に貝塚団地集会所において、12/16（土）に東部自治会館において、児童・未就学児を対象としたお楽しみ会をそれぞれ実施した。	○	・お楽しみ会（児童・未就学児対象）について、周知方法を検討し、実施する。	
	※○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	④	福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・芋煮会、敬老会、茶話会等の地域行事を通して、ふれあい交流活動の実施。	・11/26（日）に芋煮会を実施した。また、敬老会、茶話会を１地区で実施した。	○	・芋煮会、敬老会、茶話会等について、参加者を増やすために、声かけすることと併せて、高齢者の声を参考に内容を充実させる等、地域行事を通して、ふれあい交流活動を推進する。	
	共通	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・413地区民児協による「安心カード」の配付と緊急通報システムの利用促進。	・配布状況の確認。 ・通報システム利用状況の確認。	○	・カード更新及び配布。 ・緊急通報システム拡大の検討（加入数把握）。	
	○	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑩	地域福祉に関する情報の発信	・年１回広報紙の発行を実施。	・3/1に貝塚地区部会だよりを発行した。	○	・引き続き、貝塚地区部会だよりを年１回発行する。	
	共通	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑪	オンライン活用による情報交流	・オンライン会議の普及・啓発。	―	―	・推進協、地区部会連絡会のハイブリッド開催。 ・有志によるZOOM体験の実施。	
	共通	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう 【将来的な人材育成】**	⑬	福祉を学び実践する	・各地区部会エリアの連携（好事例等の情報交換）。	・支えあいのまち推進協議会において、他地区の事例紹介、意見交換を行った。	○	・推進協開催時の好事例等の紹介。 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目		令和５年度の目標	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標	今後の課題と方針
桜木地区部会エリア 【人口・世帯数】 15,107人、7694世帯 【町内自治会数】 20町内自治会 【高齢化率】 27.3% 【地域の特徴】 幹線道路が複数本通っており、地域を分断している。 住宅地が多く、古くからの住民に加え、新住民が増えてきている。	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	①	あいさつ運動やサロンを活用したふれあい、機会づくり	・いきいきサロンの運営支援。 ・子育てサロン「ととけっこー」の運営。	・いきいきサロン7か所で、延べ66回実施した。 ・子育てサロン「ととけっこー」を10回実施した。	○	・いきいきサロンを７か所で実施する。 ・子育てサロン引き続き実施。平均参加組組数4組。	①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	②	健康や介護を通じた関係づくり	グラウンドゴルフ大会、ボッチャ大会等、スポーツを通した地域づくり。	・9/16（土）に桜木小学校体育館において、各町内自治会の60才以上を対象に、ボッチャ体験会を開催。58名の参加があった。 ・11/19（日）に桜木小学校グラウンドにおいて、各町内自治会の65才以上及び老人クラブを対象に、グラウンドゴルフ大会を開催。45名の参加があった。 ・2/18（日）に桜木小学校体育館において,各町内自治会の60才以上を対象に、ボッチャ大会を開催。64名の参加があった。	○	・参加自治会数平均9自治会。	
	共通	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・402地区民児協による「安心カード」の配付と緊急通報システムの利用促進。	・配布状況の確認。 ・通報システム利用状況の確認。	○	・カード更新及び配布。 ・緊急通報システム拡大の検討（加入数把握）。	
	共通	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑪	オンライン活用による情報交流	・オンライン会議の普及・啓発。	―	―	・推進協、地区部会連絡会のハイブリッド開催。 ・有志によるZOOM体験の実施。	
	共通	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう 【将来的な人材育成】**	⑬	福祉を学び実践する	・各地区部会エリアの連携（好事例等の情報交換）。	・支えあいのまち推進協議会において、他地区の事例紹介、意見交換を行った。	○	・推進協開催時の好事例等の紹介。 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目		令和５年度の目標	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標	今後の課題と方針
小倉地区部会エリア 【人口・世帯数】 13,984人、6,731世帯 【町内自治会数】 12町内自治会 【高齢化率】 26.8% 【地域の特徴】 約1,600世帯が属する小倉台中央自治会（小倉台1丁目～小倉台7丁目）がエリアの中心にある。千葉都市モノレール小倉台駅を中心に、南北には戸建て主に住宅からなる住宅街と一部集合住宅（市営・県営）、幹線道路沿いには商店街が広がる。	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	①	あいさつ運動やサロンを活用したふれあい、機会づくり	・「ふれあい・いきいきサロン」の内容充実及び参加人数の増加。 ・「ふれあい食事サービス」の再開の検討。	・「ふれあい・いきいきサロン」を小倉台中央自治会館において、年11回開催し、延べ151名の参加があった。 ・「おりがみ教室」をウェルシア薬局内ウェルカフェにおいて、年9回開催し、延べ69名の参加があった。	○	・「ふれあい・いきいきサロン」の内容充実及び参加人数の増加。 ・「ふれあい食事サービス」の再開の検討。	①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	④	福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・「吹奏楽コンサート」や「介護講座」、「散歩クラブ」などの開催。施設等へのボランティア参加の検討。	―	―	・「吹奏楽コンサート」や「介護講座」、「散歩クラブ」などの開催。施設等へのボランティ活動。	
	○共通	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・民生委員の協力による「安心カード」の配布と緊急通報システムの利用促進。	・継続して安心カードの配付を実施した。	○	・民生委員の協力による「安心カード」の配布と緊急通報システムの利用促進。	
	共通	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑪	オンライン活用による情報交流	・オンライン会議の普及・啓発。	―	―	・推進協、地区部会連絡会のハイブリッド開催。 ・有志によるZOOM体験の実施。	
	共通	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう 【将来的な人材育成】**	⑬	福祉を学び実践する	・各地区部会エリアの連携（好事例等の情報交換）。	・支えあいのまち推進協議会において、他地区の事例紹介、意見交換を行った。	○	・推進協開催時の好事例等の紹介。 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目		令和５年度の目標	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標	今後の課題と方針
白井地区部会エリア 【人口・世帯数】 6,270人、3,476世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 48.5% 【地域の特徴】 対象エリアが非常に広く、大きく3つの地域（西部・東部・中部）に分けられ、それぞれ異なる歴史・成り立ちを持ち、昔からの歴史のある地域と新興住宅地が混在している。	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	④	福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	協力的な福祉施設が多い、地域特性を活かす。 ・ボッチャ体験会、タオルでボランティアなどの福祉施設とのふれあい交流活動の推進を図る。 ・福祉施設と地域で連携できる項目を検討する。	・敬老会と4自治会でボッチャ体験会を実施した。 ・タオルでボランティアを実施し、年間を通して560枚を収集。地区内の14施設に配布し、情報交換と交流を図ることができた。 ・1/27(土)に白井公民館において、第2いずみ苑の協力を得て、車椅子講習会を実施。25名の参加があった。 ・9/18(月_敬老の日)に白井地区敬老会を実施。参加者の送迎について、近隣3施設に協力いただいき、自治会と施設との交流にもつながった。	○	・自治会対抗ボッチャ大会の実施。 ・敬老会、自治会でのボッチャ体験会の実施。 ・タオルでボランティアの実施。 ・地区内福祉法人との意見交換会の実施。 ・福祉法人の敬老会参加者の送迎の継続と買物支援など新たな協力体制の検討。	①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開
	○	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう** **【地域での担い手発掘】**	⑤	活動の中核となれる人材の発掘	・人材の発掘方法の検討を行う。 ・各自治会へ出向きイベントを開催し、協力員となりうる人材の発掘を行う。（自治会役員OB、協力員の充実）	・17連協自治会長を対象に白井公民館で、また、地区内３ヶ所において認知症講座を開催。人材の発掘に努めた。 ・8/5（土）に白井公民館において、自治会長・役員・協力者を対象に、地区内ボランティア団体の事例紹介を実施。23名の参加があり、地域ボランティア活動への理解を深めた。	○	・地区内3ヶ所において、認知症講座の開催。 ・認知症サポーター養成講座の開催。 ・福祉活動推進員の増員(1名～2名)。 ・各自治会でのイベントに出向き人材の発掘を積極的に行う。 ・障害者へのサポート講習会の実施。 ・ボランティア講座（事例紹介）の実施。	
	共通	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう** **【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・406地区民児協による「安心カード」の配付と緊急通報システムの利用促進。	・配布状況を確認し。カード更新及び配付を行った。 ・通報システム利用状況を確認。利用拡大の方法について検討を行った。	○	・カード更新及び配布。 ・緊急通報システム拡大の検討（加入数把握）。	
	○	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう** **【地域での担い手発掘】**	⑦	活動団体同士の連携・交流	・構成4団体との情報交換を積極的に行い、活動団体同士の連携、交流を推進する。 ・地域ケア会議の開催など地域の困り事解決に取り組む。 ・活動拠点の確保を図る。（資料の保管、打合せ場所の確保）	・構成4団体との情報交換を積極的に行い、活動団体同士の連携、交流をを図った。 ・地域の困りごとの抽出を行うとともに、情報交換をすることで、活動団体同士の連携・交流を図った。 ・資料の保管場所について検討を行った。	○	・構成4団体との意見交換会を実施し、連携の推進を図る。 ・地域ケア会議などにより、地域の困りごとの抽出を行う。 ・資料の保管場所に選定した施設と保管方法について協議し保管場所を確保する。	
	○	**備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう**	⑨	災害に備えた準備・体制づくり	・白井地区における災害の脅威と対応について、地区の団体で対応する項目を検討し、連絡体制を確立する。 ・災害時の社会的弱者のためのボランティア活動の在り方について検討し、その結果を災害時のボランティア活動に取り入れる。	・日赤千葉県支部より指導員2名に依頼し、避難所で役立つ知識・技術の習得を目的に生活支援講座を開催。災害時対応について再確認することができた。	○	・災害時に地区団体で対応すべき内容を協議する検討会を開催し、連絡体制の確立を図る。 ・救急法等講習会の実施	
	共通	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑪	オンライン活用による情報交流	・オンライン会議の普及・啓発。	―	―	・推進協、地区部会連絡会のハイブリッド開催。 ・有志によるZOOM体験の実施。	
	共通	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう** **【将来的な人材育成】**	⑬	福祉を学び実践する	・各地区部会エリアの連携（好事例等の情報交換）。	・他区の地区部会の福祉教育の取組みを視察。情報交換と交流を深める事が出来た。 ・支えあいのまち推進協議会において、他地区の事例紹介、意見交換を行った。	○	・推進協開催時の好事例等の紹介。 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目		令和５年度の目標	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標	今後の課題と方針
更科地区部会エリア 【人口・世帯数】 2,510人、1,362世帯 【町内自治会数】 12町内自治会 【高齢化率】 44.2% 【地域の特徴】 対象エリアは非常に広いが、住基人口（2,683人）、世帯数（1,237世帯）は区内で一番少ない。 多くの地域が農村地域であり、人の出入りは多くなく、高齢化率は高いが、現役農家世帯が多く、元気な高齢者が多い。	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	①	あいさつ運動やサロンを活用したふれあい、機会づくり	・現在活動中の３つのふれあいサロンの実施を継続する。	・活動中の3つのふれあいサロンのうち、1つのサロンが開催に至らなかったが、２サロンが実施を継続できた。	△	・引き続き、2つのサロン活動を継続する。 （1サロンは活動終了）	①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	④	福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・交流活動実施に向け、検討していくことと併せて、敬老会・凧揚げ大会を実施する。	・9/17（日）に更科小学校体育館において、敬老会を開催した。 ・12/3（日）に更科小学校体育館及び更科中学校校庭において、凧揚げ大会を実施した。	○	・敬老会と凧揚げの継続とそれ以外のふれあい活動を検討する。	
	共通	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・407地区民児協による「安心カード」の配付と緊急通報システムの利用促進。	・配布状況を確認し。カード更新及び配付を行った。 ・通報システム利用状況を確認。利用拡大の方法について検討を行った。	○	・カード更新及び配布。 ・緊急通報システム拡大の検討（加入数把握）。	
		あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】	⑦	活動団体同士の連携・交流	・地域団体との連携の強化（育成委員会と地区部会）を図るとともに、「うつしの祭」と「敬老会」の融合を検討する。	・「うつしの祭」と「敬老会」の融合を検討する	○	・「うつしの祭」と「敬老会」の同時開催。	
		必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう	⑩	地域福祉に関する情報の発信	・地区部会だよりを年2回発行する。	・7月と11月に地区部会だよりを発行し、地区部会活動の周知と情報発信に努めた。	○	・地区部会だよりを年2回発行する。	
	共通	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑪	オンライン活用による情報交流	・オンライン会議の普及・啓発。	―	―	・推進協、地区部会連絡会のハイブリッド開催。 ・有志によるZOOM体験の実施。	
	共通	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう 【将来的な人材育成】**	⑬	福祉を学び実践する	・各地区部会エリアの連携（好事例等の情報交換）。	・支えあいのまち推進協議会において、他地区の事例紹介、意見交換を行った。	○	・推進協開催時の好事例等の紹介。 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目		令和５年度の目標	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標	今後の課題と方針
御成台、千城台西・北地区部会エリア 【人口・世帯数】 9,252人、4,687世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 38.9% 【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	①	あいさつ運動やサロンを活用したふれあい、機会づくり	・いきいきサロン（年20回超）子育てサロン（年6回）開催し、住民同士の交流を図る。	・いきいきサロンを年20回、子育てサロンを年5回開催。また、夏休み子どもチャレンジ教室を千城台公民館において開催。住民同士の交流を図った。	○	・引き続き、R5年度の活動（いきいきサロン（年20回超）子育てサロン（年6回）開催）を継続していく。また、ゲーム、スポーツ、ヨガ等を組み入れ心身を活性化する。	①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	②	健康や介護を通じた関係づくり	・いきいきシニア（年12回）ポールウォーキング（年15回）健康体操（年3回）その他ボッチャ（年1回）などを通じ、健康予防に資する。	・介護予防体操（千葉市いきいき体操、シニアリーダー体操、口腔体操など）を年12回、ふれあい散歩クラブ「ポールでウォーキング」を年13回（荒天により2回中止）、はつらつ健康体操を年3回実施した。	○	・引き続きR5年度の活動（介護予防体操（千葉市いきいき体操、シニアリーダー体操、口腔体操など）を年12回、ふれあい散歩クラブ「ポールでウォーキング」を年15回、はつらつ健康体操を年3回）を継続して実施する。	
	共通	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・408地区民児協による「安心カード」の配付と緊急通報システムの利用促進。	・配布状況を確認し。カード更新及び配付を行った。 ・通報システム利用状況を確認。利用拡大の方法について検討を行った。	○	・カード更新及び配布。 ・緊急通報システム拡大の検討（加入数把握）。	
	○	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑩	地域福祉に関する情報の発信	・広報紙を年5回発行する。 ・社協行事の紹介のほか、健康づくり、介護予防のための情報を発信する。	・社協だよりを年5回、各回2,500部を発行。14自治会全世帯及び各種関係団体に配布した。 ・社協行事の紹介のほか、健康づくり、介護予防の情報も併せて発信した。	○	・年5回の広報紙発行は、十分な発行回数であるため引き続き、R5年度の活動を継続していく。	
	共通	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑪	オンライン活用による情報交流	・オンライン会議の普及・啓発。	―	―	・推進協、地区部会連絡会のハイブリッド開催。 ・有志によるZOOM体験の実施。	
	共通	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう 【将来的な人材育成】**	⑬	福祉を学び実践する	・各地区部会エリアの連携（好事例等の情報交換）。	・支えあいのまち推進協議会において、他地区の事例紹介、意見交換を行った。	○	・推進協開催時の好事例等の紹介。 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目		令和５年度の目標	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標	今後の課題と方針
千城台東南・金親地区部会エリア 【人口・世帯数】 9,820人、5,127世帯 【町内自治会数】 16町内自治会 【高齢化率】 38.0% 【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	①	あいさつ運動やサロンを活用したふれあい、機会づくり	・ふれあいサロン憩、ふれあいサロン南を実施する。 ・こども食堂「縁」に対しての手伝いを実施する。	・東町自治会館を借用し、ふれあいサロン憩を年間11回、「こども食堂　縁」を借用し、ふれあいサロン南を年間11回それぞれ実施した。 ・こども食堂「縁」で週2回、調理、配膳等の手伝いを実施した。	○	・ふれあいサロン憩、南を各月1回実施 ・こども食堂「縁」で週2回手伝い実施	①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	③	公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	・60歳以上の方を対象として「グラウンドゴルフ大会」、「バス研修旅行」を実施し交流の機会を作る。	・「グランドゴルフ」　中止 ・8月31日（木）に千城台公民館ホールにおいて「ボッチャ」を実施した。参加者・講師・スタッフあわせて27名の参加。 ・2月14日（水）に「高齢者バス研修旅行」を実施。参加者・スタッフあわせて41名の参加。	○	・「ボッチャ」の開催 ・「バス旅行」を実施し、交流の機会を作る	
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	④	福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・地区内の小学生を対象とした「冬休みなかよし教室」を開催する。 ・東小学校、みらい小学校が開催する「昔あそび」を支援する。	・12/19（火）にみらい小学校一年生を対象に、「昔あそび」実施。児童28名、ボランティア19名の参加があった。 ・12/21（火）に東小学校一年生を対象に、「昔あそび」実施。児童37名、ボランティア16名の参加があった。 ・12//23（土）に千城台公民館において、「冬休みなかよし教室」を実施。みらい小22名、東小18名、ボランティア13名の参加があった。	○	・地区内小学生を対象とした冬休みなかよし教室を実施 ・東小、みらい小を対象に、「昔あそび」を実施。	
	○	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・要支援者への生活支援（ゴミ出し、買い物、外出支援）の活動に取り組む。 ・将来を見据えて有償でのゴミ出し支援事業の検討を継続する。	・高齢者施設（和陽園）の送迎車を活用した買物支援事業を9月より開始した。 ・障害者施設（(株)ベストサポートの事業所「mazekoze」）の橋梁区による、有償のゴミ排出代行事業を、8月より開始した。	○	・買物支援事業の継続実施。 ・有償ごみ排出代行サービスの継続実施。	
	共通	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・409地区民児協による「安心カード」の配付と緊急通報システムの利用促進。	・配布状況を確認し。カード更新及び配付を行った。 ・通報システム利用状況を確認。利用拡大の方法について検討を行った。	○	・カード更新及び配布。 ・緊急通報システム拡大の検討（加入数把握）。	
	○	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】**	⑦	活動団体同士の連携・交流	・御成台,千城台西・北地区部会との交流会を実施し、活動内容の情報交換を実施する。	・2/3（土）に御成台、千城台西・北地区部会と合同で、元パラリンピック車椅子マラソン日本代表の「花岡伸和」氏を講師に迎え、講演会を実施。69名の参加があった。	○	・御成台、千城台西・北地区部会との交流で、活動内容の情報交換を実施	
	○	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑩	地域福祉に関する情報の発信	・広報紙の発行を通じ地域福祉の情報を地域住民に発信する。 ・ホームページの運営で情報媒体の多様化を図り、より情報量を増やす。	・広報紙「千城台東南・金親地区社協だより」を特別版を含めて年4回発行。各自治会より、会員へ配付。社協活動のPRに努めた。 ・ホームページの運用・管理を行い、今まで印刷物で配布していた案内等をHPに掲載し、情報発信を行った。	○	・広報紙「社協だより」を年3回発行 ・ホームページの内容を充実し、情報発信を拡大する	
	共通	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑪	オンライン活用による情報交流	・オンライン会議の普及・啓発。	―	―	・推進協、地区部会連絡会のハイブリッド開催。 ・有志によるZOOM体験の実施。	
	共通	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう 【将来的な人材育成】**	⑬	福祉を学び実践する	・各地区部会エリアの連携（好事例等の情報交換）。	・支えあいのまち推進協議会において、事例紹介、意見交換を行った。	○	・推進協開催時の好事例等の紹介。 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目		令和５年度の目標	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標	今後の課題と方針
26地区部会エリア 【人口・世帯数】 6,980人、3,560世帯 【町内自治会数】 8町内自治会 【高齢化率】 45.4% 【地域の特徴】 徒歩圏内に鉄道の駅はなく、公共交通機関はバスのみ。 当該エリアの中心である大宮台団地は昭和36年～42年にかけ、千葉県住宅供給公社により開発された大規模団地（当時戸建住宅2,040戸）である。隣接はしないもののいずみ台ローズタウンを内包する。	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	①	あいさつ運動やサロンを活用したふれあい、機会づくり	・地域で出来る、あいさつ運動・グラウンドゴルフ・ボッチャ・子育てサロン等を通じて地域住民ふれあいを深める。	・挨拶運動　各自治会で実施 ・グランドゴルフ　大宮台自治会月24回、北大宮台自治会月4回　いずみ台ローズタウン自治会月３回 ・ボッチャ　大宮台自治会月2回、北大宮台自治会月2回 ・子育てサロン　大宮台自治会月1回、　いずみ台ローズタウン自治会月1回	○	令和5年度と同様に実施。 参加していない自治会には参加を呼び掛ける。	①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	③	公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	・各自治会で健康でいきいき暮らせる、ラジオ体操・高齢者見守り・買物支援・公園清掃を行う。	・ラジオ体操　大宮台自治会毎日、いずみ台ローズタウン自治会月4回、水町内会8月に実施 ・高齢者見守り　大宮台自治会週2回、北大宮台自治会月2回、いずみ台ローズタウン自治会月4回、みどり自治会月1回、さくら自治会月8回、清水町内自治会随時 ・買物支援　大宮台自治会月4回、いずみ台ローズタウン自治会月8回 ・公園清掃　大宮台自治会月2回、北大宮台自治会月2回、いずみ台ローズタウン自治会月2回、みどり自治会月1回、さくら自治会月8回	○	令和5年度と同様に実施。 参加していない自治会には参加を呼び掛ける。	
	共通	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう** **【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・410地区民児協による「安心カード」の配付と緊急通報システムの利用促進。	・配布状況を確認し、カード更新及び配付を行った。 ・通報システム利用状況を確認。利用拡大の方法について検討を行った。	○	・カード更新及び配布。 ・緊急通報システム拡大の検討（加入数把握）。	
	○	**備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう**	⑧	防犯活動の実施	・地域の安全のため、防犯防災パトロールを実施する。（各自治会で定期的に防犯パトロールを行う。）	8自治会で毎日実施	○	・継続実施。	
	共通	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑪	オンライン活用による情報交流	・オンライン会議の普及・啓発。	―	―	・推進協、地区部会連絡会のハイブリッド開催。 ・有志によるZOOM体験の実施。	
	共通	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう** **【将来的な人材育成】**	⑬	福祉を学び実践する	・各地区部会エリアの連携（好事例等の情報交換）。	・支えあいのまち推進協議会において、他地区の事例紹介、意見交換を行った。	○	・推進協開催時の好事例等の紹介。 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目		令和５年度の目標	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標	今後の課題と方針
若松地区部会エリア 【人口・世帯数】 19,834人、9,669世帯 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 28.7% 【地域の特徴】 地区部会対象エリアがとても広く、住基人口（19,749人）、高齢者数（5,314人）、世帯数（8,859世帯）は区内エリアで二番目に多い。 若松台2・3丁目の高齢化率（44.5%）が非常に高い。	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	①	あいさつ運動やサロンを活用したふれあい、機会づくり	・町内自治会単位でのサロンへ開催への協力を行う。	・南部自治会でのサロン、地区部会主催サロンを実施した。また、ボッチャ大会を開催した。	○	・新規自治会実施。 ・地区部会主催ボッチャ大会の開催。	①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	②	健康や介護を通じた関係づくり	・あんしんケアセンターの講演を聞く。	・サロン開催時に実施した。	○	・サロン開催時に検討。 ・地区部会主催「ためになるお話と茶話会」開催	
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	③	公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	・ふれあい散歩クラブを立ち上げる。	・ふれあいいきいきサロンへの開催協力及主催サロンを実施したが、散歩クラブの立ち上げには至らなかった。	△	・立ち上げの検討。	
	共通	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・411地区民児協による「安心カード」の配付と緊急通報システムの利用促進。	・配布状況を確認し、カード更新及び配付を行った。 ・通報システム利用状況を確認。利用拡大の方法について検討を行った。	○	・カード更新及び配布。 ・緊急通報システム拡大の検討（加入数把握）。	
	共通	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑪	オンライン活用による情報交流	・オンライン会議の普及・啓発。	―	―	・推進協、地区部会連絡会のハイブリッド開催。 ・有志によるZOOM体験の実施。	
	○	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう 【将来的な人材育成】**	⑬	福祉を学び実践する	・若松高校と協力し、子育てサロンを開催することで、生徒たちと一緒に福祉などについて考える機会を持ってもらう。	・担当の先生が休暇中ということもあり、コロナ禍以降実施に至っていない。	×	・若松高校と交渉。 ・来年度に向けて高校との話し合いを開始したい。	
	共通	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう 【将来的な人材育成】**	⑬	福祉を学び実践する	・各地区部会エリアの連携（好事例等の情報交換）。	・支えあいのまち推進協議会において、他地区の事例紹介、意見交換を行った。	○	・推進協開催時の好事例等の紹介。 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目		令和５年度の目標	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標	今後の課題と方針
加曽利地区部会エリア 【人口・世帯数】 6,485人、3,269世帯 【町内自治会数】 8町内自治会 【高齢化率】 30.9% 【地域の特徴】 エリア内には小学校が設置されていなく、1町のみ（加曽利町）のエリアである。 古くから農業を営む世帯の地域、戸建住宅が多い地域、最近新たに作られた新興住宅地がある。	○	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう** **【地域での担い手発掘】**	⑤	活動の中核となれる人材の発掘	・「助け合いの会」の今後の担い手をどうするのか討議し、「手当て」を含め、現状を聞いてもらい持参していく。	・「たすけあいの会」の今後の活動について、常任会議、及び月二回の戦略会議において、検討を行った。 ・一本釣りではあったが、若い担い手を発掘できた。	○	・戦略会議による具体的な担い手確保の手法決定。	①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開
	共通	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう** **【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・411地区民児協による「安心カード」の配付と緊急通報システムの利用促進。	・配布状況を確認し。カード更新及び配付を行った。 ・通報システム利用状況を確認。利用拡大の方法について検討を行った。 ・多くの希望者に、安心カードを配付することができた。	○	・カード更新及び配布。 ・緊急通報システム拡大の検討（加入数把握）。	
	共通	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑪	オンライン活用による情報交流	・オンライン会議の普及・啓発。	―	―	・推進協、地区部会連絡会のハイブリッド開催。 ・有志によるZOOM体験の実施。	
	共通	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう** **【将来的な人材育成】**	⑬	福祉を学び実践する	・各地区部会エリアの連携（好事例等の情報交換）。	・支えあいのまち推進協議会において、他地区の事例紹介、意見交換を行った。	○	・推進協開催時の好事例等の紹介。 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目		令和５年度の目標	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標	今後の課題と方針
都賀地区部会エリア 【人口・世帯数】 13,478人、7,490世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 28.2% 【地域の特徴】 都賀駅、モノレール沿線を中心に、戸建住宅の多い地域と、賃貸住宅集合住宅が多い地域がある。 都賀の台1丁目から4丁目までの高齢化率の平均は約48.4%と、限界集落（50%：2人に1人が高齢者のまち）に近い状況まで高齢化が進んでいる。	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	①	あいさつ運動やサロンを活用したふれあい、機会づくり	・子育てサロン月例開催 ・4ヵ所で健康・喫茶サロン開催	・子育てサロン「ひなた」を年間12回開催した。 ・「健康づくりの会」、「たんぽぽの会」、「コミカフェささえ愛」、「わくわく体操」の4ヵ所での「いきいきサロン活動」は通年実施した。 ・「イコアス千城台」、「イオンモール幕張新都心店」開催の子育てサロンに出張参加した。	○	・子育てサロン月例開催 ・会場増設の可能性検討 ・運営課題の検討・充実	①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	②	健康や介護を通じた関係づくり	・健康体操月例実施(2ヵ所) ・フレイル対策の紙面啓発	・健康体操を2ヵ所で月例実施した。 ・フレイル対策について、ミニ福祉通信「みんな仲間」の紙面で啓発した。	○	・会場増設の検討 ・フレイル対策の紙面啓発 ・健康・介護の講演会開催	
	○	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・見守り対策の検討	都賀の台では、要支援希望者のご近所仲間による間接的な見守りの仕組みを設けてから約10年、さらに高齢化が進み内容の見直しが迫られている。	○	・一人暮らし見守りの検討 ・民生委員への協力・連携 ・安否活動の協力体制検討	
	共通	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・405地区民児協による「安心カード」の配付と緊急通報システムの利用促進。	・配布状況を確認し、カード更新及び配付を行った。 ・通報システム利用状況を確認。利用拡大の方法について検討を行った。	○	・カード更新及び配布。 ・緊急通報システム拡大の検討（加入数把握）。	
	○	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】**	⑦	活動団体同士の連携・交流	・自治会と民生委員の協力関係の理解共有 ・協力の在り方の具体化検討	・高齢者と直接向き合う民生委員と町会・自治会の協力の希薄化が進み、活動環境は悪化している。	△	・自治会と民生委員の協力関係の理解共有 ・協力の在り方の具体化検討	
	○	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑩	地域福祉に関する情報の発信	・「みんな仲間」を隔月発行	・あんしんケアセンター都賀と連携し、「都賀地区ミニ福祉通信“みんな仲間”」を隔月年6回発行し、各号とも9町会・自治会に配布（約300部）、回覧で啓発した。 ・広報紙「だんだんばたけ」第42号（400部）、第43号700部）を発行。それぞれ自治会経由で回覧とあわせ、第43号は希望により、掲載地区へ全戸配布した。 ・フェイスブック、インスタグラムにて「ひなたチャンネル」を毎月更新。てあそび、歌、折り紙製作のレクチャー動画を撮影、投稿し、情報発信を行った。	◎	・「みんな仲間」を隔月発行 ・有効な相談ネットの検討	
	共通	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑪	オンライン活用による情報交流	・オンライン会議の普及・啓発。	―	―	・推進協、地区部会連絡会のハイブリッド開催。 ・有志によるZOOM体験の実施。	
	○	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう 【将来的な人材育成】**	⑫	福祉のこころを育む活動の実施	・各種出前講座、研修会等の実施検討	・7/8（土）に保健福祉センター大会議室において、「手話講座」を開催。35名の参加があった。 ・都賀の台支えあいの会で出前講座を2回開催。また、機関紙を通して、各種福祉情報を毎月発信した。	○	・出前講座の3回実施 ・みんな仲間で福祉の心に関する啓発(2回)	
	共通	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう 【将来的な人材育成】**	⑬	福祉を学び実践する	・推進協開催時の好事例等の紹介 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等	・支えあいのまち推進協議会において、他地区の事例紹介、意見交換を行った。	○	・推進協開催時の好事例等の紹介。 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目		令和５年度の目標	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標	今後の課題と方針
結・みつわ台地区部会エリア 【人口・世帯数】 23,534人、11,490世帯 【町内自治会数】 43町内自治会 【高齢化率】 27.9% 【地域の特徴】 高齢化率が10%台の町丁（殿台町、東寺山町、みつわ台1丁目、源町、原町の一部）もいくつかあり、比較的高齢化率が低い。38の町内自治会数は区内最多（加えて5の管理組合）である。	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	①	あいさつ運動やサロンを活用したふれあい、機会づくり	・いきいきサロン、子育てサロンについて、開催日程の告知、内容の再考に努める。 ・ふれ合い散歩クラブの新規実施を目指す。	・「若葉の杜シニアの会」、「第5・第6みつわ台ハイツいきいきサロン」、「第4みつわ台ハイツ支えあいの会＜合いの手＞」の3サロンを通年で開催、年間計37回実施した。 ・子育てサロン「なかよしサロン」を定期開催。年会11回実施した。	○	・開催日程の告知、内容の再興に努める。	①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	②	健康や介護を通じた関係づくり	・「福祉のつどい」を年1回開催。地域の枠を超えてより広域で連携協力を検討する。	・2/11の建国記念日に「福祉のつどい」を予定していたが、ここ数年天候不順での開催について苦情があったため、今回も開催には至らなかった。	×	・地域の枠を超えてより広域で連携協力する検討。	
	○	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう** **【地域での担い手発掘】**	⑤	活動の中核となれる人材の発掘	・各団体と交流。 ・人材発掘に努める。	・「地域支え合い活動」を実施団体との交流会を実施。活動事例の聴取及び実施の検討を行う中で、人材発掘に努めた。	○	・各地域団体と交流。 ・人材発掘に努力する。	
	○	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう** **【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・各地域の活動事例聴取及び実施検討。	・「地域支え合い活動」を実施団体との交流会を実施。活動事例の聴取及び実施の検討を行った。	○	・活動検討。 ・情報交換会の実施。	
	共通	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう** **【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・404、412地区民児協による「安心カード」の配付と緊急通報システムの利用促進。	・配布状況を確認し、カード更新及び配付を行った。 ・通報システム利用状況を確認。利用拡大の方法について検討を行った。	○	・カード更新及び配布。 ・緊急通報システム拡大の検討（加入数把握）。	
	○	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう** **【地域での担い手発掘】**	⑦	活動団体同士の連携・交流	・関係団体との意見交換会。 ・開催の検討(実現性検討)。	・「地域支え合い活動」を実施団体との交流会を実施。活動事例の聴取及び実施の検討を行った。	○	・意見交換会実施。	
	共通	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑪	オンライン活用による情報交流	・オンライン会議の普及・啓発。	―	―	・推進協、地区部会連絡会のハイブリッド開催。 ・有志によるZOOM体験の実施。	
	共通	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう** **【将来的な人材育成】**	⑬	福祉を学び実践する	・各地区部会エリアの連携（好事例等の情報交換）。	・支えあいのまち推進協議会において、他地区の事例紹介、意見交換を行った。	○	・推進協開催時の好事例等の紹介。 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等。	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目		令和５年度の目標	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標	今後の課題と方針
千城小地区部会エリア 【人口・世帯数】 2,410人、1,293世帯 【町内自治会数】 9町内自治会 【高齢化率】 47.1% 【地域の特徴】 エリア内には1町（大宮町）しか含まれていなく、小学校は設置されているが、児童数は区内で最も少ない。 古くから農業を営む世帯の地域があり元気な高齢者が多く、また新たに作られた新興住宅地がある。	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	①	あいさつ運動やサロンを活用したふれあい、機会づくり	・地域ぐるみで声掛けや挨拶運動の奨励し、全自治会のうち3自治会で実施。 ・ふれあい・いきいきサロンを3会場で実施。	・地域ぐるみでの声かけや挨拶運動を3自治会で実施した。 ・「ハナワクラブいきいきサロン」、「大宮町親睦会サロン」、「長峰台いきいきサロン」の3つのサロンで、延べ32回実施した。	○	・地域ぐるみでの声掛けや挨拶運動を新規2自治会、計5自治会で実施する。 ・ふれあいいきいきサロンを新規1ヵ所、計4ヵ所で実施する。 ・未実施のふれあいいきいき散歩クラブについて、実施エリアを検討する。	①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	②	健康や介護を通じた関係づくり	・シニア体操（介護予防体操）クラブについて、既存の1ヵ所を継続実施。	・親睦会において、シニア体操（介護予防体操）を年間を通して実施した。	○	・未実施自治会等について、実施エリアの検討を行う。	
	○	**誰もが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう**	③	公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	―	―	―	・公園を利用し、グラウンドゴルフ1ヵ所を開設する。	
	共通	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】**	⑥	見守り活動・助けあい活動の仕組みづくり	・410地区民児協による「安心カード」の配付と緊急通報システムの利用促進。	・配布状況を確認し、カード更新及び配付を行った。 ・通報システム利用状況を確認。利用拡大の方法について検討を行った。	○	・カード更新及び配布。 ・緊急通報システム拡大の検討（加入数把握）。	
	○	**あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう 【地域での担い手発掘】**	⑦	活動団体同士の連携・交流	・各団体との意見交換会開催の検討。	―	―	・各団体との意見交換を実施する。	
	○	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑩	地域福祉に関する情報の発信	・地区部会だよりを年2回発行する。 ・次年度場開を検討する。	・地区部会だよりを年2回発行した。	○	・特集号1回の発行を目指し、充実を図る。	
	共通	**必要な情報が行き渡り、気軽に相談し合える仕組みをつくりましょう**	⑪	オンライン活用による情報交流	・オンライン会議の普及・啓発。	―	―	・推進協、地区部会連絡会のハイブリッド開催。 ・有志によるZOOM体験の実施。	
	共通	**世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう 【将来的な人材育成】**	⑬	福祉を学び実践する	・各地区部会エリアの連携（好事例等の情報交換）。	・支えあいのまち推進協議会において、他地区の事例紹介、意見交換を行った。	○	・推進協開催時の好事例等の紹介。 ・好事例の自地区での実現に向けた検討、活動調査、意見交換等。	

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）総括表

◆基本方針別取組状況

基本方針	取組項目数	取組項目の達成状況		主な取組内容
1 コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加	11	◎		学校行事に地域住民が協力。子ども対象の地域行事により交流の場を提供した。 高齢者が集う場として「いきいきサロン」を開催した。 障害者に関する学習会の開催。障害者施設の行事にボランティアとして参加した。 子育て中の親や子どもが集う場として「子育てサロン」を開催した。 住民参加の地域行事開催に協力した。
		○		
		△		
		×		
		－	11	
2 緊急時の支援と対応（災害、防犯と防災、感染症）	3	◎		町内自治会、避難所運営委員会が中心となり、防災訓練や避難所開設訓練を実施した。 また、防災備蓄品の確認や住民への普及啓発活動を実施した。
		○		
		△		
		×		
		－	3	
3 身近な生活支援と連携（健康、見守り、介護・ボランティア）	6	◎		町内自治会や民生委員児童委員協議会が協力して見守り活動を実施した。 住民参加のスポーツ行事の開催に協力した。 「いきいきサロン」等で健康に関する講演や健康体操等を実施した。 あんしんケアセンターの地域ケア会議等、地域団体が参加する会議で、地域の問題点、情報共有及び意見交換を行った。
		○		
		△		
		×		
		－	6	
今年度の振り返り	20	◎	0	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受けての活動であったが、引き続き流行状況に気を付けながらの活動であった。 このため実施に至らない活動はあったものの、各団体ともに計画を念頭におきながら活動に取り組むことができた。
		○	0	
		△	0	
		×	0	
			0	

今後の課題と方針	・高齢化に伴い若い世代の担い手確保及び育成について検討する必要がある。 ・活動を継続的に実施していくために、ともに活動していく協力者を増やしていく必要がある。 ・新型コロナウイルス等の感染症予防に配慮しながら、新しい生活様式に合った地域での活動を推進していく。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第1回	６月１７日（土）	・第５期計画「具体的な取組み」原案の検討について ・重点取組地区の検討について
第2回	８月３０日（水）	・第５期計画「具体的な取組み」原案の承認について（全体ワーク） ・令和4年度取組状況及び令和5年度計画の情報共有について（グループワーク）
第3回	３月１６日（土）	・第５期計画「具体的な取組み」の確定について ・広報誌「みどりのきずな第４１号」の承認について

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
第40号	4月19日	発行部数：3,241部 主な配布先：窓口配布30部、町内自治会、区内小・中学校、公民館等

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

「健康体操の会」（椎名地区部会）

小規模多機能型居宅介護施設から「地域と連携した取り組みをしたい」との申し出があり、地区部会と施設で協議した結果、高齢者を対象にした健康体操の会を新たに実施することになった。
椎名地区の拠点は椎名公民館であるが、町内自治会の協力を得て、高齢者が徒歩で通える町内自治会館を会場とすることとし、椎名地区内の町内自治会館を順番に回って開催することになった。

実施の案内は町内自治会の回覧を通じて行い、当日の会場設営等に町内自治会役員の協力を得て実施している。
毎回施設の理学療法士が参加し、健康体操の指導や、参加者の健康に関する相談を受けている。

令和5年度実施回数　6回

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
誉田エリア 【人口・世帯数】 24,869人、　11,293世帯 【町内自治会数】 26町内自治会 【高齢化率】 26.0% 【地域の特徴】 産業用地の開発に伴い住宅地の開発が進行。農村地域が広く田畑に囲まれた集落が点在。	1　コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加）	3　高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	【誉田地区町内自治会連絡協議会】 誉田１丁目中心に高齢者の集い、腹話術等開催	【誉田地区町内自治会連絡協議会】 誉田一丁目 そば打ちや腹話術を２か月に一度実施 平川町 宝善寺でいきいきサロン 誉田二丁目 いきいきサロン盆踊り 誉田三丁目 敬老会と一日バス旅行等	―	【誉田地区町内自治会連絡協議会】 誉田一丁目 そば打ち 腹話術は芸能人を呼び会館で実施 誉田二丁目 祭り、いきいきサロン増設、高齢者カフェ 誉田三丁目 敬老会以外に焼き肉（バーベキュー）等	【誉田地区町内自治会連絡協議会】 役員の高齢化（但し高田ニュータウンが６４０世帯が加入）して次の担い手の育成が急務 誉田町内自治会連絡協議会正副会長会議に各団体に声掛けして協力要請の説明に来てもらい新しい事に取り組む。 大きな町内会は行事やサロン増設が出来るが小さな町内会は集合住宅は難しい。昔は餅つきやそば打ちもやっていた。どう復活できるか。
			【５０６地区民生委員児童委員協議会】 ふれあいカフェの開催 コロナの感染状況を考慮し対策を講じつつ、運営スタッフと協力しながら実施する。	【５０６地区民生委員児童委員協議会】 ５月以降毎月開催（年１１回） 誉田団地自治会館　参加者：１２人		【５０６地区民生委員児童委員協議会】 ４月以降毎月開催（年１２回） 誉田自治会館	
			【５０７地区民生委員児童委員協議会】 施設での食事会開催の協力 ・「わくわく食事会」と「ふれあい食事サービス」に代わる場の開設を検討したい いきいきサロンへの協力 ・新規サロンの開設を検討する。 ・長寿会行事の一部をいきいきサロンに合流させ、長寿会の活性化を図る。	【５０７地区民生委員児童委員協議会】 ・「わくわく食事会」と「ふれあい食事サービス」に代わる場の開設は進められなかった。 ・いきいきサロンは7地区で参加登録者数113名、ボランティア登録者数24名で、昨年度は延べ78回開催され、延べ参加者781名、延べボランティア227名		【５０７地区民生委員児童委員協議会】 ・ふれあい食事サービス事業がなくなり、代わりの「わくわく食事会」開設を検討する。 ・いきいきサロンの新規開設を検討する。 ・長寿会メンバーの高齢化で世話役が減少し、サロンが受け皿となって長寿会の活性化を図る。	【５０７地区民生委員児童委員協議会】 新型コロナ感染症には注意をしながら、長寿会メンバーの受け皿として、また高齢者の出掛ける機会を創出するため、いきいきサロンへの参加者を募っていく。
		４　障害者（児）・その家族が集う場の開設・拡充・情報提供	【誉田地区部会】 現在、地区部会で行っている障がい者施設への慰問訪問、施設行事への参加等の中で、障がい者（児）・その家族の状況を把握し、必要としている情報や関係機関を紹介する。 また、障がい者（児）を介護する家族が交流できる場や地域住民と交流する機会を設け、その家族を支援する体制づくりに努める。 ・障がい者、障がい者施設等に関する講座、学習会の開催 ・障がい者施設の見学、慰問の実施 ・障がい者施設の行事手伝い及び参加 ・障がい者施設への慰問品の贈呈	【誉田地区部会】 6/17打合せ（12名参加） 年度事業計画の討議、確認 7/15打合せ（10名参加） 障がい者施設の行事のお手伝い及び参加については、各施設よりコロナ感染状況から規模縮小実施のため、今年度は行わないこととした。 11/4ボランティア委員会開催の講座「シニアサインの講義と実技」に参加 （参加者31名のうち障がい者福祉委員会より9名参加） 12/1障がい者施設の見学、慰問の実施 2施設へ参加者11名 各施設の責任者より説明を受けたのち、施設内での作業、活動状況を見学する。 2/1障がい者施設への慰問品贈呈を実施 3施設へ参加者14名を2グループに分けて各施設を訪問した。	―	【誉田地区部会】 ・障がい者、障がい者施設等に関する講座、学習会の開催 ・障がい者施設の見学、慰問の実施 ・障がい者施設の行事手伝い及び参加 ・障がい者施設への慰問品の贈呈	【誉田地区部会】 障がい者（児）が「集う場の開設」については、緑区地域福祉計画に沿った計画であり、今後の課題とする。
			【誉田地区町内自治会連絡協議会】 障害者施設への協力と慰問、家庭の継り 施設だけではなく家庭にいる子達との関係、どうしたら街に出てこれるか、民生委員の協力を得る。	【誉田地区町内自治会連絡協議会】 いきいきサロンの増設、高田町会館の開放		【誉田地区町内自治会連絡協議会】 高田町会館の開放でカラオケ、高田分桜祭り	【誉田地区町内自治会連絡協議会】 若人をどう取り込み共に考えて行けるのか。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
平山エリア 【人口・世帯数】 7,645人、　　3,556世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 25.0% 【地域の特徴】 古くからの里山が広がる地域。近年では大網街道沿いで住宅地の開発が進む。	1　コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加）	3　高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	【平山地区部会】 ・いきいきサロン 鎌取団地（週１回） 平山第一自治会（週１回） （町内自治会のシニアクラブと連携して実施）	【平山地区部会】 ・いきいきサロン 鎌取団地サロン(週 1 回) 鎌取スポーツサロン(週 1 回)	―	【平山地区部会】 ・いきいきサロン 鎌取団地サロン(週 1 回) 鎌取スポーツサロン(週 1 回) 平山第一自治会(週 1 回) (R7年度に2サロン追加予定)	【平山地区部会】 ・他の町内・自治会も実施出来ないか検討 ・サロンの宣伝方法の検討
			【５０１地区民生委員児童委員協議会】 高齢者福祉委員会は、「ふれあいいきいきサロン」をけやき園・緑苑の施設長も加わった11名で保健福祉センターで実施する。	【５０１地区民生委員児童委員協議会】 高齢者福祉委員会は、後期に会議やいきいきサロンでeスポーツをした。		【５０１地区民生委員児童委員協議会】 高齢者福祉委員会は、「ふれあいいきいきサロン」をけやき園・緑苑の施設長も加わった11名で保健福祉センターで実施し活動する。	【５０１地区民生委員児童委員協議会】 平山地区部会は、令和4年度からの発足であり、地域に合う計画を立てるための各専門部会は、模索しながら活動を始めている。
		５　子育て中の親や子どもが集う場の開設・拡充	【平山地区部会】 ・子育てサロン 保健福祉センター（月１回）	【平山地区部会】 ・子育てサロン 保健福祉センターで(月 1 回)実施	―	【平山地区部会】 ・子育てサロン 保健福祉センター(月 1 回)	【平山地区部会】 ・継続した人員の確保
			【５０１地区民生委員児童委員協議会】 平山地区部会と協働で子育てサロンを運営 ・主任児童委員が中心で民生委員・児童委員OGと地域協力員で実施し、子育てに関するアドバイスを行う。 ・子育てサロンへの協力を行う。 （年10回　4月～7月、9月～2月）	【５０１地区民生委員児童委員協議会】 ・主任児童委員が中心で民生委員・児童委員OGと地域協力員で実施し、子育てに関するアドバイスを行った。 ・子育てサロンへの協力を行った。 （年10回4月～7月、9月～2月） ・平山地区部会と協働で子育てサロンの運営を行った。		【５０１地区民生委員児童委員協議会】 平山地区部会と協働で子育てサロンを運営 ・主任児童委員が中心で民生委員・児童委員OGと地域協力員で実施し、子育てに関するアドバイスを行う。 ・子育てサロンへの協力を行う。 （年10回4月～7月、9月～2月）	【５０１地区民生委員児童委員協議会】 ・子育てサロンへの協力 ・新興住宅地が増え、参加者が広範囲から来るようになった。 ・乳児が増えたことによって母親や父親同士の情報交換が出来ようになったのでさらに交流を深めるように活動していきたい。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
土気エリア 【人口・世帯数】 43,953人、　19,873世帯 【町内自治会数】 46町内自治会 【高齢化率】 31.2% 【地域の特徴】 緑豊かな地域、あすみが丘・地域開発の住宅地、工業団地や農村地域が広がる。都市公園が整備。	**２　緊急時の支援と対応（災害、防犯と防災、感染症）**	12　防災訓練の充実、意識啓発、体制整備	【土気地区部会】 ・各地区の自主防災組織による諸活動への協力と地区部会に期待される取組みについての検討に努める。 ・推進員、支援員、さらには活動会員の災害時に備えた意識啓発に努める。 ・災害発生時の状況把握、特に高齢な活動会員の速やかな把握のための連絡体制づくりに努める。	【土気地区部会】 ・１地区の自主防災組織から要請されているが他からはなく地区部会の取組みとして検討するには至っていない。 ・市防災対策課の出前講座で「災害への備え」について研修、受講者45名、未受講者には資料による自己研修を勧める。 ・話題にする程度で検討するまでには至っていない。	―	【土気地区部会】 ・各自主防災組織は災害発生時の対応に力点が置かれがちである。地区部会としては発生前の対応から検討することとする。（転倒防止、備蓄品保存等） ・出前講座の未受講支援員が準備や心構えについて理解を図るよう機会ある度に確認するとともに会員の意識啓発にも取り組む。 ・各サロンやクラブ単位で担当者が中心になり活動会員の状況把握に努める体制づくりをする。	【土気地区部会】 ・自主防災組織からの要請を待つ一方、出前講座を足掛かりにして地区部会として取組み可能な対応について検討する。 ・高齢会員は、意識が高まっても行動化できない方もいる。転倒防止等は必要によっては「助け合い活動」に位置づけていく。 ・日頃の各種活動における出欠席の状況把握を災害時の対応の素地づくりとする。
			【土気地区町内自治会連絡協議会】 （土気団地自治会） ・防災訓練の充実 地域における自主防災組織活動の充実を図るとともに、災害時の避難場所、避難所の確認や複数避難経路設定の周知徹底に努めます。 （土気町内会） ・防災訓練の充実、意識啓発集会所の地域避難場所申請、防災学習の実施、防災備品の充実、近隣自治会と共同で防災訓練の実施 （高津戸町内会・梅ヶ丘自治会） ・自治会防災から、各家庭に家庭用消火器を配付し啓蒙に努めた。今年度は１０月に団地全体の防災訓練を行う予定 （紅葉ヶ丘団地自治会） ・家庭における意識啓発家庭において、日頃から避難場所の確認や防災用品の準備等を行うよう意識啓発に努めます。 （土気町内会） ・防災訓練の充実、意識啓発、体制整備 大椎中学校避難所運営委員会では、あすみが丘８丁目自主防災会と協働して、避難所開設・運営訓練及び防災訓練を行う。 また、防災普及車を用いた地震体験や煙体験訓練、救命救急訓練（AEDの取り扱い）通報訓練等、外部団体からの支援を受けて訓練の充実を図る。	【土気地区町内自治会連絡協議会】 （土気団地自治会） ・８月九都県市合同防災訓練に参加、自治会長・防災担当役員 ・９月避難行動要支援者リスト作成、支え合いカード作成 ・１０月防災リーダー研修会参加　１名 ・１１月災害時支援協力者名簿作成 ・３月集会所倉庫の防災備品確認 （土気町内会） ・防災訓練の充実 ・地域における自主防災組織活動の充実を図るとともに、災害時の避難場所、避難所の確認や複数避難経路設定の周知徹底に努めます。 （高津戸町内会・梅ヶ丘自治会） ・防災訓練の充実、意識啓発 集会所の地域避難場所申請、防災学習の実施、防災備品の充実、近隣自治会と共同で防災訓練の実施。 （紅葉ヶ丘団地自治会） １０月中峠集会所において、緑消防署土気出張所の職員からの指導の下、防火防災訓練を実施した。訓練内容（防災ビデオの鑑賞、折り畳み担架の取り扱い要領）２０名参加 ・自治会防災から、各家庭に家庭用消火器を配付し啓蒙に努めた。		【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・支援希望者リスト・支え合いカード・協力者リストの更新 ・避難訓練の団地内実施の検討 ・１０月中峠集会所において、緑消防署土気出張所の職員からの指導の下、防火防災訓練を実施予定（消火器の取り扱い要領）	【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・コロナ後の団地内避難訓練行うかの検討 ・地域避難所として申請すべきかの意見交換 ・自治会員の高齢化が進んでおり、訓練中の怪我や事故を回避する必要があることから、防火防災訓練等の訓練内容も十分な配慮が必要。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
	２　緊急時の支援と対応（災害、防犯と防災、感染症）	12　防災訓練の充実、意識啓発、体制整備	【５０９地区民生委員児童委員協議会】 　避難行動要支援者へのサポーター作り（新規） ・委員への説明と理解を受け、具体的に単位民児協内での検討 ・可能であれば、防災対策課他とサポーター決定時期目標などの情報提供受け ・民生委員自身の意識高揚 ・住民への啓蒙活動	【５０９地区民生委員児童委員協議会】 掲載されている対象者数が５００名と非常に多く、優先すべき対象者の絞り込みを行うことが必要と 判断した。	―	【５０９地区民生委員児童委員協議会】 ・防災対策課の優先対象者として介護度の非常に高い住民となっていることから、Ｒ６年度の高齢者実態調査時に介護認定受けの高齢者の認定介護度を確認することとし、下記の防災対策課の計画に該当しない対象者を検討対象とする。 ・町内自治会が抱える悩みなどの把握。	【５０９地区民生委員児童委員協議会】 ・行政機関、町内自治会との打ち合わせを通じ、有効活用できるようにしていくこと。 ・避難所運営委員として活動する委員が名簿を有効活用できるようにすること。 ・関係機関の意見の聴取と見直し
			【５１０地区民生委員児童委員協議会】 災害時の対応	【５１０地区民生委員児童委員協議会】 民生委員・児童委員に対して、防災意識の向上のために防災用品の提供を行った。 また、ハザードマップを再配布し、災害時の避難場所の再確認を実施した。		【５１０地区民生委員児童委員協議会】 ・独居高齢者に対して、災害時の非常食として配布を図りたい。 ・高齢者世帯に対して、ハザードマップを配布していきたい。	【５１０地区民生委員児童委員協議会】 ・災害時用非常食を独居高齢者に提供が可能か検討を要する。 ・独居高齢者が一人で避難場所まで行けるか不明である。
	３身近な生活支援と連携（健康、見守り、介護、ボランティア）	16　見守り活動の推進	【土気地区部会】 ・助け合い活動と関連する活動として位置づけて一人暮らしで孤立気味の高齢者を定期的な調査結果などを足掛かりに把握する。 ・閉じこもり→老化→要支援→要介護の流れの断ち切りと改善の必要性について理解を図る。 ・困り事を気軽に打ち明けられる土壌づくりこそ基礎になるという認識で、普段の交流の拡充と既存の活動の紹介に努める。	【土気地区部会】 ・3自治会の活動に支援役として参加、運営補助金でも支援する。 ・大椎台―対象者2名、協力者15名、1名を2,3人で担当し、外部からの観察を中心に毎日実施 ・大木戸台―対象者10名、協力者5名、ゴミ出しも手伝い毎週2回実施 ・あすみ第一――対象者8名、協力者17名5ブロックに分けて月1、2回実施	―	【土気地区部会】 ・3地区の支援事業として取り組む一方、他地域でも発案者や協力者が出るよう働き掛ける。 ・既存の防犯パトロールなども足掛かりに、見守りパトロールや見守り活動へと進展できないか働き掛ける。 ・アンケート調査による希望者の割り出しが期待されるが、対象者の複雑な思いを考慮して直接的な実益も感じられる活動にする。 ・見守りとゴミ出しは，孤立の防止や困り事の手助けになるのでセット化を奨励する。	【土気地区部会】 ・地域の歩みや高齢化率に違いがあるので見守り活動の必要度の高い地域の割り出しに努める。 ・見守りだけでは希望者が減少しがちな地区には、軽度の困り事にも対応して孤立の防止に加えて安心づくりや交流づくりにも努める。 ・新たな活動を組織する負担感を薄めるために既存の活動を活用する是非について検討する。 ・推進員在住地区の独居高齢者の生活状況を民生委員の調査などを参考に把握する。
			【５０９地区民生委員児童委員協議会】 地区の見守り活動団体との連携 　地域で行われている見守り活動団体と連携し、地域での見守り活動への協力を行う。	【５０９地区民生委員児童委員協議会】 ・あすみが丘第一自治会の「見守り隊活動会議」に担当民生委員が会議に参加し、情報提供やアドバイス等を行う一方、見守り対象者登録を行っていない「気になる高齢者」への対象者登録の呼び掛けを行っている。（会議参加者は、約１０名）		【５０９地区民生委員児童委員協議会】 ・後期高齢者化の進展が著しい地区でもあり、見守り対象者への新規登録の勧誘活動を継続して実施していく。 ・核家族化が進む中、遠隔地に居住する独居者かぞくへの対応方法のアドバイス強化	【５０９地区民生委員児童委員協議会】 ・自治会の正式認定を受けていない為、見守り隊への理解が低く、隊員の士気維持の手助けを検討したい。 ・遠隔地に住む家族の地元への過度な依頼心への対応方法の検討が必要である。
			【５１０地区民生委員児童委員協議会】 独居高齢者への見守り	【５１０地区民生委員児童委員協議会】 高齢者実態調査時に、高齢者に対して安心カードの配布を行う。		【５１０地区民生委員児童委員協議会】 高齢の独居者のみでなく、希望する高齢者に対しても安心カードの配布を行いたい。	【５１０地区民生委員児童委員協議会】 ６５歳以上の高齢者が安心カードを常時携帯する方向に向けて、十分な説明をする必要がある。
			【土気地区町内自治会連絡協議会】 一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、体に障害のあるかたなどの見守りを希望する人に対して、地域住民による訪問・声掛け等を行います。 ・社会的孤立を防ぐため、挨拶運動など、住民同 士が日常生活のなかで無理なく行える見守り活動を実施します。 ・一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、体に障害のあるかたなどの見守りを希望する人に対して、地域住民による訪問・声掛け等を行います。 ・社会的孤立を防ぐため、挨拶運動など、住民同士が日常生活のなかで無理なく行える見守り活動を実施します。	【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・全住民で両隣の見守りを行うのが原則 （おおかぶ会（会員200名）互助活動組織と協力） ・学童の登下校時の交差点で見守り ・自治会各般で高齢者や１人住まいの方に声掛け、訪問するようにしている。 ・千葉市高齢者緊急通報システム・千葉市安心電話事業案内の利用を促す。 ・１５名ほどの見守り支援が必要。回覧は手渡しを基本に実施している。 ・何代も続いている向こう３軒両隣精神が薄らいできている。一人暮らしの見守りを組長、班長等にて実施している。（土気町内会） ・挨拶運動など、住民同士が日常生活の中で無理なく行える活動を実施し、高齢者や子供たちの見守り活動を行う。　（美空台自治会） ・一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、体に障害のある方などの見守りをする希望する方に声掛けを行います。　（土気町内会）		【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・令和６年度の新規募集を図るも、参入者なく、今年度も引き続き、見守り対象者：８名、見守り協力員：１７名で、令和５年度と同様の活動を展開する。 ・一人住まいの方への見守りパトロール「外部からの見守り」の実施。独自リスト３７名 （あすみが丘第一自治会） ・民生児童委員と協力し、子どもの見守り、高齢者への定期的な声掛け訪問などの仕組み作りの検討 ・継続して、８丁目いきいきサロンを開催しコミュニケーションを図る。 （あすみが丘８丁目町内会） ・納涼会や集会所清掃（１回/月）一斉清掃のイベントを行い住民同士の関係を深め、困りごとを気軽に打ち明けられる土壌づくりをする。 （土気住宅自治会）	【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・自治会と民生児童委員との連携強化

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
		16　見守り活動の推進		・自治会エリアを５ブロックに分け、１組３名から６名の５つの班を編成し、ブロックごとに担当班を決め、見守り活動を行っている。 ・併せて、独自リストに基づく一人住まいの方の外からの見守りパトロール実施 ・活動は１回１時間程度を２回「対面による」安否確認と「外部からの見守り」双方を申込者の希望に応じて行っている。 ・協力員は名札、腕章、帽子、制服等の活動グッズを着用し活動 ・令和５年度、見守り対象者：８名　見守り協力員：１７名　（あすみが丘第一自治会） ・一人暮らし高齢者世帯への声掛け、地域内の定期的な見回りを行う。（梅ヶ丘自治会） ・民生委員からの情報収集 一人住まい高齢者の毎日の声掛け見守り体制確立 （高津戸町内会） ・セーフティウオッチャー 子供の通学見守り活動　土気小より委託の２名が活動 ・災害時支援希望者リストを作成し、団地内各班長が状況を共有し、災害時の声掛け、訪問をする体制づくり　（土気団地自治会） ・一人暮らしの高齢者等には、月２～３回の回覧を廻すときには、ポストに投函するのではなく直接手渡しを心がける。 ・町内会館にて８丁目いきいきサロンを開催（１２回） ・社会福祉協議会、ボランティアを含め、茶和会、クイズ、体操、歌などを実施コミニュケーションを図った。（あすみが丘８丁目町内会）	―		
		17　健康づくり支援	【土気地区部会】 ・公的機関や専門家による地域住民への直接的指導、推進員と支援者の専門性を補う研修を通して確かな取組みができるようにする。 ・活動会員だけでなく、すべての住民が参加できる事業により交流の場を拡大するとともに、心と身体の健康づくりができるようにする。	【土気地区部会】 ・各サロンで保健福祉Cによる指導を 年1回、あんしんケアCによる指導を2年に1回受ける。リハビリ専門職による指導は希望調査により実施する。 ・健康講演会－保健福祉C推奨講師、全住民対象だが講師の都合により中止 ・ボランティア研修会－保健福祉C推奨講師の指導は中止 ・昭和の森ウォークラリー－連協、スポーツ振興会との共催で全住民対象、11/23に5年振りに実施	―	【土気地区部会】 ・各サロンでの保健福祉CとあんしんケアC及びリハビリ専門職による指導で専門性を高め、各種活動に活かす。 ・健康講演会―保健福祉C推奨講師による全住民を対象とした指導を受ける。 ・ボランティア研修会―健康づくりのための実技を支援員が研修し、その成果を各種活動の中に取り込んでいくようにする。 ・昭和の森ウォークラリー－子供から大人200人の参加を想定し、多彩な活動と交流により絆づくりに努める。	【土気地区部会】 ・各サロンで受けた指導による取組み状況を情報交換して活動の質的改善を図り、一層の意欲化と効率化に努める。 ・活動の自粛に伴い表面化したフレイルには複数の側面がある。それこそ心と身体の健康づくりのために生活習慣の改善や、本会だけでなく他団体の活動への積極的な参加を勧める。
			【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・健康を保持する活動を保険福祉センター、あんしんケアセンター及び地域の医療機関等の協力を得て、地域の集会やイベントの機会を利用して実施します。 ・ラジオ体操、シニアリーダー体操、健康ウオーキング等へ積極的に参加する仕組みつくりを推進し実施します。	【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・平成２６年９月発足　第一公園で毎朝６時３０分からラジオに合わせて実施。毎回２０名前後が参加 （土気団地自治会の他　山の谷・楓台・梅ヶ丘合計３０名） ・大勢の人と関わることを嫌う住民がいる。本人がやりたいこと、希望を聴取し、本人に合った健康づくりを提案する。（高津戸自治会）			

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
	３身近な生活支援と連携（健康、見守り、介護、ボランティア）	18　地域の課題解決に向けた連携	【土気地区町内自治会連絡協議会】 地域の関係諸団体・機関が連携し、課題解決に向けて話し合う場として、地域ケア会議等を開催します。	【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・会員の敷地内の植栽管理（枝の剪定）や雑草管理について支援可能な町内会員と受けたい会員が話し合い、協働で作業を実施する仕組みをつくる。　（土気本町１組町内会）	―		
			【５０４・５０５・５０９・５１０地区民生委員児童委員協議会】 　地域ケア会議への参加 　地域ケア会議（見守りネットワーク土気会議）に参加し、地域の課題解決に向けた連携を行う。	【５０４・５０５・５０９・５１０地区民生委員児童委員協議会】 ・コロナウィルス拡大下では、時々、休会もあったが、積極的に意見交換やアドバイスを述べた。 ・地域内の問題点・状況の共有		【５０４・５０５・５０９・５１０地区民生委員児童委員協議会】 ・月１回の「見守りネットワーク会議」に参加し、地域の関係機関と連携し情報共有 ・非常に有意義な会議であり、継続参画していく。	【５０４・５０５・５０９・５１０地区民生委員児童委員協議会】 ・今後も継続参加し、地域のために情報交換し共有し合いながら福祉関係の点で力を注ぎたい ・地域の足の問題等の声に応えるためにも利用の推進と啓蒙を継続していく ・高齢者が元気と健康で生活できる社会参加にこれからも力を注ぎたい

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
おゆみ野エリア 【人口・世帯数】 48,215人、　20,101世帯 【町内自治会数】 63町内自治会 【高齢化率】 16.4% 【地域の特徴】 鎌取駅を中心に商業地区と戸建て中心とした閑静な住宅地域。緑区行政の中心地。	1　コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加）	２　子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流	【おゆみ野地区部会】 住民全体で「子どもは地域で育てる」という意識をもち、子どもたちの集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流等、青少年育成委員会やボランティア団体等と連携しながら推進していく。 1)子育てサロンの実施：年10回予定 開催時間：午前10時～ ・鎌取コミュニティセンター R5.5.16、9.19、R6.1.16 ・おゆみ野公民館 R5.7.20、11.16、R6.2.15 ・緑保健福祉センター R5.6.21、10.16、12.13、R6.3.13 2)講演会・講習会・研修会の企画、参加 年1回程度、時期未定 3)緑保健福祉センター及び地域の子育て関連団体への支援協力と連携 4)その他情報交換等の委員会開催	【おゆみ野地区部会】 1)子育てサロンの実施：計10回 ・R5.5.16親子の交流　12名 ・R5.6.21親子あそび　25名 （保育士:小田先生の指導による→以下同様） ・R5.7.20親子の交流（会場都合で中止） ・R5.9.19親子の交流　31名 （聾学校より生徒12名、先生3名、保健師2名参加） ・R5.10.16親子あそび　35名 ・R5.11.16親子の交流、他34名 ・R5.12.13親子あそび　28名 ・R6.1.16親子の交流　30名 ・R6.2.15親子の交流、他11名 （ヘルスメイトによる離乳食メニュー紹介、試食、おみやげ付） ・R6.3.13親子あそび36名 （開催場所：おゆみ野公民館、鎌取コミュニティセンター、緑保健福祉センター） 2)研修会の実施 ・R5.8.24「支援をする側～自分自身の心の整え方や労り方について」 場所：鎌取コミュニティセンター 講師：公認・臨床心理士花澤先生 3)おゆみ野四季の道駅伝大会への協力 地区小学校（おゆみ野南・小谷）「一年生と昔遊び」への協力 4)その他情報交換等の委員会を開催	―	【おゆみ野地区部会】 1)子育てサロンの実施：年10回予定 開催時間：午前10時～ ・鎌取コミュニティセンター R6.5.21、9.17、R7.1.21 ・おゆみ野公民館 R6.7.18、11.21、R7.2.20 ・緑保健福祉センター R6.6.12、10.23、12.18、R7.3.19 2)講演会・講習会・研修会の企画、参加 年1回程度、時期未定 3)緑保健福祉センター及び地域の子育て関連団体への支援協力と連携 4)その他情報交換等の委員会の開催	【おゆみ野地区部会】 共に活動する委員や協力者を増やす。
			【５０２地区民生委員児童委員協議会】 ○地域、学校行事への協力 ・担当小中学校校門前で毎月1週間、朝のあいさつ運動の実施 ・担当小中学校校長との懇談会及び交流会において学校内の様子を把握することに努める。（7月、9月） ・担当小中学校での「花いっぱい運動」における花植え活動の実施（11月） ・おゆみ野地区小学校への昔あそびの伝授（11～1月） ・おゆみ野四季の道駅伝大会への協力（R6年2月） ○青少年育成委員会・地域運営委員会等の諸行事や会議にも協力・参加する。 ・遊歩道足跡ペイント再塗装への協力（6月） ・おゆみ野探検ウォークラリーへの協力（10月）	【５０２地区民生委員児童委員協議会】 ○地域・学校行事への協力 ・朝のあいさつ運動　毎月1週間実施 ・小中学校校長との懇話会（7/11）および各校との交流会（泉谷中：9/1、泉谷小：9/15、小谷小：9/25）を実施 ・児童・生徒と一緒に花植えを行った。（泉谷小：12/5、泉谷中：12/12、小谷小：12/18） ・昔あそびの伝授 （泉谷小：1/25、小谷小：2/2） ・おゆみ野四季の道駅伝大会への協力（2/18） ○青少年育成委員会・地域運営委員会等への協力 ・遊歩道足跡ペイント再塗装への協力（6/18） ・おゆみ野探検ウォークラリーへの協力（10/14）		【５０２地区民生委員児童委員協議会】 ○地域、学校行事への協力 ・担当小中学校校門前で毎月1週間、朝のあいさつ運動の実施 ・担当小中学校校長との懇話会及び交流会において学校内の様子を把握することに努める。（6月） ・担当小中学校での「花いっぱい運動」における花植え活動の実施（11月） ・おゆみ野地区小学校への昔あそびの伝授（11～1月） ・おゆみ野四季の道駅伝大会への協力（2月） ○青少年育成委員会等の諸行事や会議にも協力・参加する。 ・遊歩道足跡ペイント再塗装への協力（6月） ・おゆみ野探検ウォークラリーへの協力（10月）	【５０２地区民生委員児童委員協議会】 ・積極的な地域の福祉活動を行うための地域部会活動への協力体制、地域・学校行事への協力体制を、より確立していくこと。 ・新型コロナウィルスも令和５年５月に５類に移行したが、引き続き感染予防に配慮しながら、新しい生活様式に合った地域での活動を進めて行く。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
	1　コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加）	２　子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流	【５０８地区民生委員児童委員協議会】 １．あいさつ運動の実施 有吉中学校の正門・裏門にて、５～３月まで実施。毎月５日間実施。 延べ５０日　約５００人参加予定 ２．花植えの実施 ５～６月、１１月に有吉中、有吉小、扇田小 で実施。延べ約５０人が参加予定 ３．扇田小ビオトープへの協力 地域の人達と協力し、ビオトープの管理を行う。	【５０８地区民生委員児童委員協議会】 １．あいさつ運動は、有吉中学校において、５～３月にかけ行った。 延べ５０日　参加約５００人 ２．花植えは、小・中学校の生徒と行い、５～６月は２２人、１１月は２５人。	―	【５０８地区民生委員児童委員協議会】 １．あいさつ運動の実施 有吉中学校の正門・裏門にて、５～３月まで実施。毎月５日間実施。 延べ５０日、約５００人参加予定 ２．花植えの実施 ５～６月、１１月に有吉中、有吉小、扇田小で実施。延べ約５０人が参加予定 ３．扇田小ビオトープへの協力 地域の人達と協力し、ビオトープの管理を行う。	【５０８地区民生委員児童委員協議会】 コロナウィルスも５類になり、活動も徐々に正常に戻りつつあり、活動に対して委員全員が積極的に参加する。
		５　子育て中の親や子どもが集う場の開設・拡充	【おゆみ野地区部会】 発育、発達、しつけなど子育てへの不安や悩みなどを抱える親に対して、保健福祉センター等と協力し、相談会、講習会などを開催するよう努める。子育て中の親や子どもが集い、仲間づくりができる場（ふれあい・子育てサロン等）を拡充する。	【おゆみ野地区部会】 子育てサロンの実施：計10回 ・R5.5.16親子の交流12名 ・R5.6.21親子あそび（保育士:小田先生の指導による→以下同様）25名 ・R5.7.20親子の交流（会場都合で中止） ・R5.9.19親子の交流31名（聖学校より生徒12名、先生3名、保健師2名参加） ・R5.10.16親子あそび　35名 ・R5.11.16親子の交流、他34名 ・R5.12.13親子あそび　28名 ・R6.1.16親子の交流　30名 ・R6.2.15親子の交流、他11名（ヘルスメイトによる離乳食メニュー紹介、試食、おみやげ付） ・R6.3.13親子あそび　36名 （開催場所：おゆみ野公民館、鎌取コミュニティセンター、緑保健福祉センター） 研修会の実施 ・R5.8.24「支援をする側～自分自身の心の整え方や労り方について」 場所：鎌取コミュニティセンター 講師：公認・臨床心理士花澤先生 おゆみ野四季の道駅伝大会への協力 地区小学校（おゆみ野南・小谷）「一年生と昔遊び」への協力 その他情報交換等の委員会を開催		【おゆみ野地区部会】 子育てサロンの実施：年10回予定 開催時間：午前10時～ ・鎌取コミュニティセンター R6.5.21、9.17、R7.1.21 ・おゆみ野公民館 R6.7.18、11.21、R7.2.20 ・緑保健福祉センター R6.6.12、10.23、12.18、R7.3.19 講演会・講習会・研修会の企画、参加 年1回程度、時期未定 緑保健福祉センター及び地域の子育て関連団体への支援協力と連携 その他情報交換等の委員会の開催	【おゆみ野地区部会】 共に活動する委員や協力者を増やす。
			【５０２地区民生委員児童委員協議会】 ○地域部会への協力 子育てサロン年10回、部会の委員として活動し、子育て中の親子が集う場の提供に協力。	【５０２地区民生委員児童委員協議会】 子育てサロン9回開催（5/16、6/21、9/19、10/16、11/16、12/13、1/16、2/15、3/13）		【５０２地区民生委員児童委員協議会】 ○地域部会への協力 子育てサロン年10回、子育て中の親子が集う場の提供に協力。	【５０２地区民生委員児童委員協議会】 積極的な地域の福祉活動を行うための地域部会活動への協力体制、地域・学校行事への協力体制を、より確立していくこと。 ・新型コロナウィルスも令和５年５月に５類に移行したが、引き続き感染予防に配慮しながら、新しい生活様式に合った地域での活動を進めて行く。
			【５１１地区民生委員児童委員協議会】 ○地域部会への協力 ・子育てサロン10回	【５１１地区民生委員児童委員協議会】 子育てサロン 9回開催・研修会		【５１１地区民生委員児童委員協議会】 ○地区部会への協力 地区部会の委員として高齢者・子ども家庭が集う場の提供に協力していく。	【５１１地区民生委員児童委員協議会】 ・現在、担い手となっている民生委員の高齢化に伴い、新しい担い手の確保が必要である。（福祉委員を増やしていく） ・地域住民同士の交流の場の提供・情報を共有する。 ・参加者の募集チラシを配布

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
	２　緊急時の支援と対応（災害、防犯と防災、感染症）	12　防災訓練の充実、意識啓発、体制整備	【おゆみ野地区町内自治会連絡協議会】 地域での防災活動 ・各地区九都県市避難所訓練 　令和５年９月実施予定 ・避難所訓練 　令和５年８月２７日実施予定	【おゆみ野地区町内自治会連絡協議会】 ・各地区九都県市避難所訓練 　令和５年８月２７日実施 ・避難所運営委員会連絡会による協力・連携体制づくりを実施	―	【おゆみ野地区町内自治会連絡協議会】 各地区九都県市避難所訓練 　令和６年８月２５日実施予定	
			【５０２地区民生委員児童委員協議会】 ・日常の見守り活動などにより、高齢者や災害時要支援者の最新情報の把握に努める。 ・台風・地震などの災害時は、安全確認や被害状況の把握、情報伝達を行う。 ・避難所運営委員会の会議参加により、災害時における避難所の運営について地区ぐるみで検討する。	【５０２地区民生委員児童委員協議会】 ・高齢者実態調査により、高齢者の生活状況を確認することが出来た。また、高齢者や災害時要支援者の最新情報の把握に努めた。 ・令和5年度は、千葉県内で大雨の被害が生じたが、担当地区の被害はほとんどなく、被害対応では特段の活動を必要としない1年であった。 ・避難所運営委員会の会議に積極的に参加した。		【５０２地区民生委員児童委員協議会】 ・日常の見守り活動などにより、高齢者や災害時要支援者の最新情報の把握に努める。 ・台風・地震などの災害時は、安全確認や被害状況の把握、情報伝達を行う。 ・避難所運営委員会の会議参加により、災害時における避難所の運営について地区ぐるみで検討する。	【５０２地区民生委員児童委員協議会】 ・引き続き新型コロナウィルスの感染予防に配慮しながら、新しい生活様式に合った活動を検討し、日常の見守り活動などをより充実させていく。 ・今後起こりうる大地震・大雨の被害などに対する避難支援体制の強化に向けて、自治会と協力し、具体的な体制作りが必要である。
			【５１１地区民生委員児童委員協議会】 ・避難所運営委員会に参画・協働 ・避難行動支援者への支援の強化・自治会との連携（サポータ）	【５１１地区民生委員児童委員協議会】 【避難所運営委員会に運営委員として参画・協働】 ●おゆみ野南小学校（７回） 11自治会・施設管理者・民生委員６名 4/22(土) 6/18(日)7/15(土)8/27(日) 10/14(土)12/2(土)2/25(日) 　研修会・勉強会・備蓄品棚卸・会議 避難所開設訓練(九都県市合同)等 ●おゆみ野南中学校　6回 6/3(土) 7/22(土)8/27(日)9/30(土) 10/22(日)2/17(土) 7自治会・施設管理者・民生委員４名 会議・南小避難所開設訓練見学・避難所開設訓練等 ●金沢小学校　４回 　6/3(土)8/27(日)11/11(土)2/3(土) 3自治会　施設管理者・民生委員４名 　研修会・勉強会・備蓄品棚卸・会議 避難所開設訓練(九都県市合同)等 ※おゆみ野地区連絡会参加 12/16(土) ※各避難所運営委員会に参加し、自治会の方々と連携し、災害時の対応等学び、開設訓練を通して発災時の確認が出来た。 ※自治会の方々と連携強化に努めた。		【５１１地区民生委員児童委員協議会】 【難所運営委員会に運営委員として参画・協働】 ●おゆみ野南小学校　7回 11自治会・施設管理者・民生委員６名 　4/21(日)6/23(日)7/13(土)8/25(日) 　10/12(土)12/7(土)2/22(土) 　研修会・勉強会・備蓄品倉庫確認・会議・避難所開設訓練(九都県市合同) 　備蓄品棚卸等 ●おゆみ野南中学校　５回 　5/11(土) 7/20(土)9/28(土)10/27(土) 　　2/15(土)予定 7自治会・施設管理者・民生委員４名 　会議・研修会・避難所開設訓練等 ●金沢小学校　数回 　6/1(土) ・数回予定 　3自治会　施設管理者・民生委員４名 　会議・研修会・避難所開設訓練等 ※定例会時にて３カ所の避難所運営委員会の現状把握と情報を交換しあい共有する。 ※民生委員が保有する名簿に掲載されている方の優先順位づけ。	【５１１地区民生委員児童委員協議会】 ・避難行動要支援者へのサポート体制の強化(避難行動要支援者名簿が有効活用できるようにしていく)。 ・個別避難計画の確認 ・自治会と連携し平常時からの情報収集や具体的な支援体制の構築。 ・防災知識の普及啓発に努めていく。 ・災害に関し、千葉市の最新情報の把握に努める。 ・金沢小避難所運営委員会の体制づくりに協力。 ・手元に持っている名簿を有効に活用できるようにすること。(自治会との連携)
	３　身近な生活支援（見守り・助け合い）	17　健康づくり支援	【おゆみ野地区部会】 健康を保持する活動を保健福祉センター・あんしんケアセンター及び地域の医療機関等の協力を得て、地域の週会やイベントの機会を利用して実施する。 ラジオ体操やシニアリーダー体操、健康ウォーキング等への積極的に参加する仕組みづくりを推進し、実施する。 各委員会の活動の中で、保健福祉センター・あんしんケアセンター並びに地域医療関係等の協力を得て、講演や訪問などを具体的に計画する。	【おゆみ野地区部会】 　各委員会の活動の中で、保健福祉センター・あんしんケアセンター並びに地域医療関係等の協力を得て、講演や訪問などを具体的に計画した。		【おゆみ野地区部会】 　各委員会の活動の中で、保健福祉センター・あんしんケアセンター並びに地域医療関係等の協力を得て、講演や訪問などを具体的に計画する。	【おゆみ野地区部会】 共に活動する委員や協力者を増やす。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
椎名エリア 【人口・世帯数】 5,178人、　2,452世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 23.7% 【地域の特徴】 自然豊かな農村地域で、地域には区画された田園が広がり、集合住宅地はあまりない。	１　コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加）	２　子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流	【椎名地区部会】 小学校の児童に、地域での助け合い、ボランティア精神の育成 ・田植え体験5/11 ・椎名小４年生にSDGｓ授業7/11 ・椎名小４年生に福祉出前授業10/10 ・羯鼓舞の演舞12月	【椎名地区部会】 ・福祉出前授業　4年生50名　10/16 ・SDGｓの授業　6年生30名、10/18 ・５年生40名　育苗観察4/18、田植え体験5/11、稲刈り9/12、感謝祭2/21 ・羯鼓舞の発表12月　200名以上参加 ・地域の特色を生かした支援の確立	―	【椎名地区部会】 ・福祉出前授業　4年生50名　10月 ・SDGｓの授業　6年生30名、7月 ・５年生40名　育苗観察4/15、田植え体験5/8、稲刈り9月、感謝祭2月 ・羯鼓舞の発表12月　全校児童、保護者200名以上参加 ・地域の特色を生かした支援の確立	【椎名地区部会】 定期的な話し合いの場の確立 　おゆみ野ＪＡ婦人部、民生委員、椎名社協、ＰＴＡ参加、学校職員、保護者、ライスセンター職員 　実施後の話し合い企画
			【椎名地区町内自治会連絡協議会】 　地域と学校との交流 　椎名小運動会 　　令和５年６月１０日開催予定	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 　椎名小運動会 　　令和５年６月１０日開催		【椎名地区町内自治会連絡協議会】 椎名小運動会 令和６年５月２５日開催予定	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 地域との交流減少対策
			【５０３地区民生委員児童委員協議会】 福祉教育等への協力 　椎名地区部会やその他関係団体と連携し、福祉出前授業や食育支援事業を実施	【５０３地区民生委員児童委員協議会】 ・椎名小学校4年生福祉出前授業 　10月16日に椎名小学校4年生37名を対象に、民生委員による福祉体験授業（アイマスク着用による視覚障害体験）を実施。併せて、民生委員や地区部会の活動を資料・映像で説明。 ・椎名小学校5年生食育支援事業 　食の大切さや農業への関心をもってもらうことや地域住民との交流の一環で実施。 ・4月18日　椎名ライスセンターを見学 　5年生40名が参加し、稲の育苗の様子や作業を見学した。 ・5月11日　富岡町長徳寺下側にて5年生40名による田植を実施 ・9月12日　上記場所にて稲刈り ・2月21日　感謝祭 〈協力関係団体〉 ・椎名ライスセンター・椎名地区部会 ・ＪＡみどり野支店女性部、ＪＡ職員 ・社会福祉協議会		【５０３地区民生委員児童委員協議会】 椎名小学校4年生福祉出前授業 　日　時　令和6年10月 　場　所　椎名小学校 　内　容　民生委員による福祉体験授業 　参　加　4年生40名 　　民生委員、地区部会関係者 椎名小学校5年生食育支援事業 　4月15日　椎名ライスセンターを見学 　5年生40名が参加し、稲の育苗の様子や作業を見学。 　5月8日　富岡町長徳寺下側にて5年生40名が参加し、田植えを実施 　9月　上記場所にて稲刈り 　2月　感謝祭 ※協力関係団体は令和5年度と同じ	【５０３地区民生委員児童委員協議会】 福祉出前授業について 　福祉の分野は広いので、毎年、授業内容は変えているが、民生委員だけでは、限界があるので、福祉の専門職の方の協力を得るなどして、授業内容を見直すことも必要。 食育支援事業について 　事業に携わるメンバーの高齢化が進んでいることから、協力者の確保に懸念がある。
		６　地域の行事への積極的参加の呼びかけ、文化の伝承	【椎名地区部会】 地域の連帯感を高めるため、地域行事を開催する。 ・米寿、金婚の記念写真撮影11/3 ・敬老会9/30 ・福祉バザー12月	【椎名地区部会】 ・金婚式2組／米寿3組 　記念写真の撮影・贈呈11/3 ・椎名地区8地区合同敬老会開催9/30 　みどり寿司49名参加 ・1/28（土）椎名小学校　13時～15時 5テーブル／小規模開催	―	【椎名地区部会】 ・金婚式／米寿 　記念写真の撮影・贈呈11/3 ・椎名地区8地区合同敬老会開催9/29 　みどり寿司	【椎名地区部会】 ・理事／町内会長／役員による企画、運営 　気軽に参加期待
			【椎名地区町内自治会連絡協議会】 スポーツを主体とした行事への協力 　①バレーボール大会 　　令和５年１１月１９日開催予定 　②ソフトボール大会 　　令和５年１２月３日開催予定 　③体育祭　※時間を短縮して開催予定 　　令和５年１０月８日開催予定	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 　①☒レーボール大会 　　令和５年１１月１９日開催 　②☑フトボール大会 　　令和５年１２月３日開催 　③　体育祭 　　令和５年１０月８日開催	―	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 　①バレーボール大会 　　令和６年１１月２４日開催予定 　②ソフトボール大会 　　令和６年１２月８日開催予定 　③　体育祭 　　令和６年１０月１３日開催予定	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 行事参加者の減少対策

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和５年度の目標又は予定	令和５年度の実績	達成状況	令和６年度の目標又は予定	今後の課題と方針
	３　身近な生活支援（見守り・助け合い）	17　健康づくり支援	【椎名地区部会】 健康講座の開催、食事サービス時の健康相談の実施、ウォーキングの推進 ・6月から地区巡回体操会実施	【椎名地区部会】 ・健康体操の会を各町内で実施 20名参加 ・食事サービス時健康体操の実施 20名	―	【椎名地区部会】 ・健康体操の会を各町内で実施 20名参加 ・食事サービス時健康体操の実施 20名	【椎名地区部会】 地域の散歩者の支援
			【椎名地区町内自治会連絡協議会】 ①バレーボール大会 令和５年１１月１９日開催予定 ②ソフトボール大会 令和５年１２月３日開催予定	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 ①バレーボール大会 令和５年１１月１９日開催 ②ソフトボール大会 令和５年１２月３日開催 ③　体育祭 令和５年１０月８日開催		【椎名地区町内自治会連絡協議会】 ①バレーボール大会 令和６年１１月２４日開催予定 ②ソフトボール大会 令和６年１２月８日開催予定 ③　体育祭 令和６年１０月１３日開催予定	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 行事参加者の減少対策
		18　地域の課題解決に向けた連携	【椎名地区部会】 公民館運営及び改築に伴う要望を協議し要望書を提出する。	【椎名地区部会】 隔月、関係団体による話し合い実施 市／区行政機関との話し合い開催　20名		【椎名地区部会】 隔月、関係団体による話し合い実施 市／区行政機関との話し合い開催　20名	
			【椎名地区町内自治会連絡協議会】 公民館新設に向けた協議	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 地域関係団体で「椎名公民館新築促進委員会」を組織し、公民館新設に向け協議した。 ①公民館運営委員会 令和５年６月２１日開催 ②市・区との対話会 令和５年８月２４日開催 ③アンケート調査内容検討会開催 令和５年１１月１２日実施		【椎名地区町内自治会連絡協議会】 ①学習振興課と協議、受講 ②防災対策課と協議 ③他地区との連携 ④問題点の把握	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 実現へ向けての取組
			【５０３地区民生委員児童委員協議会】 地域福祉活動団体との連携 地域福祉活動を行っている団体と連携し、地域の様々な行事に協力を行う。	【５０３地区民生委員児童委員協議会】 ・地区部会常任理事会（1回/月）に出席し、各種取組に関する意見交換を行った。 ・4年生対象の福祉講座など、学校行事への参加、協力を行った。 ・歳末独居高齢者慰問 地区民生員が独居高齢者宅を訪問し安否確認を行った。 ・地域行事に協力した。 椎名地区合同敬老会（9/30） 米寿・金婚者の記念写真撮影（11/3） 椎名地区福祉バザー（1/28）		【５０３地区民生委員児童委員協議会】 ・地区部会常任理事会（1回/月）に出席し、各種取組に関する意見交換を行う ・4年生対象の福祉講座など、学校行事への参加、協力を行う。 ・歳末独居高齢者慰問 地区民生員が独居高齢者宅を訪問し安否確認を行う。 ・地域行事に協力する。 椎名地区合同敬老会（9月） 米寿・金婚者の記念写真撮影（11月） 椎名地区福祉バザー（1月）	【５０３地区民生委員児童委員協議会】 ・事業に携わるメンバーの高齢化が進んでいることから、協力者の確保に懸念がある。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）総括表

◆基本方針別取組状況

基本方針		取組項目数	取組項目の達成状況		主な取組内容
1	住民主体による協働のまちづくり	8	◎	7	・稲毛海岸地区部会エリアでは、稲毛海岸地区部会が美浜いきいきプラザの協力により、地域住民への健康意識の向上・フレイル予防を目的として「健康フェスティバル」を開催し、健康測定・健康に関する講和を行った。その際には、会場と居住地区とが少し離れていることから送迎バスを参加者に利用してもらった。 ・幸町２丁目地区部会エリアでは、避難所運営委員会が中心となって、防災について意識を高めるように啓発を行ったり防災設備（マンホールトイレ・水の確保等）の充実に努めた。 ・磯辺地区部会エリアでは、自治会の自治会館等を活用した「ミニサロン」を新規開設・再開することができ、気軽に出入りできるお茶飲み場・おしゃべりの場というフリーな交流・集いの場として提供していくと同時に、見守りの場としての機能も果たすことができ、これからも同様の「ミニサロン」を増やしていきたいと考えている。 ・磯辺地区部会エリアでは、磯辺地区（33地区連協）28自治会の内4自治会で「見守り活動」実施。今後も継続させながら、さらに一歩進んだ支え合い活動へと転換させていきたい。 ・幕張西地区部会エリアでは、育成委員会による小学生を対象とした「水ようかんづくり」を開催し、食育の啓発や世代間交流を行うことができた。
			○	1	
			△	0	
			×	0	
			―	0	
2	誰もが暮らしやすい環境づくり	8	◎	7	・稲毛海岸地区部会エリアでは、地域運営委員会を中心に地域内において、6月に「ごみゼロクリーンデー」、年末に「クリーン作戦」活動を行い、どちらも地域の環境美化に貢献することができた。 ・幸町２丁目地区部会エリアでは、千葉幸町団地自治会（UR賃貸住宅）が主催する「お助け友の会」（助け合い活動）によりゴミ出し・買い物・自転車パンク訪問修理等、住民の困り事のニーズに応えた活動を行った。 ・幸町一丁目地区部会エリアでは、幸町一丁目地区部会が地区内の小学4年生～中学3年生を対象に「COCO放課後自習室」を赤い羽根共同募金助成事業により地区内在住の大学生による講師の協力を得て実施し、子育て世帯とその子への支援を行うことができた。 ・高州高浜地区部会エリアでは、29地区連協・高洲高浜地区部会・老人会が稲毛海岸駅前の花壇の管理（水やり・手入れ）や駅前清掃を交代で実施している。 ・真砂地区部会エリアでは、地域運営委員会が運営するホームページにより、真砂地区の地域情報を一括して提供し、地域活動の状況・様子を発信している。 ・打瀬地区部会エリアでは、47地区連協が中心となって「子ども街歩きクリーン作戦」を実施し、ゴミ拾いをしながら幕張メッセを視察する等、地域内の施設に協力を得ながら地域に還元できるような活動を行った。
			○	1	
			△	0	
			×	0	
			―	0	
3	福祉を支える人づくり	8	◎	7	・幸町２丁目地区部会エリアでは、幸町２丁目地区部会が主催する「ボランティア講座」において、千葉西警察署による「詐欺被害防止」に関する講座を開催し、参加した地域住民に対し、地区部会の存在や活動の周知、地域活動参加への呼びかけを行った。 ・幸町一丁目地区部会エリアでは、36地区連協が中心となって「幸町公園あじさいプロジェクト」として地域の美化活動を行いながら研修会等を開催し、環境に対する意識（ゴミ対策）を持ってもらうことにより、現役世代を巻き込んだ次世代のリーダーを養成することも“ねらい”として実施している。 ・高洲高浜地区部会エリアでは、高洲高浜地区部会が美浜いきいきプラザと協働で健康測定会を開催し、多数の地域住民の参加があり、新たな担い手の発掘につなぐことができた。 ・真砂地区部会エリアでは、地区部会活動のPRを、音楽・芸能の発表によるイベント的な催物として開催（クリスマスコンサート）することにより、多くの人たち・地域住民に参加してもらうことで、活動の周知を行い、社協会員会費の増加にもつなげていくことができた。 ・幕張西地区部会エリアでは、幕張西地区部会が主催する「ボランティア講座」やイベントに参加している地域住民に地域活動参加を口コミで呼びかけた。 ・打瀬地区部会エリアでは、打瀬地区部会が健康促進・フレイル予防・認知症・障害等に関する「ボランティア講座」等を開催し、地域住民に対して健康推進と地区部会の存在や活動の周知・地域活動参加への呼びかけを行った。
			○	0	
			△	0	
			×	1	
			―	0	
今年度の振り返り		24	◎	21	・コロナウィルス感染症の位置付けが第5類に変更されたことから、地域の各実施主体ではコロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域住民の交流・通いの場、安否確認の場となる「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」「ふれあい 食事サービス」や「夏祭り」「敬老会」等の地域福祉活動に繋がる行事・イベントを、できる範囲のなかで再開させ、地域住民の健康促進・フレイル予防と地域の活性化・住民同士の交流等を充実させるため努力してきた。
			○	2	
			△	0	
			×	1	
			―	0	

今後の課題と方針	これまでも、美浜区特有の地域課題（集合住宅での高齢者独居世帯、エレベーターが設置されていない中層集合住宅の住民のひきこもり・外出困難・買物困難、新旧住民間の融合、子育て世帯と高齢者世帯との交流、支え合い活動等地域福祉活動の担い手不足、活動拠点の確保 等）について、「第4期 美浜区支え合いのまち推進計画」（美浜区地域福祉計画）においても地域課題解決のために活動を行ってきたが、コロナ禍の影響による活動自粛の影響もあり課題解決にまでは至らなかった。 令和5年5月に コロナウィルス感染症の位置付けが第5類に変更されたことから地域福祉活動が徐々に再開し、「第5期 美浜区支え合いのまち推進計画」においても活動の指針となる重点取組項目が設定されたことにより、今後、地域課題解決のための地域福祉活動に取り組んでいきたい。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第１回	９月１１日（月）	議題（１）「委員長・副委員長の選任について」 議題（２）「美浜区支え合いのまち推進計画」の推進状況（令和４年度）について 議題（３）「美浜区支え合いのまち推進計画」の中間見直しにかかる具体的な取組項目の素案について
第２回	１１月１４日（火）	議題（１）「美浜区支え合いのまち推進計画」の中間見直し（案）について

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
第２２号	３月２９日（金）	発 行 部 数：4,968部 主な配布先：窓口（区役所・社協・公民館・コミュニティセンター 等）配布 546部 町内自治会回覧用配布 4,422部
第　　号	月　　日（　）	発行なし

※ 区内で実施している取組みの中で、工夫して取り組んでいる事例について自由にご記入ください。
（枠内に収まらない場合は、Ａ３裏面１枚の範囲で追加いただいて構いません。）

※ 区内で実施している取組みの中で、工夫して取り組んでいる事例について自由にご記入ください。
（枠内に収まらない場合は、Ａ３裏面１枚の範囲で追加いただいて構いません。）

カーブス ✖ 社会福祉協議会・生活支援コーディネーター
『からだの健康度チェック（健康測定会）』
～ 企業による地域貢献活動をコーディネート・連携

スポーツエクササイズジムのカーブスでは、地域貢献活動の取組みとして他市町村において「健康測定会」を実施しています。

一昨年度末、美浜区にメンズカーブスが出店するにあたり、カーブス本社より地元住民・美浜区民・千葉市民へ何か地域貢献・地域交流できることがないでしょうか、という問合わせが千葉市社会福祉協議会 美浜区事務所にありました。そこで、千葉市社協 美浜区事務所と 美浜区第１層生活支援コーディネーターとで、どのようなことをどのような機会・場所で行うことができるのか検討・調整を重ねてきた結果、地域住民の健康促進・フレイル予防を目的として、交流の場・通いの場につながっていない高齢者に外出の機会を提供し、血管年齢測定・脂肪燃焼度チェック・体の歪みチェックなどを行う『からだの健康度チェック（健康測定会）』として、社協地区部会とも情報を共有しながら実施することとなりました。

測定会では、各種測定のあと美浜区第２層生活支援コーディネーターにより、あんしんケアセンターの紹介や介護予防・健康づくりの相談、交流の場・通いの場の紹介、さらには地域活動の担い手の発掘も行いました。

当該測定会の開催により、高齢の地域住民への運動の継続による健康維持・促進、外出の機会を提供することなどができました。

カーブスによる健康度チェックと生活支援コーディネーターによる高齢者向けサービスの紹介・相談

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
－：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針
稲毛海岸地区部会エリア 令和５年３月３１日 時点 【人口・世帯数】 10,833人　4,647世帯 【町内自治会数】 17町内自治会（第３８地区連協） 【高齢化率】 16.58% 【地域の特徴】 地区の北側は国道14号が東西に走り、東側は黒砂水路を挟んで幸町に、西側は真砂に接し、南側は高洲となる。埋め立て前は海岸線であった。集合住宅が多く立ち並ぶ地域であったが、近年は高層マンションや一戸建て住宅街も建設されている。	**Ⅰ　住民主体による協働のまちづくり**	コロナウィルス感染症の位置付けが第５類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動をできる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。	・「ふれあい 食事サービス」の再開を目指す。コロナが落ち着いた状況になっても、外に出なくなってしまっている高齢者が増えていることが課題である。そのため、いきいきプラザの協力を得て、「健康フェスティバル」（測定会）を開催する。その際には、バスの送迎付きで、まずは外に出る・健康状況を知ることにより、地域の活動に参加してもらうことのきっかけとしたい。 ・高齢者対象のバス旅行も再開する。	・「ふれあい食事サービス」は、アンケートを実施し、その回答を持って議論を積み重ね、再開を検討したが、食数の確認や集金等を行うスタッフの確保が難しいことが判明し、実施は見送りとなった。 ・「健康フェスティバル」は、予定通り送迎付きで実施することができた。 ・高齢者対象のバス研修は、開催時期を検討している間に千葉市の補助金申請が間に合わず見送る形となったが、令和６年度の開催に向けての手応えはあった。	○	【重点取組項目】 １（１）顔の見えるご近所づきあいの構築 ２（３）“みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築 ・地区内にある４つの避難所運営委員会について、関係を強化し合同で何らかの訓練や防災イベントを実施できるようにし、自治会に加入していないところも巻き込んでいきたい。 防災活動において、避難訓練・避難所開設訓練・安否確認活動や在宅避難方法についても各地区で差が出ないような取り組みを行いたい。	・地域運営委員会・町内自治連絡協議会・社協地区部会・青少年育成委員会・スポーツ振興会・民生委員児童委員協議会との連携を強化し、連携して町づくりを行っていきたい。 ・小学校・中学校・公民館・公園・自治会集会所といった場所を、もっと交流の場として活用し、世間話のコミュニケーション的な内容から見守り・安否確認・もしくは何らかの奉仕につながってくれる場を提供できるか検討したい。
	Ⅱ　誰もが暮らしやすい環境づくり		・サロン・見守り活動・支え合い活動等、地域活動従事者と参加者・依頼者とが、顔見知りとなり気軽に声をかけ合う関係性をさらに深め、コロナ禍で参加に慎重になっている高齢者にも参加を促し、見守りの環境をつくる。 ・「あんしんカード」の活用・普及により、誰もが安心して暮らせる環境づくりをさらに充実させていきたい。	・「いきいきサロン」や「子育てサロン」等、地区部会のサロン活動は予定通り実施、また４自治会での見守り活動も継続的に実施された。顔見知りの関係強化および見守りの関係を作ることができた。 ・民生委員（６０１地区民児協）を通じて「あんしんカード」の活用・普及を図った。 ・地域運営委員会を中心に地域内において、６月に「ごみゼロクリーンデー」、年末に「クリーン作戦」活動を行い、どちらも地域の環境美化に貢献することができた。 ・青少年育成委員会が主催している、地区内の遊歩道でのアジサイの植栽を小学校の児童・中学校の生徒・教職員・保護者・地域住民で行っており花のある散歩道づくりを展開している。	◎	【重点取組項目】 ６（12）オンラインや訪問相談等の活用による新しい情報伝達の仕組みづくり ・ＳＮＳを活用したサロン等の情報提供。 ・デジタル回覧板の採用と活用。 ・スマホアプリを利用した地区限定の情報を発信していきたい。	・「あんしんカード」の普及とカードの内容更新について、進めていきたい。 ・個人のアカウントではなく地区のアカウントを作成することにより、個人情報の保護を図りながら情報提供等進めていきたい。 ・スマホ教室等を実施することにより情報機器に慣れていない年代の方にも漏れなく情報提供できる環境を整えていきたい。
	Ⅲ　福祉を支える人づくり		・引き続き、青少年育成委員会とスポーツ振興会と共催で、多世代の参加するグラウンドゴルフ大会を開催する等、地域の方々が広く集まれるイベントを企画していきたい。さらに、ボッチャの普及にも力を入れ、さらに多世代を巻き込んで地域を支えていく町づくりを進めていきたい。	・すべて実施することができた。 ・見守り対象者に対して、見守り活動するための人づくりを継続。 ・セーフティーウォッチャーを行うことで保護者との顔繋ぎや連携になっている。	◎	・地域行事（祭り・スポーツイベント等）をこれまで通りに行うことに加えて、障害を持っている方も巻き込んで、多くのボランティアの参加を促し、福祉活動の輪を広げていきたい。	・地域活動の担い手発掘のため、幅広い世代に対して、ＳＮＳ等を駆使してイベント（地域行事）の参加をきっかけに地域活動参加への啓発等を促していきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
－：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針
幸町２丁目地区部会エリア 令和５年３月３１日 時点 【人口・世帯数】 11,660人　6,740世帯 【町内自治会数】 12町内自治会（第２８地区連協） 【高齢化率】 32.02% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はＵＲ都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビナートなどが集積する。	**Ⅰ　住民主体による協働のまちづくり**	コロナウィルス感染症の位置付けが第５類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動をできる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。	・「ふれあい いきいきサロン」等については、コロナ禍前の状態に戻せるよう徐々に再開させていきたい。 ・「幸町２丁目地区 支え合いの会」について、需要（ニーズ）が増えていく一方、活動者（協力員・サポーター）が不足していることから、活動を地区内の自治会単位での支え合い活動や有志の人たちの活動に引き継ぎ移行させ、今後も、出来る範囲のなかで需要（ニーズ）に応えていきたい。	・幸町２丁目地区部会が主催する「ふれあい いきいきサロン」については、コロナ禍前の状態に戻せるよう徐々に再開させていった。 　高齢者委員会と障害者委員会が合同で「ボッチャ」を行い、人的交流を図ることができた。 ・避難所運営委員会が中心となって、防災について意識を高めるように啓発を行ったり防災設備（マンホールトイレ・水の確保等）の充実に努めた。 ・住民が自主的に主体となって開催している交流の場「あじさい」や、ＵＲが中心となって見守りの場・健康推進の場を目的として実施しているポールウオーキング・ラジオ体操の実施により、地域住民の参加の広がりを見せた。	◎	【重点取組項目】 １（２）地域福祉を推進する団体等の交流やネットワークづくり ・幸町中央集会所のラウンジを活用して、週２回、集いの場「憩いの場 さいわい」を開催している。 ・「見守りネットワーク会議」を再開させる予定。 ・避難所運営委員会が主催して防災訓練を８月に実施予定。中学生も参加し、街全体の防災意識を高めさせたい。	・再開された「ふれあい いきいきサロン」等の参加者数を、コロナ禍前までの人数に戻していきたい。 ・地域全体で“地域を巻き込む”ような活動・イベントを行うことが多世代交流や担い手の発掘に繋がっていくのではないかと思われる。教育委員会や育成委員会と連携・協力しながら子ども達に昔あそび等を伝えていくことが必要ではないかと考えている。 　また、地域の子どもと高齢者が一緒に参加・利用できるような「子ども食堂」の開設も検討し、多世代交流と孤食解消に寄与できるようにし、独居高齢者が増えているなかで孤の不安を解消できるようにしたい。
	Ⅱ　誰もが暮らしやすい環境づくり		・地区内の自治会において、文化行事を再開させ、地域住民の交流の場の機会を設けることにより、見守り・安否確認へつなげていきたい。 ・地区部会や自治会が主体となって、健康体操を実施していきたい。	・幸町２丁目地区部会が主催する「ふれあい いきいきサロン」において、シニアリーダー体操等健康体操をサロンメニューに取り入れて地域住民の健康増進を図った。 ・千葉幸町団地自治会（ＵＲ賃貸住宅）が主催する「お助け友の会」（助け合い活動）によりゴミ出し・買い物・自転車パンク訪問修理等、住民の困り事のニーズに応えた活動を行った。 ・地元諸団体等多機関で構成される「幸町２丁目連携会議」を、あんしんケアセンターが事務局となって開催した。	◎	【重点取組項目】 ４（７）地域での助け合い活動の推進 ・今年度も引き続き、千葉幸町団地自治会（ＵＲ賃貸住宅）が主催する「お助け友の会」（助け合い活動）の活動を実施し、地域住民の困り事のニーズに応えられる活動を行っていきたい。 ・今年度も引き続き、あんしんケアセンターが事務局となって「幸町２丁目連携会議」を開催する予定。	・当該地域では、ＵＲ賃貸住宅の社宅貸しが増えてきていることから外国人が増加してきており、地域のコミュニティの形成に支障をきたしてきている。多文化共生として既住民との交流を地域行事に参加してもらうことで図っていきたいと考えている。 ・子どもを通して親どうしの繋がりを形成していきたいと考えており、この繋がりから高齢者や外国人が地域・社会から取り残されないようにできないか考えていきたい。 ・「幸町２丁目連携会議」を有効に活用させ、引続き情報の共有と連携強化に努めていきたい。
	Ⅲ　福祉を支える人づくり		・地区部会活動の再開をきっかけに活動の実施のなかで、担い手を発掘・探していきたい。	・幸町２丁目地区部会が主催する「ボランティア講座」において、千葉西警察署による「詐欺被害防止」に関する講座を開催し、参加した地域住民に対し、地区部会の存在や活動の周知、地域活動参加への呼びかけを行うことができた。	◎	・幸町２丁目地区部会が主催する「ボランティア講座」を今年度も引き続き開催予定。 　地域・地域住民が、公的機関（行政・警察等）との繋がりを保っていけるようにしていきたい。	・「子どもへの支援」という形で、イベント・行事を企画・実施し、地域行事の参加をきっかけに地域活動の担い手・協力者の発掘・確保を図っていきたい。 ・次世代の担い手の発掘の仕方（アプローチ）については検討する（考え直す）必要がある。 　高齢化が進む幸町２丁目地区の中で探していくことは難しく、限界にきている。国・社会の意識を変えていく必要があるのではないか。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
ー：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針
幸町一丁目地区部会エリア 令和５年３月３１日 時点 【人口・世帯数】 7,019人　3,397世帯 【町内自治会数】 17町内自治会（第３６地区連協） 【高齢化率】 31.40% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで、中央区登戸に接する。地区内は高層低層の集合住宅が大部分を占め、一部戸建て住宅があるほか、国道沿いには大型事業所も立地する。西端は道路を挟んでＪＲ千葉みなと駅や千葉市役所などが立地する中央区千葉港地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビナートなどが集積する。	**Ⅰ　住民主体による協働のまちづくり**	コロナウィルス感染症の位置付けが第５類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動をできる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。	◎健康スポーツの推進 ①男性を「交流の場（ふれあい いきいきサロン）」等に連れ出すため、パラスポーツの「ボッチャ」をサロンメニューとして取り込んで実施していく。 ②「健康体操」をサロン等に盛り込み、地元出身の理学療法士を講師に招いて、年４回程度実施していく。 ◎子どもたち対策 ①子供たちの居場所づくりとして、学習支援と食事会をセットで組み合わせたＣＯＣＯ塾を立ち上げて、８月から実施していく。 ②「祭り・盆おどり」を子どもから大人・高齢者まで多世代の地域交流の場となるよう、実施していきたい。 ◎既存の活動 ①既存の活動（「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」「ふれあい食事サービス」）を徐々にコロナ禍前の状態に戻していきたい。 再開後に、サロン等に来られなくなった人を、どう来られるようにするか。また、ふれ食の宅配（訪問）により安否確認の機会としているが届ける人をどう確保していくか。解決に向けて取り組んでいきたい。 １０月頃にはふれ食を会食形式で実施させたい。 ②昨年度再開させた「バス旅行」を今年度も実施したい。	・幸町一丁目地区部会が開催している「ふれあい いきいきサロン」はコロナ禍前までの状態にまで戻し、「ふれあい 食事サービス」においてはシニアリーダー体操・健康体操等を取り入れて実施している。 ・地区内の高齢男性を外に引っ張り出し、健康増進を目的に「ボッチャ・グランドゴルフ・ボーリング」の健康スポーツを推進させた。 ・地区部会主催の「バス旅行」を実施した。 ・３６地区連協が中心となって実施している「幸町１丁目 健康プラザ」は、要支援者対策・地域住民の通いの場として参加者同士の交流や健康等に関する講話・体操等が行われている。また、「ふれあいサロン」を毎週金曜日に開催している。 ・高齢者の生きがいづくりとして「人生万歳」を再開。地区内での昼間の町内パトロール、夜間の危険箇所パトロールを実施している。 ・地域の美化活動として、「朝風会」によるゴミ拾いや幸町公園での清掃活動、「幸町公園あじさいプロジェクト」で植栽等を行っている。 ・３６地区連協が中心となって、医療機関・防災拠点・公共施設等が記された「地域安全マップ」を作成（更新・改訂）した。 ・災害対策を目的に「防災講演会」を開催し、地域住民の防災意識の向上を図っている。	◎	【重点取組項目】 １（１）顔の見えるご近所づきあいの構築 ・「健康スポーツ」をさらに推進させていく。特にボッチャは、子ども・大人・高齢者と三世代が参加しやすいことから、交流できるふれあいの場となるようにさせていきたい。 ・男性も参加しやすくなるような「ふれあい いきいきサロン」を作っていきたい。また「ふれあい 食事サービス」をより一層充実させていきたい。 ２（３）“みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築 ２（４）防犯・防災対策を通じた地域づくり ・行政（市）が実施している、高齢者緊急通報システム（ALSOK）の活用を普及させたい。	・子ども・大人・高齢者と三世代が参加し交流できる「ふれあいの場（サロン）」を作っていきたい。その手段として「健康スポーツ（ボッチャ）」を呼び込むツールとして、推進させていきたい。 ・「呼び寄せ高齢者」対策について、あんしんケアセンターと連携しながら考えていきたい。 ・地区内の高齢男性が参加しやすい交流の場としての「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい食事サービス」を充実させていきたい。 ・地域住民のボランティアによる見守り活動については限界があることから、行政（市）が実施する「高齢者緊急通報システム（ALSOK）」の活用を勧め、鍵の管理・携帯電話（スマホ）の利用普及・GPS機能の活用等について改めて考えていく機会としていきたい。 ・学校の教員の働き方改革により、地域との連携の希薄化が懸念されることから、地域行事の協力体制についてどう対応していったらよいのか、検討していく必要がある。 ・人口減少や働き方改革により、バス・タクシーの運転手や宅配便の配達員が不足していくことから、今後、買い物や病院への移動に支障をきたすことが懸念され、その対策について考えていかなくてはならない。 ・災害時における「要支援者対策」として、どのように支援を行っていけばよいのかについて考えていかなくてはならない。幸町一丁目地区は集合住宅が多く地域コミュニティが希薄なエリアもある中、支援する側・される側も高齢者であることから「災害対策」について今後、真剣に考えていく必要がある。 ・今後ますます進んでいくであろう「デジタル化・ＩＴ化」について、取り残される高齢者に対する支援策を考えていかなくてはならない。 近年では、情報発信のツールとしてホームページを開設しインターネットにより行うことも多くなってきているが、多くの高齢者が慣れ親しんでいる「広報紙」をより充実させて地域情報を住民に直接呼びかけるような気持ちで発信していきたい。
	Ⅱ　誰もが暮らしやすい環境づくり			・「ＣＯＣＯ放課後自習室」を、赤い羽根共同募金助成事業により年度間５回地区内在住の大学生による講師の協力を得て実施することができた。また地区部会の稼働事業として年度間１５回実施した。 ・「安心サポートの会」では、高齢者に対する支え合い活動や訪問支援活動を行っている。 ・町内自治会が主体となって「夏祭り・盆おどり」を開催し、多世代の地域交流の場とすることができた。 ・３６地区連協が「敬老の集い」を開催した。 ・買物困難者のための「金曜ふれあい市」を開催している。	◎	【重点取組項目】 ４（６）地域住民参加型の支え合い体制の構築 ・「CoCo放課後自習室」を引続き実施。ボランティア講師に今年度は千葉大生を予定している。 ・「安心サポート」の会による支え合い活動を引続き実施していく。 ５（８）地域の保健と医療との連携による心身の健康づくり ６（10）誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信 ・幸町一丁目地区部会の広報紙「小窓」（Ａ４両面２ページ）を年間１２回の発行のうち２回をカラー刷り４ページで発行する予定。	
	Ⅲ　福祉を支える人づくり			・理学療法士による「健康教室」をボランティア講座として、年度間４回開催し、地域住民の健康増進と地域活動参加への周知を行うことができた。 ・「幸町公園あじさいプロジェクト」では、地域の美化活動としてだけではなく、研修会等を開催し環境に対する意識（ゴミ対策）を持ってもらうことにより、現役世代を巻き込んだ次世代のリーダーを養成するというねらいで実施することができた。	◎	・理学療法士による「健康教室」を６回開催し、地域住民の健康増進と地域活動参加への周知を行っていきたい。	

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
－：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針
高洲・高浜地区部会エリア 令和５年３月３１日 時点 【人口・世帯数】 38,431人　20,120世帯 【町内自治会数】 25町内自治会（第２９地区連協） 【高齢化率】 32.07% 【地域の特徴】 区のほぼ中央に位置し、ＪＲ京葉線稲毛海岸駅があり、駅前には大型商業施設があるほか、行政施設としてコミュニティセンター・図書館、金融機関などの機能が集積し、その周りをＵＲ都市機構の集合住宅団地や民間マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。北は稲毛海岸（町名）、南側は高浜に接しており、東側は黒砂水路を挟んで幸町、西側は草野水路を挟んで真砂・磯辺に接している。 高浜地区は、海岸線に接しており、海辺には日本一の長さを誇る人工海浜や稲毛海浜公園が整備されている。隣接する高洲地区と連なった集合住宅団地の地区を形成するほか、西側に隣接する磯辺地区ほどではないが５丁目・６丁目にはまとまった戸建て住宅地区も存在する。	**Ⅰ　住民主体による協働のまちづくり**	コロナウィルス感染症の位置付けが第５類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動をできる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。	・地域の高齢住民の交流の場であり、見守り・安否確認の場でもある「ふれあい食事サービス」を調理・会食の形式で再開できるよう、検討・準備を行い、１１月頃を目標に再開させたい。	・すでに順次再開されている「ふれあい いきいきサロン」に次いで「ふれあい 食事サービス」も再開され、地域住民の交流の場として・外出の機会を与える場として、見守り活動・安否確認活動をすることができた。	◎	【重点取組項目】 １（１）顔の見えるご近所づきあいの構築 ・すでに実施されている「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 食事サービス」を地域住民の交流の場（顔を合わせられる場）として、より一層充実させていきたい。また、コロナ禍で休止していたサロン交流会を開催し、地区内１１サロンの活動状況の情報交換を行いたい。	・２９地区連協を中心とした地域運営委員会で高州第二中学校の跡地利用について市に要望を行い、当該地域にとって有益となるような活用方法（避難所や高齢者が利用できる施設等）について、今後も検討していきたい。
	Ⅱ　誰もが暮らしやすい環境づくり		・広報紙による広報・周知活動をきっかけに高洲高浜地区部会と美浜いきいきプラザが今後も一緒に活動できるようにし双方の交流を図っていきたい。 ・コロナの影響により閉じこもりにならないよう、住民を引っ張り出せるようなイベントを企画・実施していきたく、パラスポーツの「ボッチャ」を始めてみたい。 ・規模を縮小・短縮して４年ぶりの夏祭りを開催し、今後、本格的再開に向けた来年以降の第一段階としてコロナ後の新たな形として実施していきたい。 敬老会についても、コロナ後に対応した形式で工夫しながら再開させたい。	・高洲高浜地区部会が美浜いきいきプラザと協働で、健康測定会として開催し、地区内の地域資源が連携して活動することができた。 ・２９地区連協・高洲高浜地区部会・老人会が稲毛海岸駅前の花壇の管理（水やり・手入れ）や駅前清掃を実施している。 ・自治会のない地区の高齢者を対象とした「敬老会」を開催した。 ・高浜５丁目地区において、町内自治会が主体となった地域支え合い活動が本格的に運用され始めてきた。	◎	【重点取組項目】 ３（５）町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり ５（９）健康づくりイベント等への参加促進 ・すでに実施されている活動事業を、より充実させ、地域・地域住民に浸透させていきたい。	・独居高齢者・高齢者夫婦世帯の方だけでなく若い世代の方たちもいるような集いの場をつくり、世代間交流が図れるようにしていきたい。 ・介護相談室併設型のコンビニ（ケアローソン）を活用したイベントを、連携しながら企画・実施していきたい。
	Ⅲ　福祉を支える人づくり		・地区部会によるボランティア講座を実施し、新たな担い手の発掘と、住民にできるだけ外出の機会を提供することを目的として開催したい。	・高洲高浜地区部会が美浜いきいきプラザと協働で健康測定会を開催し、多数の地域住民の参加があり、新たな担い手の発掘につなぐことができた。	◎	・通常の活動やイベント・行事のなかで地域の方に声をかけて、次の方（今後の担い手）につなげていけるようにしていきたい。 ・社協広報紙（地区部会だより）を活用して、新たな担い手（人材）を発掘していきたい。	・地域活動の担い手発掘のため、幅広い世代に対して、イベント（地域行事）の参加をきっかけに地域活動参加への啓発等を促していきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
ー：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針
真砂地区部会エリア 令和５年３月３１日 時点 【人口・世帯数】 25,290人　12,724世帯 【町内自治会数】 34町内自治会（第３１地区連協） 【高齢化率】 32.14% 【地域の特徴】 北は国道１４号に接し、花見川区及び稲毛区、一部は稲毛海岸に隣接し、花見川を挟んで西は若葉、草野水路を挟んで東は高洲地区に接する。南はＪＲ京葉線の線路を挟んで磯辺に接する。 区の東西の中央に位置した拠点地区であり、ＪＲ京葉線検見川浜駅付近から北側一帯に行政機関・商業施設などが集積されている。美浜区役所のほか美浜保健福祉センター・文化ホールの複合施設、美浜消防署、真砂中央公園があるほか、千葉西警察署や西県税事務所などの県の機関も地区内に立地、駅周辺エリアには大型の商業施設や高層マンションが集まっている。	**Ⅰ　住民主体による協働のまちづくり**	コロナウィルス感染症の位置付けが第５類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動をできる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。	・地域住民の交流の場である「ふれあい事業」をコロナ禍前のようにまで戻していきたい。 ・サロンメニューに健康体操やリハビリメニューを取り入れ、健康意識を高めてフレイル予防につなげていきたい。	・「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」も、ほぼコロナ禍前の状態に戻していくことができた。また、コロナ禍により休止していた「ふれあい 食事サービス」も、徐々に再開することができた。	◎	【重点取組項目】 1（２）地域福祉を推進する団体等の交流やネットワークづくり 2（３）“みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	・高齢者の交流の場となる「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい食事サービス」等をさらに充実・活発にし、単身の（寂しい）高齢者が孤独感・疎外感を感じることのないようにしていきたい。また、地域活動従事者（住民ボランティア）がやりがいを感じられるような企画内容・結果にしていきたい。
	Ⅱ　誰もが暮らしやすい環境づくり		・詐欺被害を防げるような、新しい知識・情報を提供できる勉強会を実施したい。	・「ふれあい いきいきサロン」において、千葉西警察署による、詐欺被害防止に関する講座を実施した。 ・地域運営委員会が運営するホームページにより、真砂地区の地域情報を一括して提供し、地域活動の状況・様子を発信している。	◎	【重点取組項目】 6（10）誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信 ・夏祭り等の場を活用して情報発信を行う。 ・引続き、地域運営委員会のホームページで情報発信を行っていく。	・地域住民の福祉意識（支える⇄支えられる）を高め、まちの価値を高めていきたい。また、空き家対策についてまち全体で検討し、防災・防火対策や感染症対策等につなげていきたい。 ・真砂地区は詐欺被害が多いため、さらなる対策（情報提供・発信）を講じていきたい。
	Ⅲ　福祉を支える人づくり		・他団体との交流を行うことにより、地域福祉に関する知識・視野を広げていきたい。	・地区部会活動のＰＲを、音楽・芸能の発表によるイベント的な催物として開催（クリスマスコンサート）することにより、多くの人たち・地域住民に参加してもらうことで、活動の周知を行い、社協会員会費の増加にもつなげていくことができた。	◎	・地域支え合い活動「ささえあい まさご」への新規依頼者も増えてきていることから、様々なニーズに対応できるよう、新たな活動者（協力員・サポーター等担い手）の発掘や、すでに活動している方たちへの再研修等を行い、活動を継続・充実させていきたい。 ・福祉サービス提供事業者の活動（ヘルパーによる掃除等家事援助サービス）を隣近所の人や「ささえあい まさご」の従事者が確認（点検）し、より質の高いサービスの提供につなげていきたい。	・「支え合い」「見守り（安否確認）」の活動を行う「町内自治会」「社協」「地区部会」は活動の継続のため担い手を作っていくためにも「活動を見せる・見てもらう」ことが大事であり、そこから近所付き合いのあり方・距離感を考え直す機会にもしていきたい。 ・地域活動従事者（ボランティア・協力者）が活動にあたり達成感を感じられ、活動の士気・意欲が上がるようにすることで、新たな活動者の発掘をしていきたい。 ・特定の活動従事者に負担のかからないような仕組みを作り、活動の継続を図っていきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
ー：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針
磯辺地区部会エリア 令和５年３月３１日 時点 【人口・世帯数】 18,900人　8,282世帯 【町内自治会数】 28町内自治会（第３３地区連協） 【高齢化率】 35.19% 【地域の特徴】 ＪＲ京葉線検見川浜駅及び京葉線の線路の手前までで、西は花見川を挟んで打瀬に接し、東は草野水路を挟んで高浜に接する。 駅の南側周辺には中高層マンションや団地が建ちならび、ＵＲ都市機構の磯辺第一団地等の大規模な団地がある。その外側には、定住性の高い戸建の住宅地が海に向かって広がっており、中高層の団地・マンションなどが立ち並ぶ。海岸の手前には県立磯辺高校、県立千葉西高校があり、県救急医療センター、海浜病院などの公的機関が存在する。	**Ⅰ　住民主体による協働のまちづくり**	コロナウィルス感染症の位置付けが第５類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動をできる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。	・見守り活動は、４自治会で実施予定。 ・「ふれあい事業」を中心とした地区部会活動を徐々に再開（リ・スタート）させていきたい。 ・地区内の地域ルームを活用して、フリーな交流・集いの場として「サロン」を開設させ、出入り自由なお茶飲み場・おしゃべりの場を開設・提供していくと同時に、見守りとしての機能も果たしてきたい。	・自治会の自治会館を活用した「ミニサロン」を新規開設・再開することができ、気軽に出入りできるお茶飲み場・おしゃべりの場というフリーな交流・集いの場として提供していくと同時に、見守りの場としての機能も果たすことができた。	◎	・「ふれあい いきいきサロン」を当該自治会とその近隣の範囲程度で、「ミニサロン」として設置していけるよう注力していきたい。 ・高齢者の交流の機会の場として、地域の拠点である地域ルームで開催している「ゆるカフェ」を地域の高齢者に周知して、さらに充実させていきたい。 ・磯辺地区（３３地区連協）２８自治会の内４自治会で実施している「見守り活動」を継続させながら、さらに一歩進んだ「支え合い活動」へと転換させていきたい。	・地域課題の一つである高齢者福祉の推進にあたり、４自治会で実施している「見守り活動」を、「地域支え合い活動」へと展開・繋げていけるよう考えていきたい。 ・民生委員が窓口となって実施している「ミニサロン」を、さらに多くの自治会でも実施することを目指したい。 ・世帯の代替わりや新規流入者により、地区によっては若返っている自治会役員も出てきており、できる範囲で地域活動に参加してもらえるよう活動時間や活動内容に配慮していきたい。
	Ⅱ　誰もが暮らしやすい環境づくり		・地域の拠点となっている地域ルームの備品・設備等を充実させ清掃を行うことにより、地域住民の方たちが気持ちよく利用できるようにすることで、社協会員会費に協力いただいた方たちに地区部会活動がコロナ禍により停滞していた分を還元できるようにしていきたい。 ・磯辺地区の「地域支え合い活動」における、支え合いコーディネーター会議を再開させたい。 ・地区内の町内自治会を中心とした様々な「祭り」を再開させ、異年齢・多世代・世代間交流を活発化させていきたい。	・地域の拠点となっている地域ルームの備品・設備等を充実させ清掃を行うことにより、地域住民の方たちが気持ちよく利用できるようにすることで、社協会員会費に協力いただいた方たちに地区部会活動がコロナ禍により停滞していた分を還元することができた。 ・磯辺地区の「地域支え合い活動」における、支え合いコーディネーター会議を実施することはできなかった。 ・地区内の町内自治会を中心とした様々な「祭り」を再開させ（３ヶ所）、異年齢・多世代・世代間交流を行うことができた。	○	【重点取組項目】 ４（７）地域での助け合い活動の推進 ・磯辺地区（３３地区連協）で自治会単位で実施している「地域支え合い活動」について実施を検討している未実施の自治会に対し、実施に向けた啓発・説明を行っていきたい。 ６（12）オンラインや訪問相談等の活用による新しい情報伝達の仕組みづくり ・磯辺地区部会が主催する「ふれあい 子育てサロン」の様子・情報を、インスタグラムで発信させていきたい。	・高齢者に関する最初の相談窓口である「あんしんケアセンター」や生活困窮者への相談窓口である「生活自立・仕事相談センター」のＰＲを積極的に行い、地域高齢住民に対して存在・活用の周知をさらに行う必要がある。 ・高齢者や社会的弱者に関する課題に対して専門諸機関を連携させて活用が図れるようにしていきたい。 ・地域課題を共有して解決策や支援体制を構築していけるよう、街ぐるみで高齢者対策について考えていかなければならない。 ・地域情報の発信・回覧・連協会議資料・自治会費の集金等について、今後、地域活動においてもインターネットの活用等デジタル化対応について考えていく必要がある。
	Ⅲ　福祉を支える人づくり		・磯辺地区部会が主催する地区部会活動の担い手人材の発掘・養成を目的とした「ボランティア講座」を開催したい。 また、声かけ・口コミ等による開拓もしてみたい。	・磯辺地区部会が主催する「ボランティア講座」については、未だコロナウィルス感染の心配もあり、実施することができなかった。	×	【重点取組項目】 ８（15）ボランティア活動への参加促進 ・磯辺地区部会と３３地区連協の共催で、地域支え合い活動の実践者による話を未実施地区の自治会の方を対象に講演会を開催したい。 ・様々な地域団体が地域活動をしているところをツアー的に参加・体験・手伝いをしてもらうところから、活動の担い手を発掘・引き込んでいきたい。 ・時間と体力・活動力のある６０歳代にターゲットを絞って、地区部会活動の担い手として引き込んでいきたい。	・福祉に関わる「人」の確保と、その「質」の向上を目指すためには何をやるべきなのかを、よく考えていく必要がある。 ・これまでの社協 地区部会の活動をこれからも継続させて（成り立たせて）いくためには、地区部会の担い手（人材）の確保が大事であり、そのためにも、地区部会がやるべきことを確立し継続させていくことを磯辺地区全体で考えていきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
－：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針
幕張西地区部会エリア 令和５年３月３１日 時点 【人口・世帯数】 11,862人　4,889世帯 【町内自治会数】 15町内自治会（第３０地区連協） 【高齢化率】 20.68% 【地域の特徴】 区の北西端に位置した国道14号と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。 浜田川を挟んで東側は花見川区幕張町、国道14号を挟んで北側は花見川区幕張本郷、西側は習志野市、南側は浜田に接している。 国道沿いにはゴルフ練習施設のほか、商業店舗が立ち並んでいるほかは、戸建て住宅地域が広がっている。 国道14号より海側はかつての海岸線であるが、幕張西地区よりも埋め立ての時期が早かった地域については花見川区幕張町に編入されている。	**Ⅰ　住民主体による協働のまちづくり**	コロナウィルス感染症の位置付けが第５類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動をできる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。	・研修バス旅行を再開させたい。 ・「ふれあい食事サービス」を再開させたい。 ・育成委員会による小学生を対象とした「水ようかんづくり」を開催し、食育の啓発や世代間交流を行っていきたい。	・地区内高齢者を対象とした、研修バス旅行を実施した。 ・コロナ禍により休止していた「ふれあい 食事サービス」を再開することができた。 　また、「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」も徐々にコロナ禍前の状態に戻していくことができた。 ・育成委員会による小学生を対象とした「水ようかんづくり」を開催し、食育の啓発や世代間交流を行うことができた。	◎	【重点取組項目】 ２（３）“みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築 ・幕張西地区部会が主催して、小学３年生以上を対象とした「料理教室」を開催する。 ・「幕西５６５６食堂」（地域子ども食堂）を地元のスーパーからの支援や助成金を受けながら開催させていきたい。	・幕張西地区部会エリア（３０地区連協）１５自治会の内、見守り活動が立ち上げられていない２自治会に対して、引き続き「見守り活動」の実施について働きかけていきたい。
	Ⅱ　誰もが暮らしやすい環境づくり		・幕張西地区部会が主催するふれあい いきいきサロン「いきいきマルシェ」のサロンメニューの検討を行い、サロンを活性化させていきたい。 ・幕張西地区部会が発行する広報紙「YOU＆I（ゆーあい）」の紙面をさらに充実させて地域情報の発信を図っていきたい。	・幕張西地区部会が主催するふれあい いきいきサロン「いきいきマルシェ」のサロンメニューを検討しながらを開催し、近隣住民のふれあいの場となるよう努めた。 ・幕張西地区部会が発行する広報紙「YOU＆I（ゆーあい）」を従来どおり年度間２回、これまで以上に充実した内容で発行することができた。 ・３０地区連協が主催する「夏祭り」を、再開した昨年度よりも内容を充実させて開催することができた。	◎	【重点取組項目】 ３（５）町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり ・幕張西地区部会エリア（３０地区連協）において、安全・安心のまちづくりを目指して秋頃に防災訓練を実施する予定。	・３０地区連協が主催する「夏祭り」が、地域住民の交流の場・親睦の場・地域づくりの場としてこれからも継続して開催させていけるよう地域内の各団体と連携・協力していきたい。
	Ⅲ　福祉を支える人づくり		・行事（公演会）の開催、声かけ（口コミ）や広報紙を通じて地域活動の担い手を発掘していきたい。	・幕張西地区部会が、「ボランティア講座」を開催し、地域住民に対して地区部会の存在や活動を周知し、地域活動参加への呼びかけを行うことができた。	◎	・「ふれあい食事サービス」の活動についてはヘルスメイト・町内自治会・社協 地区部会が協働して取り組んできたい。 　また、参加者にも声かけを行い、手伝ってもらうことから新たな人材を発掘していきたい。	・地域活動の担い手不足は現実的な問題となっており、活動継続のためにも新たな人材を発掘していきたい。 ・再開された「ふれあい 食事サービス」の調理ボランティアを発掘していく必要性がある。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和５年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
－：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針
打瀬地区部会エリア 令和５年３月３１日 時点 【人口・世帯数】 24,778人　9,254世帯 【町内自治会数】 27町内自治会（第４７地区連協） 【高齢化率】 11.57% 【地域の特徴】 東側は花見川、西側・南側は幕張海浜公園、北側はＪＲ京葉線の線路に囲まれた幕張新都心地区の高層マンション地区。 他の幕張新都心地区と同様に県企業庁により計画的に整備され、沿道中庭式の中層住宅を中心に、石畳風の道路舗装やデザインされた信号機などヨーロッパ風の街並み景観で統一されている。 中心部には図書館と公民館の複合施設である「ベイタウンコア」があり、各種活動の中心となっているほか、プロムナードやバレンタイン通り沿いの住戸を中心に1階には幕張ベイタウン商店街振興組合の店舗が軒を連ねている。 平成24年にはシーサイドデッキが完成し、海沿いの幕張海浜公園・幕張の浜エリアへの動線が確保され、海がより近い存在となった。	**Ⅰ　住民主体による協働のまちづくり**	コロナウィルス感染症の位置付けが第５類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動をできる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。	・打瀬地区部会では、コロナ禍により活動自粛（中断）せざるを得なかった「ふれ食・バス旅行・おやこカフェ」等の事業を、より魅力的な企画・工夫をしてコロナ後（アフターコロナ）に見合った活動としてなるべく早期に再開（リ スタート）させたい。 ・５月に「ベイタウンまつり」を開催。家族の輪・地域住民の輪づくりやフレイル予防等、子どもから高齢者までが街に出てきてもらうことを目的として４年ぶりに実施。延べ２万人位の人が集まった。今後も、商店会や育成委員会と協働して夏祭り・盆踊り・ハロウィンイベント等を実施していきたい。	・打瀬地区部会では、コロナ禍により活動自粛（中断）せざるを得なかった「ふれ食・バス旅行・おやこカフェ」等の各種活動事業について、より魅力的な企画・工夫をしてコロナ後（アフターコロナ）に見合った活動にしていくことや既存事業の拡充・事業の廃止等、様々な角度から検証・検討を行っていった。 ・５月に「ベイタウンまつり」を開催。子どもから高齢者までが街に出てきてもらうことを目的として実施した。８月に「夏祭り」を開催。１０月に「ハロウィンイベント」「コアフェスタ」を開催。１２月に幕張メッセ 国際会議場において「幕張新都心 クリスマスイベント」を開催。１月に「ベイタウンマラソン大会」「餅つき大会」を実施。３月に「備えパーク」（防災対策）を実施した。街全体の事業として４７地区連協を中心に商店会や育成委員会と協働して実施することができた。	◎	【重点取組項目】 ２（４）防犯・防災対策を通じた地域づくり ・防災対策として「備えパーク」を引き続き実施し、いざという時の消防・防災・ペット対応等について学んでいきたい。 ・令和５年度に実施した左記事業については、引き続き継続して実施し、各事業を地域に根付かせていきたい。	・各種団体・組織による事業において、地域のニーズ（要望）に応じながら各事業を継続させていき、根付かせ、一定期間（３年程度）を過ぎたところで振り返り、評価していくというルーティーン（流れ・仕組み）が必要である。 ・打瀬地区部会・４７地区連協と地区内の商店会・民間企業等と、連携・協働しながら街づくりを進め、強化し、地域住民の期待・楽しみに応えて行けるようにしていきたい。 ・防災対策・要支援者対策について、ベイタウンの街区単位で対応・完結できるよう各住民に対しても意識づけをしていきたい。
	Ⅱ　誰もが暮らしやすい環境づくり		・打瀬地区部会が実施する「ＶＲ発達障害体験会」や認知症に関する映画の上映会を、引き続き実施していくことにより障害に対する理解をさらに深め、障害者やその家族に対する支援へと発展させていけるようにしていきたい。 ・「グリーンスローモビリティ」の実用化に向けた勉強会を実施し、街のにぎわいや街全体の認知度が高まるよう検討していきたい。 ・「子ども円卓会議」で実施している「あいさつ運動」を今後、校内から街なかでの実施にまで広げていきたい。 ・ベイタウン内を子どもたちが街歩きしながらゴミを拾い集める「ベイタウン クリーン作戦」を実施し、今後、子どもだけでなく大人（保護者・地域住民）にも参加してもらえるようにしていきたい。	・打瀬地区部会が実施する「ＶＲ認知症体験会」「ＶＲ発達障害体験会」や認知症に関する映画の上映会（ケアニン）を、計画どおり開催し、認知症・発達障害等に対する理解をさらに深めていくことができた。 ・「グリーンスローモビリティ」の勉強会を実施した。 ・「子ども街歩きクリーン作戦」では、ゴミ拾いをしながら幕張メッセを視察する等地域内の施設に協力を得ながら地域に還元できるような 活動を実施することができた。	◎	【重点取組項目】 ３（５）町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり ・ベイタウン商店会が運営するコミュニティスペース「絆」において、認知症カフェ・麻雀サークル・音楽会・書道教室等が開催されている。 ・打瀬地区部会が実施する「子育て・発達障害勉強会」や認知症に関する映画の上映会を実施し、発達障害・認知症等に対する理解を深め、支援していくことに繋げていきたい。 ・「グリーンスローモビリティ」の本格実証調査行い交通弱者を外に出やすくするという目標に向けて運用方法について検討していきたい。 ・「子ども街歩きクリーン作戦」では、地域内のゴミ拾いをすることから環境問題に関心を持ってもらうため、夏祭りでの特典を付ける等して多くの子ども達に参加してもらえるよう工夫していきたい。	・打瀬地区部会では、障害を持つ人とその家族に対する支援を引き続き行い、強化していきたいと考えており、障害に対する正しい理解を得たうえで、当事者やその家族への支援の意識を定着・高めて行けるようにしたい。 発達障害に対する支援も浸透させ、親御さんが気軽に集まれるような場所（フリースペース）を設けていきたい。また、その悩みに個別に応えていけるような機会を作っていきたい。
	Ⅲ　福祉を支える人づくり		・打瀬地区部会では、今年度も引き続き地域活動担い手の発掘・養成を目的とした「ボランティア講座」を実施。地域住民の興味が湧くような・ニーズに応えた講座を開催していきたい。	・打瀬地区部会が主催する「ボランティア講座」等を年度間６回開催し、地域住民に対して地区部会の存在や活動を周知し、地域活動参加への呼びかけを行うことができた。	◎	【重点取組項目】 ８（14）ボランティア人材の育成 ８（15）ボランティア活動への参加促進 ・打瀬地区部会が主催するボランティア講座「健康フェスティバル」は、地域に根付いてきていることから引き続き今年度も実施し、開催することにより地域住民に対し地区部会の周知や活動参加への呼びかけを行っていきたい。 ・市立海浜病院が主催する地域住民の健康増進を目的とした打瀬地区住民向けの「糖尿病予防セミナー」を開催し、地域内施設の地域貢献活動に協働していきたい。	・地域住民が興味を持ってもらえるような企画のイベントを地区内各種団体・組織と連携して実施したい。実施により参加した住民が主催者側に関心を持ってもらうことにより「人づくり・担い手の発掘」につなげていきたい。また地域づくり・地域福祉に関心を持ってもらい、世代を超えてお互いが気軽に声を掛けあえる・手を差し伸べられるような環境を作っていきたい。 ・地域活動を行うボランティア・担い手の発掘にあたっては、漠然と募集・探すのではなく、活動してほしい分野・テーマをしぼって募集すると集まりやすいのではないかと思われるので今後、募集にあたっての声のかけ方についても工夫をしていきたい。